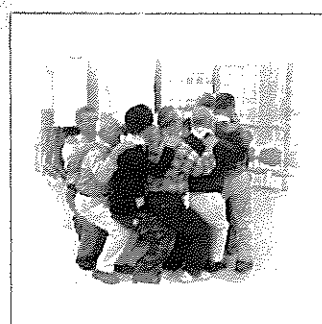
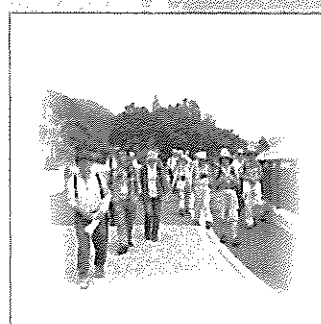
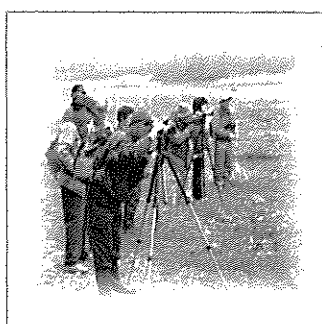
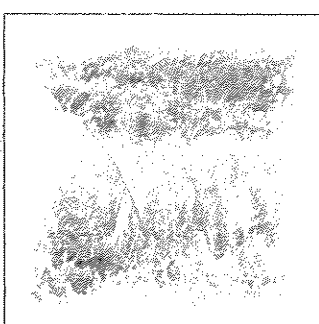
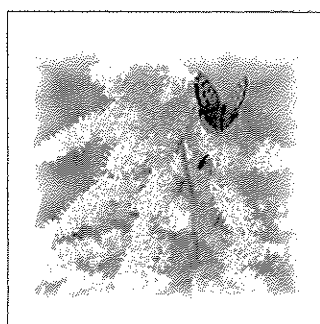
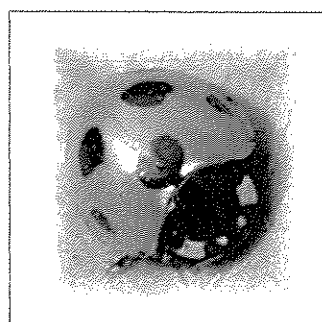
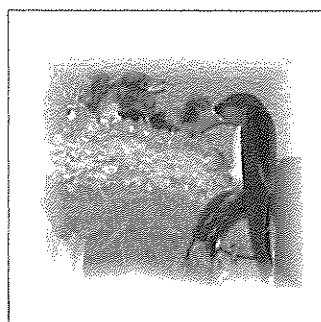
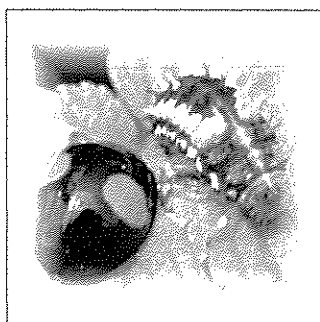


平成18年度

相模原市自然環境観察員制度 年次報告書



相模原市

はじめに

相模原市では、市民と行政が一体となって本市の自然環境を調査することにより、身近な自然に目を向け自然環境に対する関心を高め、環境保全意識の高揚を図るとともに大切な自然を監視・保全していくための基礎資料を継続的に集積していくため、平成13年度に市民ボランティアによる「自然環境観察員制度」を設置しました。

18年度は、103名の皆様のご参加をいただき、調査の企画やセミナーの運営にもご協力をいただきながら、13年度に行った全体テーマ調査「ツバメの巣分布調査」等の追跡調査や、新たに設置した「野鳥調査部会」と「河川生物相調査部会」等の専門部会調査などの身近な生きもの調査をはじめ様々な活動を実施することができました。

また、平成18年4月からは相模原市立環境情報センターの開設に伴い活動の拠点を移し、これまでの活動に加え、活動成果の展示発表会や子どもたちへの環境学習の指導を行うなど、確実にその成果を挙げることができました。

この報告書は、その一年間の自然環境観察員の皆様一人ひとりが「今の相模原の自然」を注意深く、生きものたちの命の息遣いを感じながら、地道に調査した記録や活動内容をまとめたものです。

活動結果や皆様から寄せられたご意見を活かし、相模原市の自然環境がよりよいものになるよう、また、本制度が市民の皆様方に根付き、活動の輪が広がるよう、本書をご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本制度の運営にあたりご協力をいただきました、自然環境観察員の皆様に心からお礼申し上げます。

平成19年 3月

相模原市立環境情報センター

目 次

第1章 自然環境観察員制度について	1
1 自然環境観察員の募集	1
2 自然環境観察員制度の概要	1
3 実施内容	2
第2章 身近な生きものの調査	3
1 全体テーマ調査	3
1. 1 調査区域とテーマの選定	3
1. 2 ツバメの巣分布調査	8
1. 3 帰化植物（セイタカアワダチソウ）分布調査	19
1. 4 テントウムシ分布調査	26
2 自主テーマ調査	34
2. 1 自主テーマ調査の目的・実施方法	34
2. 2 自主テーマ調査の紹介	34
3 任意参加調査	35
3. 1 任意参加調査の目的・実施方法	35
3. 2 ツバメの巣の分布調査	35
4 専門部会調査	38
4. 1 専門部会の設置	38
4. 2 植物調査部会	38
4. 3 湧水調査部会	39
4. 4 河川生物相調査部会	40
4. 5 野鳥調査部会	41
第3章 かんきょう学習セミナー	45
1 かんきょう学習セミナー	45
1. 1 第1回かんきょう学習セミナー	45
1. 2 第2回かんきょう学習セミナー	45
1. 3 第3回かんきょう学習セミナー	45
1. 4 第4回かんきょう学習セミナー	46

1. 5	第5回かんきょう学習セミナー	46
1. 6	第6回かんきょう学習セミナー	46
1. 7	第7回かんきょう学習セミナー	46
1. 8	第8回かんきょう学習セミナー	47
第4章 企画会議		48
1	企画会議	48
1. 1	第1回企画会議	48
1. 2	第2回企画会議	48
第5章 その他の活動		48

資料編

- 調査の手引き
 - ツバメの巣分布調査
 - 帰化植物（セイタカアワダチソウ）分布調査
 - テントウムシ分布調査
- 自然観察かわらばん
 - 自然観察かわらばん12号
 - 自然観察かわらばん（植物調査部会版6号）
 - 自然観察かわらばん（野鳥調査部会版1号）
 - 自然観察かわらばん（湧水調査部会版7号）
- 寄せられたご意見・ご感想一覧

第1章 自然環境観察員制度について

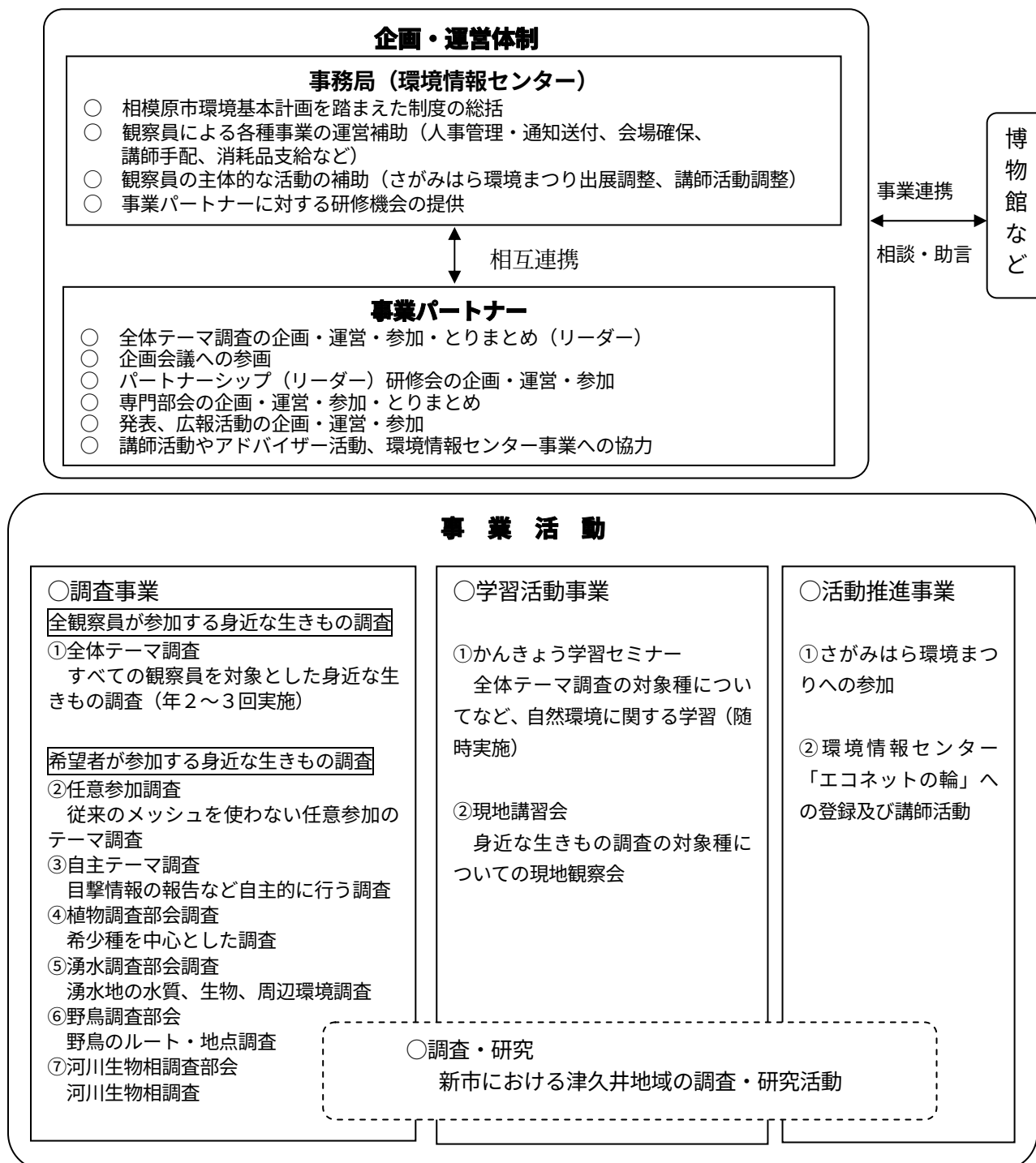
1 自然環境観察員の募集

観察員の募集は「広報さがみはら」（平成18年3月1日号）などで行いました。

様々な世代の方からご応募をいただき、103名の方を「相模原市自然環境観察員」として登録しました。

2 自然環境観察員制度の概要

本制度では「身近な生きもの調査」及び「かんきょう学習セミナー」を主要事業とし、環境情報センターの開所に合わせ、今年度からの運営及び活動について、次のとおりとしました。



3 実施内容

(1) 身近な生きものの調査

	調査項目		実施時期
1	全体テーマ調査	ツバメの巣分布調査	平成 18 年 4 月 30 日～ 7 月 6 日
		帰化植物（セイタカアワダチソウ）分布調査	平成 18 年 9 月 30 日～11 月 19 日
		テントウムシ分布調査	平成 18 年 10 月 1 日～11 月 5 日
2	自主テーマ調査		平成 18 年 4 月 20 日～平成 19 年 2 月 10 日
3	専門部会調査	植物調査部会	平成 18 年 7 月 25 日 他
		湧水調査部会	平成 19 年 3 月 17 日
		野鳥調査部会	平成 18 年 7 月 11 日 他
		河川生物相調査部会	平成 18 年 6 月 23 日 他
4	任意参加調査	ツバメの巣分布調査	平成 18 年 4 月上旬～平成 18 年 8 月 1 日

(2) かんきょう学習セミナー

	実施内容	実施日	参加者数
1	自然環境観察員制度について ツバメと環境について 相模原探鳥会 内田 英樹さん ツバメの巣分布調査について 自然環境観察員 眞山 正彦さん	平成 18 年 4 月 23 日	63 人
2	津久井地域観察会 自然環境観察員 小林 義博さん	平成 18 年 7 月 8 日	24 人
3	セイタカアワダチソウとススキについて アジア航測（株） 藤本 真宗さん 調査のしかたについて 自然環境観察員 西田 和子さん テントウムシと環境について アジア航測（株） 藤本 真宗さん 調査のしかたについて 自然環境観察員 西田 和子さん	平成 18 年 9 月 24 日	55 人
4	プロジェクトワイルド講習会（公開講習会） 麻布大学専任講師 村山 史世さん	平成 18 年 10 月 22 日	17 人
5	相模原市の山々をハイキングするための講座（公開講座） NPO 法人相模湖町山岳協会理事長 大田 顕成さん	平成 18 年 11 月 19 日	39 人
6	ヤマビル生態と防除対策講座（公開講座） ヤマビル研究会 谷 重和さん・石川 恵理子さん	平成 18 年 11 月 19 日	30 人
7	相模湖地域観察会	平成 18 年 12 月 10 日 (雨天中止)	――
8	津久井地域の自然環境調査からみた植生等について アジア航測（株） 染矢 貴さん 平成 18 年度調査結果について 平成 19 年度事業計画について	平成 19 年 2 月 4 日	39 人

第2章 身近な生きものの調査

1 全体テーマ調査

1. 1 調査区域とテーマの選定

相模原市は、平成18年3月に津久井町と相模湖町と、平成19年3月には城山町と藤野町と合併し、市域の面積は90.40km²から、約3292km²に拡大、かつ、丹沢などの山々や相模湖などの湖沼をもつ市へと変わりました。

こうしたことから、新たな相模原市総合計画や相模原市環境基本計画の策定作業が進められ、平成18年度からは津久井地域の自然環境基礎調査が行われています。

自然環境観察員制度は、平成10年度から12年度までに行われた旧相模原地域の自然環境基礎調査結果が反映された現在の相模原市環境基本計画に基づき運営していることから、本制度における身近な生きものの調査も、新環境基本計画が策定されるまでは、津久井地域の観察会などの学習会は実施するものの、自然環境基礎調査情報のある旧相模原地域を中心に実施することになりました。

さて、今回の全体テーマ調査では、従来のとおり、旧相模原市内を500mのメッシュに区分し、観察員さんごとに担当のメッシュを決め、このメッシュを単位として生きものの調査を行い、調査結果をとりまとめました。(図1-1・表1-1参照)

調査テーマについては、観察員さんのご意見を伺いながら、企画会議で検討し、これまでに調査を行ってきた指標動植物種の追跡調査を行うこととし、調査対象種については13年度に調査をした、次の3テーマを選びました。

- 生育地の環境の変化を捉える「ツバメの巣分布調査」
- 生息地の環境の変化を捉える「帰化植物（セイタカアワダチソウ）分布調査」
- 生息地の環境の変化を捉える「テントウムシ分布調査」



凡 例

調査対象外

図 1-1

メッシュ見取り図

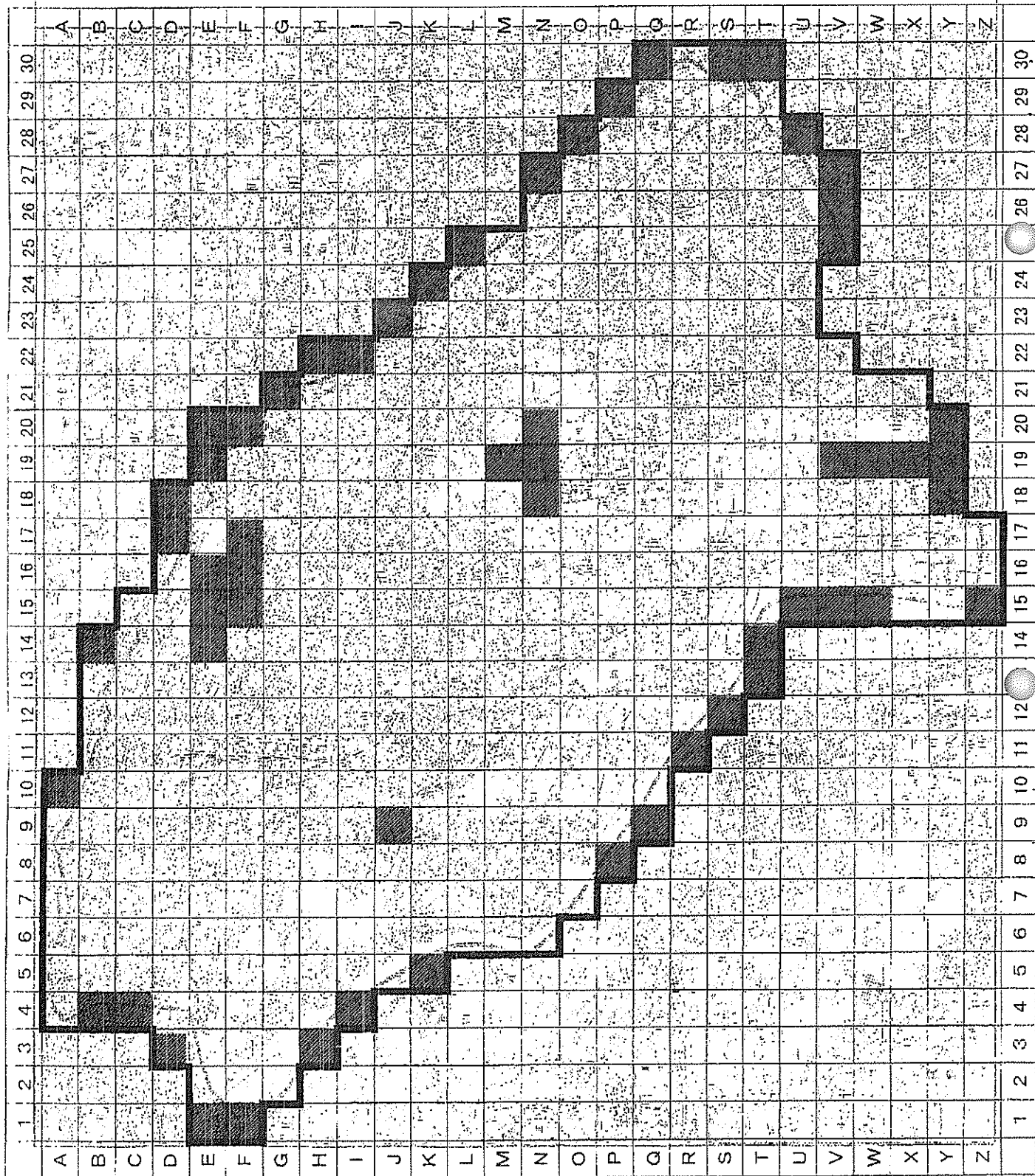


表1-1 メッシュ一覧

メッシュ 番号	目印	メッシュ 番号	目印
A04	相原6丁目付近	F13	清新1丁目付近
A05	相原児童館	F14	JR相模原駅
A06	当麻田小学校	F18	上矢部3丁目付近
A07	相原・元橋本町、JR横浜線	F19	淵野辺2丁目相模つばさ幼稚園付近
A08	元橋本町、国道16号	G02	相模川、諏訪森下ポンプ場
A09	橋本5丁目付近	G03	内水面試験場
B05	相原小学校	G04	老人福祉センター溪松園
B06	相原2丁目、星の子保育園	G05	大島1663付近
B07	相原中学校	G06	大沢小
B08	橋本高校	G07	上九沢357付近、九沢小学校
B09	旭小学校	G08	大沢団地
B10	北消防署	G09	下九沢1187付近
B11	東橋本3丁目蓮乗院、宮上児童館	G10	国道129号東ブレ付近
B12	東橋本ひまわり保育園	G11	日本電気橋本技術センター、JR相模線
B13	宮下本町3丁目、境川坂本橋	G12	清新6丁目付近
C05	二本松こどもセンター	G13	清新小学校
C06	二本松1丁目付近	G14	相模原7丁目付近
C07	西橋本4丁目付近	G15	相模原6丁目付近
C08	西橋本2丁目、橋本公園	G16	矢部1丁目付近、JR横浜線
C09	橋本駅・相原高校西	G17	上矢部住宅、上矢部保育園
C10	橋本駅・相原高校東、ミウヰ橋本	G18	麻布大学、淵野辺高校
C11	東橋本1丁目、相模原みどり幼稚園	G19	防衛庁科学研究所
C12	東橋本2丁目付近	G20	淵野辺本町1丁目付近、境川宮前橋
C13	宮下本町3丁目、小山白ゆり幼稚園	H04	相模川
C14	宮下本町2丁目	H05	大島3045付近、榎戸
C15	宮下本町2丁目、境川小山橋	H06	大島1725付近、日々神社裏
D04	下九沢内出緑地、城山町境	H07	営農センター
D05	二本松2丁目、下九沢内出緑地	H08	田名2674付近
D06	橋本台4丁目、能開大学校	H09	下九沢1348付近、九沢橋
D07	橋本台3丁目、峡の原工業団地	H10	下九沢団地
D08	西橋本1丁目付近	H11	南橋本4丁目、昭和電線電纜
D09	国道16号橋本変電所付近	H12	小町通2丁目、清新学校給食センター
D10	大山町、旭中学校東	H13	清新中学校
D11	小山4丁目、小山公園	H14	相模原消防署
D12	宮下1丁目付近	H15	相模原市役所
D13	宮下2丁目付近	H16	矢部2丁目
D14	すすきの町付近	H17	JR矢部駅
D15	宮下本町1丁目付近	H18	淵野辺総合病院
D16	宮下本町1丁目、中央境川	H19	淵野辺小学校
E02	大島419付近	H20	淵野辺本町2丁目付近
E03	市営上九沢団地	H21	淵野辺本町3丁目付近
E04	大島1377付近、内出交差点	I05	大島2589付近、神沢地区
E05	下九沢内出交差点付近	I06	大島2067付近
E06	下九沢2470付近	I07	田名2431付近、三菱重工業西
E07	相模原北公園、北の丘センター	I08	田名3000付近、三菱重工業
E08	北部粗大ごみ受入施設	I09	田名2818付近、葛輪
E09	橋本台1丁目付近	I10	下九沢作の口456付近
E10	国道16号、セントラル自動車南	I11	横山台1丁目付近、横山小学校
E11	小山小・中学校、JR相模線	I12	横山台2丁目付近
E12	小山	I13	相模原高校
E13	向陽町、JR横浜線	I14	農協本店
E17	上矢部1丁目付近	I15	税務署
E18	上矢部2丁目付近、御嶽神社	I16	中央公民館
F02	諏訪森下	I17	国道16号鹿沼台交差点
F03	大島630付近、ビレッジ若あゆ	I18	鹿沼公園、市立図書館
F04	上大島1180付近	I19	共和中学校
F05	大島小学校、大蔵寺墓地	I20	青山学院大学
F06	上九沢100付近	I21	淵野辺本町4丁目付近
F07	下九沢1850付近、六地藏交差点	J05	相模川
F08	上中の原団地	J06	古清水自治会館、清岩寺
F09	下九沢1673付近	J07	田名2286付近、三菱重工業南
F10	南橋本3丁目柴胡が原霊園	J08	田名3000付近、三菱重工業
F11	JR南橋本駅	J10	上溝4069付近、四ッ谷
F12	清新4丁目付近、国道16号	J11	上溝1丁目横山丘陵緑地(姥沢地区)

メッシュ 番号	目印	メッシュ 番号	目印
J12	横山台2丁目横山丘陵緑地(日金沢上地区)	M23	西大沼1丁目付近
J13	横山公園、さがみはらグリーンプール	M24	市営斎場、東清掃事業所
J14	星が丘1丁目付近	M25	鵜野森1丁目、グリーンハイツ
J15	千代田5丁目付近	N06	相模川小沢頭首工
J16	千代田7丁目付近	N07	水郷田名
J17	相生3丁目付近	N08	田名半在家・陽原
J18	国道16号高根淵野辺十字路付近	N09	相模原田名団地
J19	国道16号共和4丁目付近	N10	田名7675付近
J20	共和2丁目付近	N11	田名7621付近
J21	JR横浜線東淵野辺1丁目付近	N12	国道129号上溝2283付近
J22	東淵野辺2丁目付近	N13	JR番田駅、けやきの子幼稚園
K06	田名1605付近	N14	上溝612付近
K07	田名2077付近	N15	虹吹清泉の郷
K08	田名3317付近	N16	緑が丘分署
K09	田名3871付近	N17	相模原浄水場
K10	国道129号上溝3955付近	N21	大野台8丁目、木もれびの森
K11	上溝3丁目、鳩川幼稚園	N22	大野台中学校
K12	上溝5丁目、上溝中央	N23	東大沼2丁目、市慰霊塔
K13	JR上溝駅、上溝中学校	N24	若松1丁目付近、相模原南警察
K14	星が丘公民館	N25	鵜野森中学校
K15	OKストア	N26	鵜野森団地、境川森野橋
K16	並木小学校	007	相模川高田橋
K17	弥栄小・中学校	008	相模川、望地弁天キャンプ場
K18	市立博物館、国民生活センター	009	田名8577付近
K19	由野台2丁目付近	010	田名9659付近
K20	国道16号共和交差点付近	011	田名9333付近
K21	国道16号嶽の内入口付近	012	田名9930付近、テクノパル田名工業団地
K22	東淵野辺4丁目、JR横浜線	013	上溝南高
K23	JR古淵駅北側、古淵1丁目	014	上溝1017付近
L06	田名1384付近、相模川	015	下溝70付近
L07	田名1864付近、堀の内	016	下溝古山公園スポーツ広場
L08	田名四ッ谷、田名北小学校	017	神奈川中央交通麻溝操車場
L09	田名4137付近	018	北里大学
L10	田名4187付近	019	麻溝台高校
L11	上溝2513付近、上溝・石橋ふれあいの森	020	北里2丁目、相模原ゴルフクラブ
L12	上溝元町	021	西大沼4丁目、木もれびの森
L13	上溝3101付近	022	西大沼3丁目付近
L14	陽光台小学校	023	大沼小学校
L15	陽光台保育園、陽光園	024	若松3丁目
L16	上溝保育園	025	若松小学校
L17	青葉児童館、淵野辺公園西	026	鵜野森3丁目付近
L18	淵野辺公園、松が丘1丁目	027	上鶴間本町2丁目、小田急線
L19	大野台3丁目付近	P09	田名望地
L20	大野台1丁目付近	P10	リバーサイド田名ホーム
L21	大野台2丁目付近、大野文化幼稚園	P11	田名塩田、カインズホーム
L22	国道16号老人ホーム入口	P12	テクノパル田名工業団地
L23	JR古淵駅南、イトーヨーカドー	P13	上溝100付近
L24	JR横浜線古淵4丁目付近	P14	当麻994付近
M06	田名幼稚園、宗祐寺	P15	下溝300付近、上中丸緑地
M07	田名堀の内、相模川ふれあい科学館	P16	下溝316付近
M08	田名小・中学校	P17	相模原沈殿池
M09	田名5306付近	P18	麻溝台1丁目1番付近
M10	相模田名高校	P19	日産自動車相模原部品センター
M11	田名7167付近	P20	北里大学東病院
M12	上溝南中学校	P21	南部粗大ごみ受入施設、木もれびの森
M13	南上溝保育園、亀ヶ池八幡宮	P22	西大沼5丁目
M14	上溝1498付近、道保川公園西	P23	若松6丁目、誠心第一幼稚園
M15	道保川公園、陽光台公民館	P24	神奈川総合産業高校
M16	緑が丘1丁目付近	P25	相模女子大学、相模大野高校
M17	緑が丘2丁目公園	P26	相模大野中央公園、国道16号
M18	青葉3丁目付近	P27	小田急線行幸道路交差付近
M20	大野台2丁目、ゲイマーぶどう園	P28	谷口小学校
M21	大野台5丁目、木もれびの森	Q10	相模川
M22	大野台小学校	Q11	田名病院

メッシュ 番号	目印	メッシュ 番号	目印
Q12	田名塩田3丁目付近	T25	東林3丁目付近
Q13	当麻天満宮、夢の丘小学校	T26	東林出張所・公民館
Q14	光明学園相模原高校、相模原養護学校	T27	上鶴間7丁目付近
Q15	JR原当麻駅北側	T28	上鶴間中学校
Q16	下溝455付近	T29	くぬぎ台保育園
Q17	県立相模原公園	U16	三段の滝下広場
Q18	県立相模原公園	U17	相陽中学校、誠心相陽幼稚園
Q19	麻溝台工業団地、KYB	U18	勝坂遺跡公園スポーツ広場
Q20	麻溝台2丁目、ニコン	U19	新磯野、相武台中学校北
Q21	麻溝台中学校	U20	相武台分署
Q22	双葉小学校	U21	相武台団地
Q23	御園1丁目付近	U22	相模台3・4丁目
Q24	谷口台小学校	U23	相模台2丁目、(座間市相模が丘)
Q25	南合同庁舎	U24	小田急相模原駅、相南4丁目
Q26	小田急相模大野駅	U25	相南2丁目付近
Q27	相模大野7丁目、国道16号	U26	東林分署
Q28	上鶴間本町6丁目付近	U27	東林間8丁目付近
Q29	上鶴間本町8丁目付近	V16	磯部頭首工
R12	相模川、相模原ポンプ場	V17	勝坂遺跡
R13	如来堂	V18	磯部2114付近
R14	当麻708付近、水田	V20	相武台グリーンパーク
R15	麻溝小学校	V21	相武台小学校
R16	下溝922付近、天応院	V22	行幸道路、村富線交差付近
R17	麻溝公園スポーツ広場	W16	磯部932付近
R18	相模原麻溝公園	W17	新磯小学校、新磯保育園
R19	麻溝台3055付近	W18	磯部2000付近
R20	麻溝台7丁目付近	W20	新磯野3丁目付近
R21	麻溝台5丁目付近	W21	相武台3丁目付近
R22	御園4丁目付近	X15	相模川
R23	御園2丁目付近、上鶴間(米軍住宅地)	X16	新戸、水田
R24	豊町付近、上鶴間(米軍住宅地)	X17	新戸2571付近
R25	県高相合同庁舎	X18	新磯高校
R26	相模大野9丁目付近、小田急江ノ島線	X20	キャンプ座間No4ゲート
R27	上鶴間分署	X21	相武台1丁目付近
R28	国道16号、上鶴間公民館	Y15	新戸スポーツ広場北側
R29	上鶴間本町7丁目付近	Y16	新戸653付近
R30	上鶴間本町8丁目付近、境川鶴金橋	Y17	JR相武台下駅北側
S13	昭和橋上流河川敷	Z16	JR相武台下駅西側地域、水田
S14	当麻2420付近	Z17	JR相武台下駅南側
S15	当麻1654付近、水田		
S16	下溝1192付近		
S17	相陽台ホーム		
S18	廃棄物処分場		
S19	麻溝台3655付近		
S20	相模台7丁目付近		
S21	相模台中学校、国立相模原病院		
S22	相模台小学校		
S23	南台4丁目、上鶴間(米軍住宅)		
S24	南台4丁目付近		
S25	東林間2丁目付近、鶴の台小学校		
S26	東林間4丁目付近		
S27	くぬぎ台小学校		
S28	上鶴間2丁目付近		
S29	上鶴間本町9丁目		
T15	相模川		
T16	JR下溝駅		
T17	下溝2661付近		
T18	峰山霊園		
T19	新磯野		
T20	若草中学校		
T21	相模台団地		
T22	相模台出張所・公民館		
T23	南台5丁目付近		
T24	南台3丁目、松が枝町、小田急線		

1. 2 ツバメの巣分布調査

自然環境観察員制度では、これまでにさまざまな指標動植物種の分布調査をしてきました。
今回は、平成13年度に調査をしたツバメの巣の分布について、旧相模原市地域を対象に追跡調査を実施しました。

(1) 調査期間

平成18年4月30日～7月6日（設定期間5月7日～6月30日）

(2) 調査方法

担当メッシュ内を歩き、商店街、人家、駅、歩道橋の下など、ツバメの巣のありそうな場所を探していただきました。見つけた巣については、ツバメの種類や巣があった建物の種類、素材、高さ、場所などを記録し、確認地点を地図に記入していただきました。

(3) 調査結果

今回は、ツバメの巣の確認状況、ツバメの巣がある建物の種類、建物の高さ、建物素材、巣の場所、巣の高さについて、平成13年度の調査と比較して報告します。

① ツバメの巣の確認状況

表2-1 ツバメの巣の確認状況 (単位；メッシュ数)

調査年度	巣あり	巣なし	未調査	合 計
H13	171	129	59	359
H18	163	182	14	359
増 減	▲8	53	▲45	—

※市内の総メッシュ数は417ですが、調査除外メッシュ58があるため調査対象メッシュは359です。

※平成13年度の合計メッシュは420メッシュですが、ここでは、18年度調査対象メッシュに対応する359メッシュを抽出して比較しています。

※巣あり／巣なしのメッシュ数には担当メッシュ以外に行った任意調査の結果を含めています。

図2-1

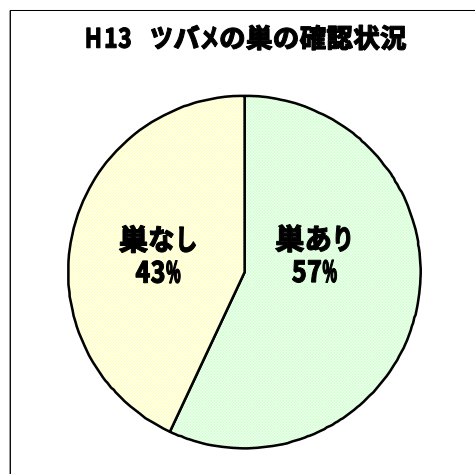
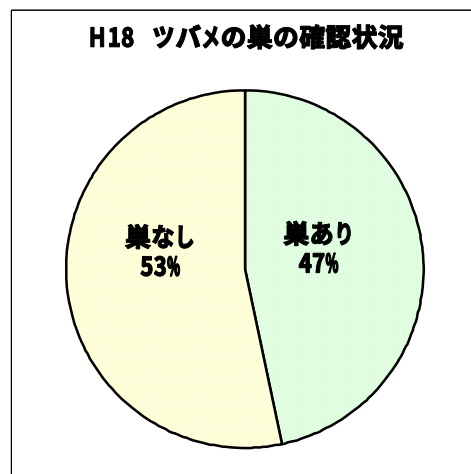


図2-2



注) 合計メッシュから未調査メッシュを除いた割合です。

② 周辺環境

表 2-2 ツバメの巣がある建物の種類

(単位：箇所数)

	調査 年度 等	軒 家	学 校	商 店	ガソリン スタンド	マンション ・ ビル	橋・歩道 橋	駅	岩 場・ 崖	工 場	そ 他	合 計
ツバメ	H13	371	5	40	4	35	0	0	0	12	53	520
	割合	71.3%	1.0%	7.7%	0.8%	6.7%	0%	0%	0%	2.3%	10.2%	100%
	H18	264	12	30	4	30	0	0	0	3	22	365
	割合	72.3%	3.3%	8.2%	1.1%	8.2%	0%	0%	0%	0.8%	6.1%	100%
	増減	1.0%	2.3%	0.5%	0.3%	1.5%	0%	0%	0%	▲1.5%	▲4.1%	-
コシアカツバメ	H13	2	0	1	0	1	0	0	0	0	3	7
	割合	28.6%	0%	14.3%	0%	14.3%	0%	0%	0%	0%	42.8%	100%
	H18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	増減	71.4%	0%	▲14.3%	0%	▲14.3%	0%	0%	0%	0%	▲42.8%	-
イワツバメ	H13	7	12	0	0	1	0	0	0	2	18	40
	割合	17.5%	30.0%	0%	0%	2.5%	0%	0%	0%	5.0%	45.0%	100%
	H18	2	5	1	0	2	1	2	0	1	2	16
	割合	12.5%	31.1%	6.3%	0%	12.5%	6.3%	12.5%	0%	6.3%	12.5%	100%
	増減	▲5.0%	1.1%	6.3%	0%	10.0%	6.3%	12.5%	0%	1.3%	▲32.5%	-
ヒメアマツバメ	H13	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	6
	割合	0%	16.7%	33.3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50.0%	100%
	H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	増減	0%	▲16.7%	▲33.3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	▲50.0%	-
その他	H13	31	1	3	0	7	0	0	0	2	7	51
	割合	60.8%	2.0%	5.9%	0%	13.7%	0%	0%	0%	3.9%	13.7%	100%
	H18	5	1	0	0	1	0	0	0	0	1	8
	割合	62.5%	12.5%	0%	0%	12.5%	0%	0%	0%	0%	12.5%	100%
	増減	1.7%	10.5%	▲5.9%	0%	▲1.2%	0%	0%	0%	▲3.9%	▲1.2%	-
合計	H13	411	19	46	4	44	0	0	0	16	84	624
	割合	65.9%	3.0%	7.4%	0.6%	7.1%	0%	0%	0%	2.6%	13.4%	100%
	H18	272	18	31	4	33	1	2	0	4	25	390
	割合	69.7%	4.6%	8.0%	1.0%	8.5%	0.3%	0.5%	0%	1.0%	6.4%	100%
	増減	3.8%	1.6%	0.6%	0.4%	1.6%	0.3%	0.5%	0%	▲1.6%	▲7.0%	-

※報告書が未記入の分は「その他」に含む。

表 2-3 ツバメの巣がある建物の高さ

(単位：箇所数)

	調査 年度 等	1階	2階	3階以上	その他	合計
ツバメ	H13	189	284	28	20	521
	割合	36.3%	54.5%	5.4%	3.8%	100%
	H18	96	232	28	9	365
	割合	26.3%	63.6%	7.7%	2.4%	100%
	増減	▲10.0%	9.1%	2.3%	▲1.4%	-
コシアカ ツバメ	H13	1	1	4	1	7
	割合	14.3%	14.3%	57.1%	14.3%	100%
	H18	0	1	0	0	1
	割合	0%	100%	0%	0%	100%
	増減	▲14.3%	85.7%	▲57.1%	▲14.3%	-
イフ ツバメ	H13	8	9	22	2	41
	割合	19.5%	22.0%	53.7%	4.8%	100%
	H18	5	6	4	1	16
	割合	31.3%	37.4%	25.0%	6.3%	100%
	増減	11.8%	15.4%	▲28.7%	1.5%	-
ヒメアマ ツバメ	H13	1	2	2	1	6
	割合	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	100%
	H18	0	0	0	0	0
	割合	0%	0%	0%	0%	0%
	増減	▲16.7%	▲33.3%	▲33.3%	▲16.7%	-
その他	H13	25	17	6	4	52
	割合	48.1%	32.7%	11.5%	7.7%	100%
	H18	3	4	1	0	8
	割合	37.5%	50.0%	12.5%	0%	100%
	増減	▲10.6%	17.3%	1.0%	▲7.7%	-
合計	H13	224	313	62	28	627
	割合	35.7%	49.9%	9.9%	4.5%	100%
	H18	104	243	33	10	390
	割合	26.7%	62.3%	8.5%	2.5%	100%
	増減	▲9.0%	12.4%	▲1.4%	▲2.0%	-

表 2-4 ツバメの巣がある建物の素材

(単位：箇所数)

	調査 年度 等	木造	コンクリート	鉄	その他	合計
ツバメ	H13	304	148	8	60	520
	割合	58.5%	28.5%	1.5%	11.5%	100%
	H18	233	107	10	15	365
	割合	63.8%	29.3%	2.7%	4.2%	100%
	増減	5.3%	0.8%	1.2%	▲7.3%	-
コシアカ ツバメ	H13	0	2	0	1	3
	割合	0%	66.7%	0%	33.3%	100%
	H18	1	0	0	0	1
	割合	100%	0%	0%	0%	100%
	増減	100%	▲66.7%	0%	▲33.3%	-
イフ ツバメ	H13	9	32	1	2	44
	割合	20.5%	72.7%	2.3%	4.5%	100%
	H18	2	13	1	0	16
	割合	12.5%	81.2%	6.3%	0%	100%
	増減	▲8.0%	8.5%	4.0%	▲4.5%	-
ヒメアマ ツバメ	H13	0	5	0	1	6
	割合	0%	83.3%	0%	16.7%	100%
	H18	0	0	0	0	0
	割合	0%	0%	0%	0%	0%
	増減	0%	▲83.3%	0%	▲16.7%	-
その他	H13	26	23	0	2	51
	割合	51.0%	45.1%	0%	3.9%	100%
	H18	4	2	1	1	8
	割合	50.0%	25.0%	12.5%	12.5%	100%
	増減	▲1.0%	▲20.1%	12.5%	8.6%	-
合計	H13	339	210	9	66	624
	割合	54.3%	33.7%	1.4%	10.6%	100%
	H18	240	122	12	16	390
	割合	61.5%	31.3%	3.1%	4.1%	100%
	増減	7.2%	▲2.4%	1.7%	▲6.5%	-

表 2-5 ツバメの巣がある場所

(単位：箇所数)

	調査 年度 等	軒下	外壁	室内	その他	合計
ツバメ	H13	413	55	19	33	520
	割合	79.4%	10.6%	3.7%	6.3%	100%
	H18	308	34	12	11	365
	割合	84.4%	9.3%	3.3%	3.0%	100%
	増減	5.0%	▲1.3%	▲0.4%	▲3.3%	-
コシアカ ツバメ	H13	4	0	0	3	7
	割合	57.1%	0%	0%	42.9%	100%
	H18	1	0	0	0	1
	割合	100%	0%	0%	0%	100%
	増減	42.9%	0%	0%	▲42.9%	-
イフ ツバメ	H13	29	1	2	8	40
	割合	72.5%	2.5%	5.0%	20.0%	100%
	H18	4	10	0	2	16
	割合	25.0%	62.5%	0%	12.5%	100%
	増減	▲47.5%	60.0%	▲5.0%	▲7.5%	-
ヒメアマ ツバメ	H13	3	1	0	2	6
	割合	50.0%	16.7%	0%	33.3%	100%
	H18	0	0	0	0	0
	割合	0%	0%	0%	0%	0%
	増減	▲50.0%	▲16.7%	0%	▲33.3%	-
その他	H13	39	7	0	5	51
	割合	76.5%	13.7%	0%	9.8%	100%
	H18	5	2	1	0	8
	割合	62.5%	25.0%	12.5%	0%	100%
	増減	▲14.0%	11.3%	12.5%	▲9.8%	-
合計	H13	488	64	21	51	624
	割合	78.2%	10.3%	3.4%	8.1%	100%
	H18	318	46	13	13	390
	割合	81.6%	11.8%	3.3%	3.3%	100%
	増減	3.4%	1.5%	▲0.1%	▲4.8%	-

表 2-6 ツバメの巣の高さ

(単位：箇所数)

	調査 年度 等	1m 未満	1 ～ 2 m未満	2 ～ 3 m未満	3～4 m未満	4 ～ 5 m未満	5 ～ 6 m未満	6 ～ 7 m未満	7 ～ 8 m未満	8 ～ 9 m未満	9 ～ 10 m未満	10 m以上	その他	合計
ツバメ	H13	3	3	254	147	35	27	26	12	3	0	1	9	520
	割合	0.6%	0.6%	48.8%	28.3%	6.7%	5.2%	5.0%	2.3%	0.6%	0%	0.2%	1.7%	100%
	H18	0	3	184	84	32	30	11	5	3	0	6	7	365
	割合	0%	0.8%	50.4%	23.0%	8.8%	8.2%	3.0%	1.4%	0.8%	0%	1.7%	1.9%	100%
	増減	▲0.6%	0.2%	1.6%	▲5.3%	2.1%	3.0%	▲2.0%	▲0.9%	0.2%	0%	1.5%	0.2%	-
コンファツバメ	H13	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	1	1	7
	割合	0%	0%	0%	42.9%	0%	28.6%	0%	0%	0%	0%	14.3%	14.2%	100%
	H18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	増減	0%	0%	皆増	皆減	0%	皆減	0%	0%	0%	0%	皆減	皆減	-
イワツバメ	H13	1	0	5	8	3	8	4	1	1	3	2	4	40
	割合	2.5%	0%	12.5%	20.0%	7.5%	20.0%	10.0%	2.5%	2.5%	7.5%	5.0%	10.0%	100%
	H18	0	0	4	1	2	4	0	0	0	0	5	0	16
	割合	0%	0%	25.0%	6.3%	12.5%	25.0%	0%	0%	0%	0%	31.2%	0%	100%
	増減	皆減	0%	12.5%	▲13.7%	5.0%	5.0%	皆減	皆減	皆減	皆減	26.2%	皆減	-
ヒメアマツバメ	H13	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	1	1	6
	割合	0%	0%	33.3%	16.7%	0%	16.7%	0%	0%	0%	0%	16.7%	16.6%	100%
	H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	増減	0%	0%	皆減	皆減	0%	皆減	0%	0%	0%	0%	皆減	皆減	-
その他	H13	0	0	12	25	3	6	3	0	0	0	0	2	51
	割合	0%	0%	23.5%	49.0%	5.9%	11.8%	5.9%	0%	0%	0%	0%	3.9%	100%
	H18	0	0	4	2	0	0	1	0	0	1	0	0	8
	割合	0%	0%	50.0%	25.0%	0%	0%	12.5%	0%	0%	12.5%	0%	0%	100%
	増減	0%	0%	26.5%	▲24.0%	皆減	皆減	6.6%	0%	0%	皆増	0%	皆減	-
合計	H13	4	3	273	184	41	44	33	13	4	3	5	17	624
	割合	0.6%	0.5%	43.8%	29.5%	6.6%	7.1%	5.3%	2.1%	0.6%	0.5%	0.8%	2.6%	100%
	H18	0	3	193	87	34	34	12	5	3	1	11	7	390
	割合	0%	0.8%	49.5%	22.3%	8.8%	8.8%	3.1%	1.3%	0.8%	0.3%	2.8%	1.5%	100%
	増減	皆減	0.3%	5.7%	▲7.2%	2.2%	1.7%	▲2.2%	▲0.8%	0.2%	▲0.2%	2.0%	▲1.1%	-

図 2-3

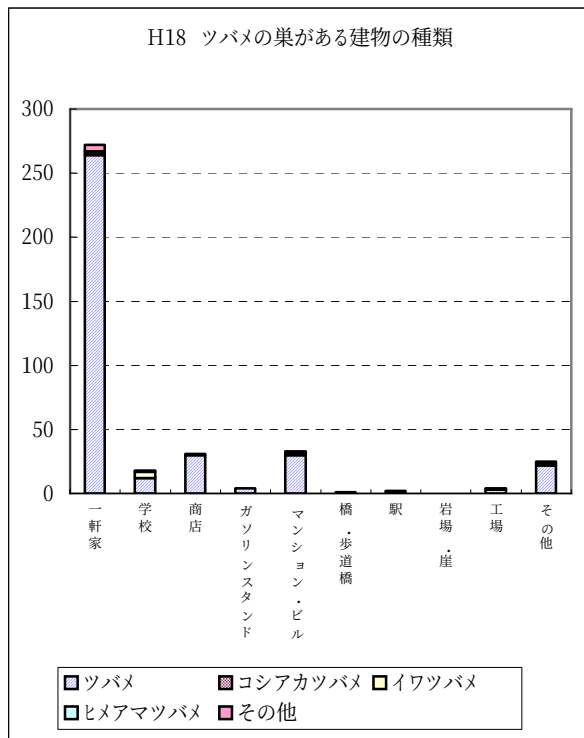


図 2-4

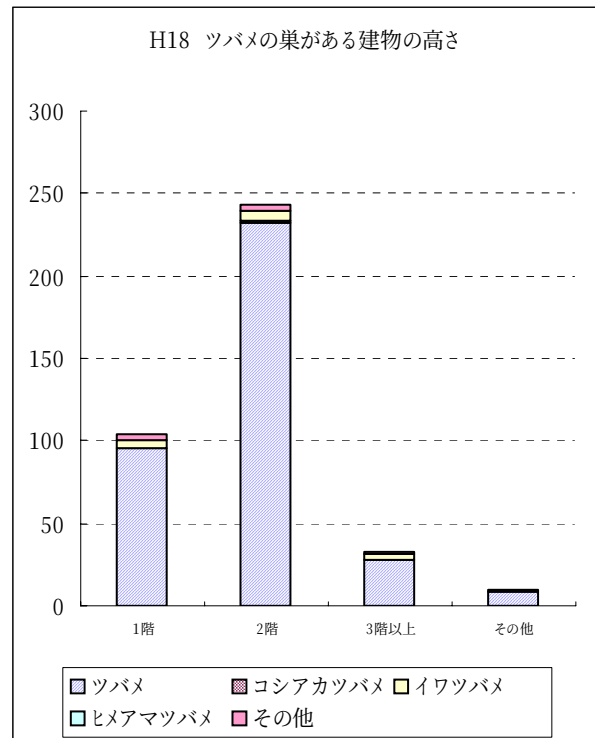


図 2-5

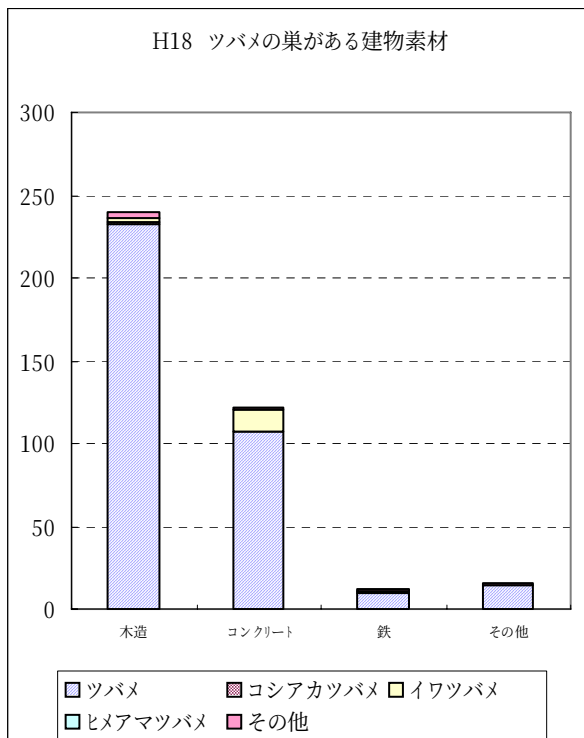


図 2-6

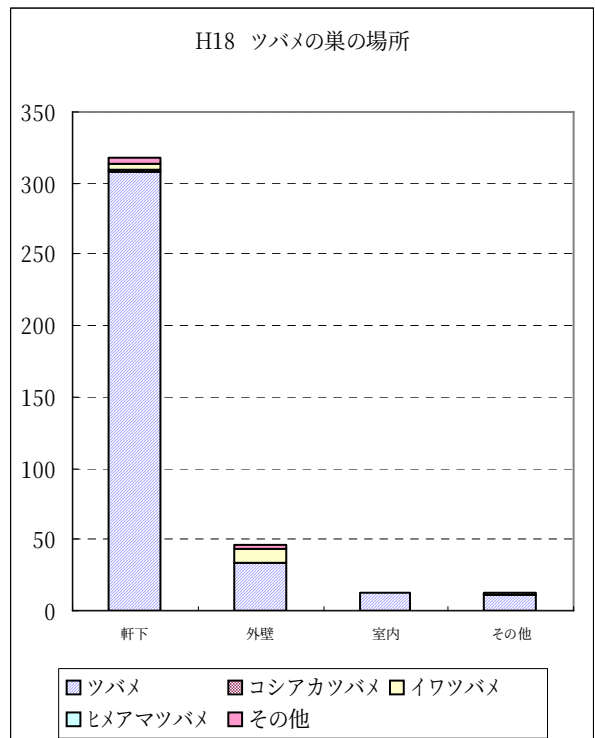
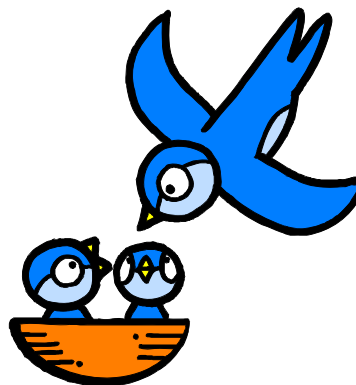
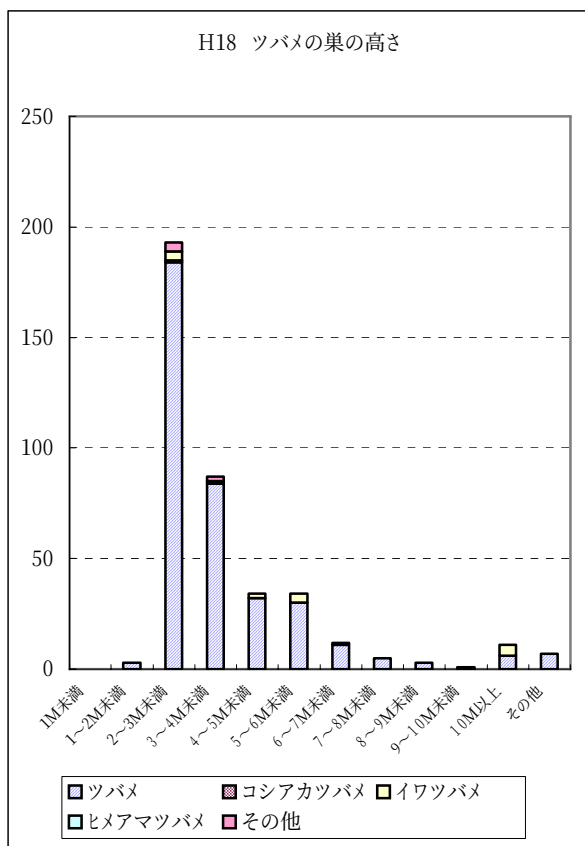


図 2-7



(4) まとめ

今回のツバメの巣の確認状況については、表 2-1 のとおり、巣ありのメッシュが 171 メッシュ (H13) から 8 メッシュ減少し 163 メッシュ (H18) でした。全体の 359 メッシュから未調査メッシュを除く状況を見ると、巣が確認されたメッシュの割合は約 57% (H13) から約 10% 減少し、約 47% (H18) でした。(図 2-1、2-2)

また、ツバメの巣の確認数も、624 件 (H13) から 4 割程度も減少し 390 件 (H18) でした。

旧相模原市域の調査対象メッシュを台地部 (上段と中段)、斜面部、低地部等に分類し、比較してみると、大部分が市街地である台地部での減少が顕著でした。都市化が進み、エサとなる昆虫や巣材となる泥の入手が難しくなったことがあげられます。さらに橋本から相模大野に至る上段の市街地と中段の台地部とで分けて比較してみたところ、中段の台地部には農地や丘陵地等があり、エサや泥が容易に入手でき、生息しやすい環境があるものと想像していましたが、確認メッシュ数がかなり減少していました。

このことから、カラスの存在や巣から落ちる糞が嫌われて営巣を歓迎しない人の影響などもあるのではないかと推察され、身近な生きものであるツバメ類は今後も減少していくことが危惧されます。

調査したツバメ類のうち、ツバメの巣は約 72% が一軒家に営巣していましたが、やはり市街地での減少が顕著で、520 件 (H13) あった確認報告が、約 3 割減って 365 件 (H18) となりました。

高層建築物や橋などへの営巣を足がかりに分布を広げてきたイワツバメの巣は、40 件 (H13) から 16 件 (H18) に減少しました。営巣の場所は前回と同様、主に学校で確認されています。

ツバメの巣がある建物の種類や建物の高さ、建物の素材、巣がある場所や巣の高さについては、それぞれ表2-2から表2-6に集計結果がありますが、一軒家（木造）の軒下に営巣される割合が高いということが分かります。この結果は、平成13年度の調査結果と比べてもほぼ同じような結果となりました。

都市化が進み、住宅地が増えるという点では、人間を盾にした巣の防御が容易になることから、人とツバメ類が共存できるのでは？と思いますが、都市化の進行によって、エサとなる昆虫や巣材となる泥の入手が困難になっていること、都市部でのカラスの増加などによる生態系の変化のほか、長年にわたって、農業害虫を食べる益鳥というイメージから、人との間により関係を作ってきたツバメ類に対して、ヒナが落とす糞を嫌ってツバメの営巣を歓迎しない傾向があることも、ツバメの巣の減少原因として考えなくてはならない結果となりました。

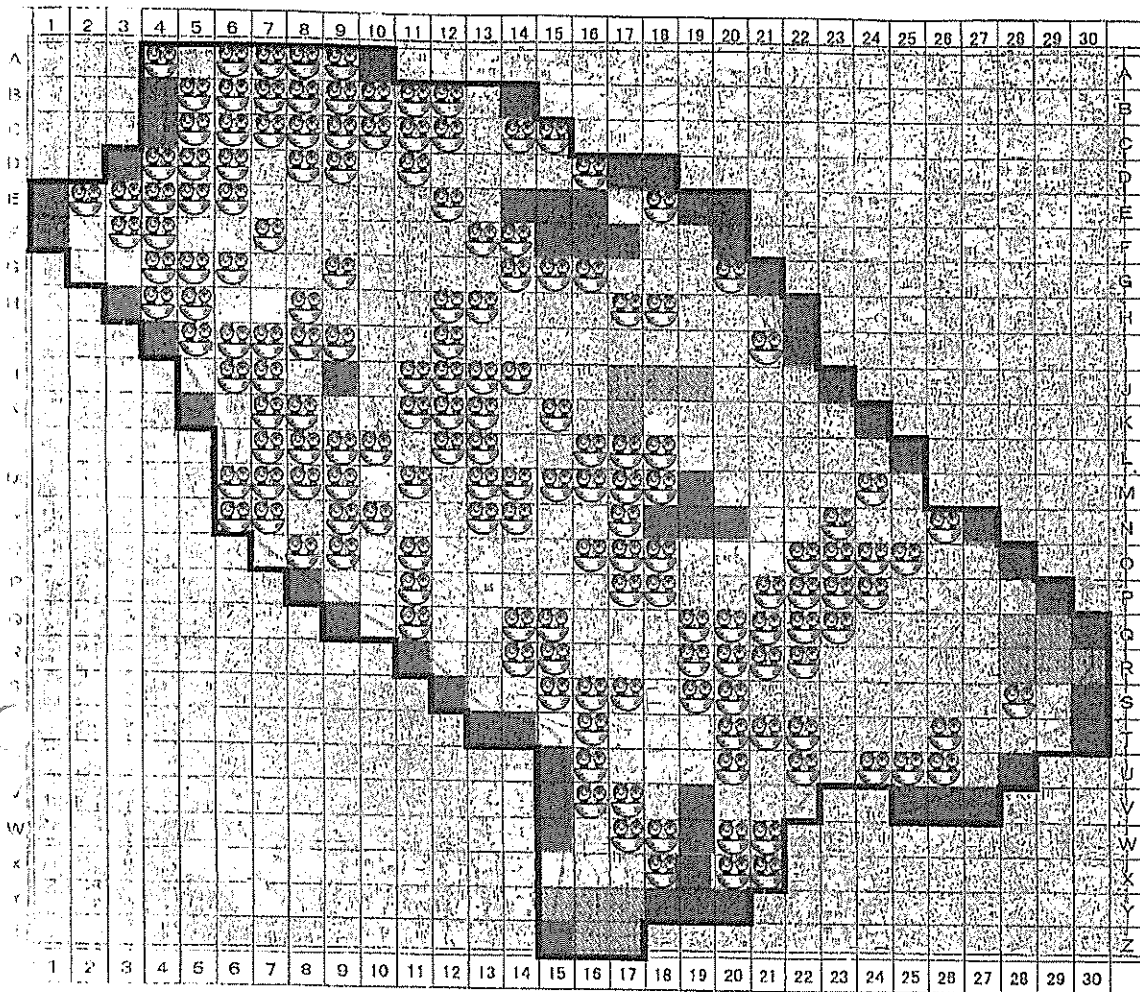
都市化によってツバメ類の減少が予想されるという状況は、今回の調査結果から分かるように相模原市においても同様であったと考えます。

なお、ツバメとコシアカツバメは2006年版神奈川県レッドデータブック※1に「減少種」※2としてランクされました。

※1 レッドデータブックとは、絶滅のおそれのある生物種の中をとりあげ、自然の保護における優先順位を決定する手助けとなる種の分布や生息状況などの情報をまとめた本で、IUCN（国際自然保護連合）が1966年に初めて作成しました。日本においても、環境省や水産庁がレッドデータブックを発行しており、各都道府県や学会においても独自のレッドデータブックが作成されています。

神奈川県においても、1995年に[神奈川県立生命の星・地球博物館](#)により「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」が作成され、これらの情報を基に神奈川県レッドデータブックが作成されています。

※2 減少種とは、過去と比較すると分布域は減少しているが、当面は県内において生存が可能であると考えられる種。

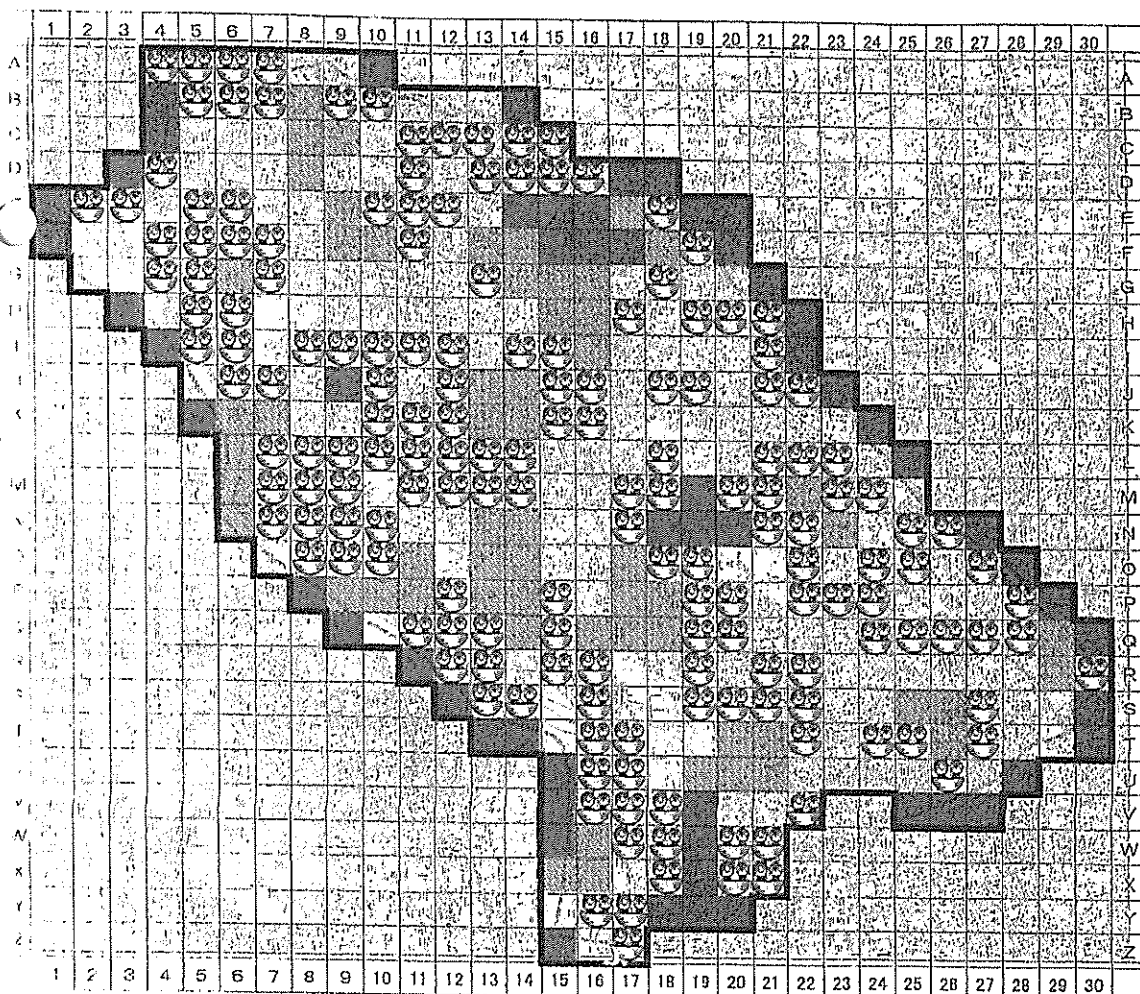


凡 例

- 調査対象外
- 未調査メッシュ
- 🐦 確認メッシュ

図 2-8

ツバメ類の巣が確認された
メッシュの分布図
(平成18年調査)



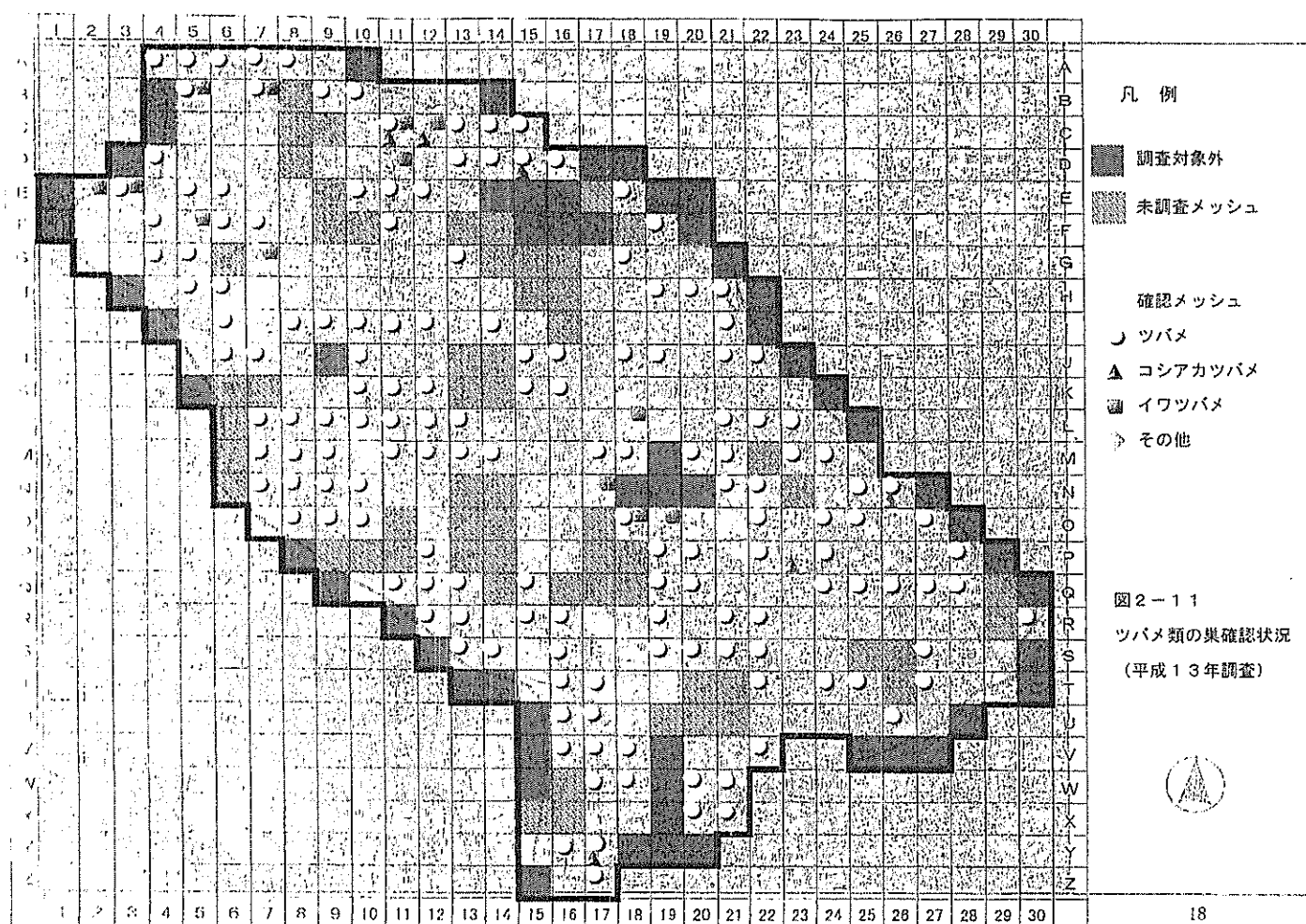
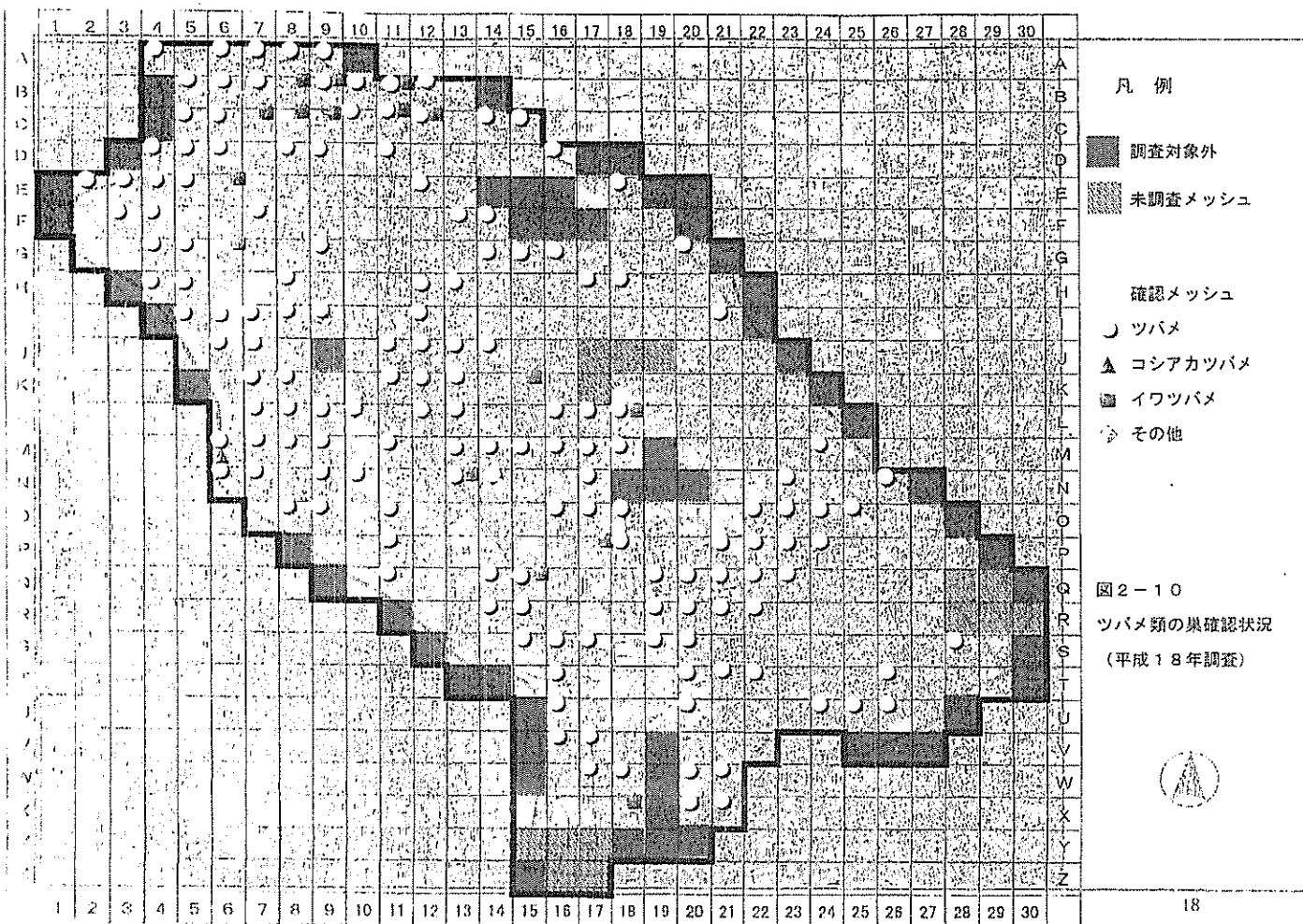
凡 例

- 調査対象外
- 未調査メッシュ
- 🐦 確認メッシュ

図 2-9

ツバメ類の巣が確認された
メッシュの分布図
(平成13年調査)





1. 3 帰化植物（セイタカアワダチソウ）分布調査

自然環境観察員制度では、これまでにさまざまな帰化植物の分布調査をしてきました。

今回は、平成13年度に調査をしたセイタカアワダチソウの分布について、旧相模原市地域を対象に追跡調査を実施しました。

(1) 調査期間

平成18年9月30日～11月19日（設定期間10月1日～10月31日）

(2) 調査方法

担当メッシュ内を歩き、空き地（駐車場）、道路や線路沿いなど、セイタカアワダチソウとススキが生えていそうな場所を探していただきました。見つけたセイタカアワダチソウとススキ（オギを除く）については、生育地の環境や生育規模などを記録し、確認地点を地図に記入していただきました。

(3) 調査結果

今回は、セイタカアワダチソウとススキの確認状況、生育地の周辺環境、生育規模について、平成13年度の調査と比較して報告します。

① セイタカアワダチソウとススキの確認状況

表3-1 セイタカアワダチソウとススキの確認状況（単位；メッシュ数）

調査年度	セイタカアワダチソウのみを確認したメッシュ	セイタカアワダチソウとススキを確認したメッシュ	ススキのみを確認したメッシュ	セイタカアワダチソウもススキも確認なしのメッシュ	未調査メッシュ	合 計
H13	31	191	22	24	91	359
H18	57	256	5	19	22	359
増 減	26	65	▲17	▲5	▲69	—

※市内の総メッシュ数は417ですが、調査除外メッシュ58があるため調査対象メッシュは359です

※平成13年度の合計メッシュは420メッシュですが、ここでは、18年度調査対象メッシュに対応する359メッシュを抽出して比較しています。

図3-1

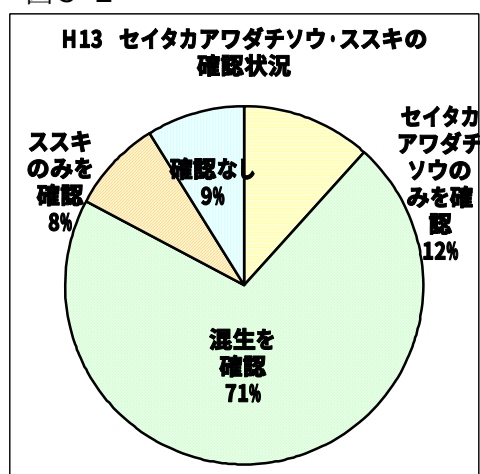
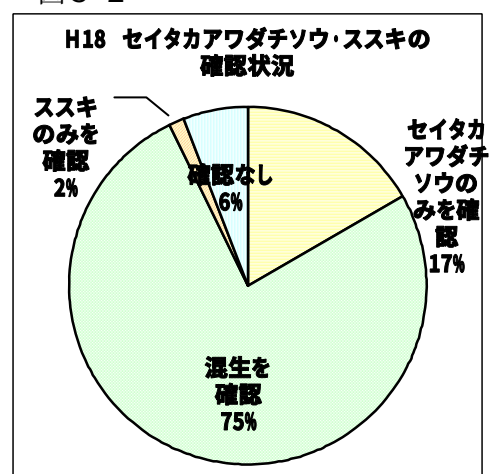


図3-2



注) 合計メッシュから未調査メッシュを除いた割合です。

② 周辺環境

表3-2 生育地の周辺環境

(単位：箇所数)

項 目 確認状況	調査 年度等	駐車場 (空地)	線路 沿い	道路 沿い	公園	林縁	河原 (水路) 沿い	その他	合計
セイウ アダン のみ	H13	253	17	144	4	18	72	149	657
	割合	38.5%	2.6%	21.9%	0.6%	2.7%	11.0%	22.7%	100%
	H18	392	58	296	23	33	74	356	1,232
	割合	31.8%	4.7%	24.0%	1.9%	2.7%	6.0%	28.9%	100%
	増減	▲6.7%	2.1%	2.1%	1.3%	0%	▲5.0%	6.2%	—
混 生	H13	100	17	39	2	3	45	74	280
	割合	35.7%	6.1%	13.9%	0.7%	1.1%	16.1%	26.4%	100%
	H18	79	23	51	3	12	54	103	325
	割合	24.3%	7.1%	15.7%	0.9%	3.7%	16.6%	31.7%	100%
	増減	▲11.4%	1.0%	1.8%	0.2%	2.6%	0.5%	5.3%	—
ススキのみ	H13	120	30	107	5	17	69	125	473
	割合	25.4%	6.3%	22.6%	1.1%	3.6%	14.6%	26.4%	100%
	H18	113	41	151	21	9	45	144	524
	割合	21.6%	7.8%	28.8%	4.0%	1.7%	8.6%	27.5%	100%
	増減	▲3.8%	1.5%	6.2%	2.9%	▲1.9%	▲6.0%	1.1%	—

※報告書が未記入の分は「その他」に含む。

③ 生育規模

表3-3 生育規模

(単位：箇所数)

項 目 確認状況	調査 年度等	数本 (10本程度)	およそ 100㎡未満	およそ 100㎡以上	不 明	合 計
セイウ アダン のみ	H13	364	226	49	18	657
	割合	55.4%	34.4%	7.5%	2.7%	100%
	H18	656	401	159	16	1,232
	割合	53.3%	32.6%	12.9%	1.2%	100%
	増減	▲2.1%	▲1.8%	5.4%	▲1.5%	—
混 生	H13	58	124	81	17	280
	割合	20.7%	44.3%	28.9%	6.1%	100%
	H18	78	118	123	6	325
	割合	24.0%	36.3%	37.9%	1.8%	100%
	増減	3.3%	▲8.0%	9.0%	▲4.3%	—
ススキのみ	H13	259	167	39	8	473
	割合	54.8%	35.3%	8.2%	1.7%	100%
	H18	313	156	47	8	524
	割合	59.8%	29.8%	9.0%	1.4%	100%
	増減	5.0%	▲5.5%	0.8%	▲0.3%	—

図 3 - 3

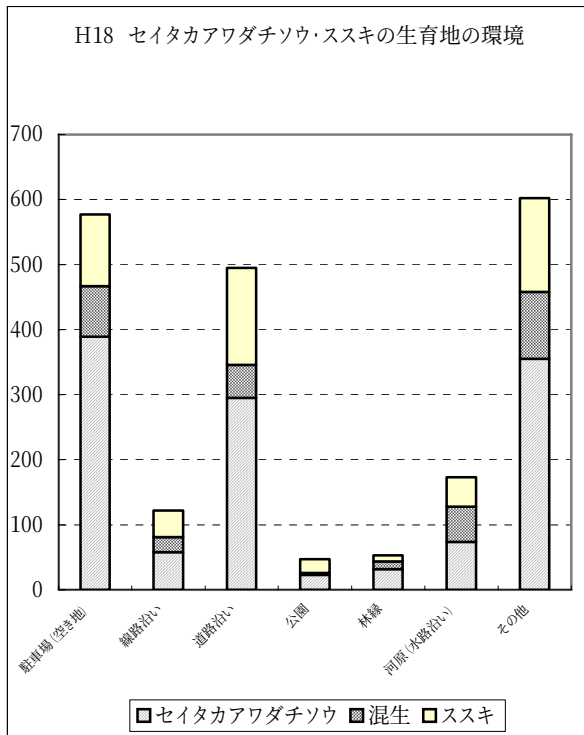
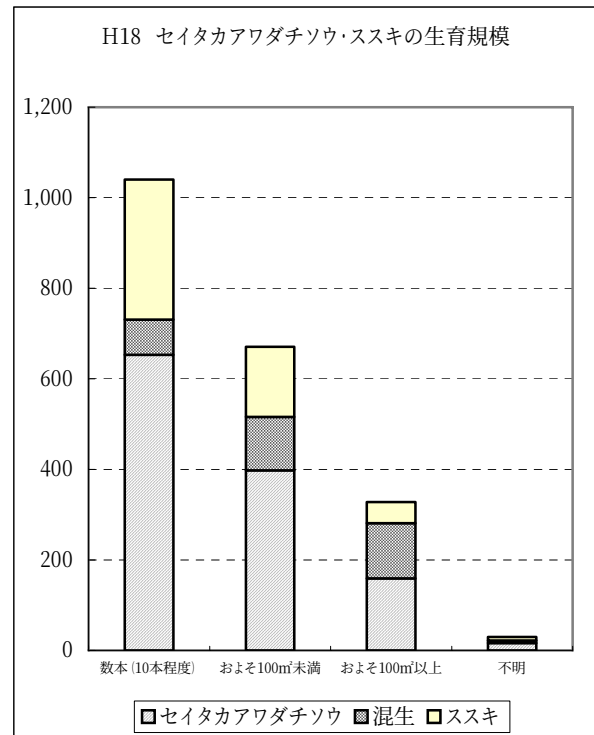


図 3 - 4



(4) まとめ

自然環境観察員制度でのセイタカアワダチソウとススキの調査は13年度に実施して以来5年ぶり2回目。ベテラン観察員さんが増えたせいもありますが、まとめに反映した報告数は2,081件(前回比+671件)にも達し、身近な自然をみつめる目や関心が広がっていることが伺えます。

全体的な結果は、前回の調査と同様、調査したほとんどのメッシュで、セイタカアワダチソウ(調査対象メッシュの約87%)とススキ(調査対象メッシュの約73%)が生育していました。

全体の359メッシュから未調査メッシュを除く確認状況をみると、セイタカアワダチソウのみが確認されたメッシュの割合は11.6%(H13)から16.9%(H18)に増加しているのに対して、ススキのみが確認されたメッシュの割合は8.2%(H13)から1.5%(H18)に減少しています。また、混生メッシュの割合は71.3%(H13)から76%(H18)に増加していました。

生育地の周辺環境としては、駐車場(空き地)、その他(民家、畑、事業所等)、道路沿いや川沿いで多く確認されました。一方、草刈などの影響を受ける公園や林縁での確認は少ない結果となりました。前回の調査と比較すると、駐車場(空き地)での確認の割合が大きく減少し、道路沿い、その他(民家、畑、事業所等)等で割合が増加していました。

生育規模では、数本で生育する個所が多く、群落面積100㎡以上の規模では、畑、休耕田、空き地、相模川や境川などの河川敷に多い結果となりました。前回の調査と比較すると100㎡未満の規模の割合が減少し、100㎡以上の規模の割合が増加しています。また、分布も前回と同じような結果となりましたが、大島地区の100㎡以上の規模の確認メッシュが若干の増加を示していました。

(調査対象種別)

セイタカアワダチソウは自身の成育環境を守るため、他の植物の発芽を抑えるアレロパシー物質を根から分泌し他の植物が育ちにくくしますが、アレロパシー物質はセイタカアワダチソウ自身の発芽も抑えてしまい、何年も同じ場所に生育していると、地中に溜まったアレロパシー物質により自家中毒を起こし自滅していき、そこへ、眠っていたススキなどの他の植物が発芽していくといわれています。

調査対象種の状況は次のとおりです。

○セイタカアワダチソウ

ほぼ全域で広く分布し、1,557件の確認報告がありました。セイタカアワダチソウのみの確認状況からは、生育規模の報告では数本の規模が656件と多いのですが、前回の調査と比較すると、数本と群落規模100㎡未満の割合が減少し、群落規模100㎡以上の占める割合が5.4%上昇しています。

生育地の周辺環境別では、駐車場（空き地）、道路沿い、その他（民家、畑、事業所等）での確認報告数が多く、前回の調査と比較すると駐車場（空き地）と河原（水路）沿いの割合が減少し、民家、畑（休耕田）などの割合が上昇しています。

以上のことから、相模原市においては、まだまだセイタカアワダチソウが生育しやすい環境があるものと推察されます。

○混生

調査対象メッシュの約71%で確認され、前回の調査と同様に、相模原市においてはセイタカアワダチソウとススキの混生がよくみられる風景であることがわかりました。

生育規模の報告では、セイタカアワダチソウのみ、ススキのみのそれぞれの確認状況と異なり、群落面積100㎡以上で確認された件数が多く、割合も高い結果となりました。

また、前回の調査と比較すると、群落規模100㎡未満が減少し、群落規模100㎡以上が増加していました。生育地の周辺環境別では、駐車場（空き地）での割合が大きく減少し、生育規模の結果とあわせて推察すると、長い期間、管理や活用されていない群落規模100㎡以上の土地がある様子や雑草の刈り込みなどの管理が行われているものと推察されます。

今後、河川敷を除いて今回確認された地点を抽出し、混生の状態がどのように変化していくのか、土地利用に変化がないのかなど、地点ごとに両種の面積比などについて調査を行うとより詳細な情報が得られるかもしれません。

○ススキ

調査対象メッシュの約73%で確認され、849件の確認報告がありました。

ススキのみの確認状況からは、ススキのみが見られるメッシュが減少し5メッシュのみでした。

前回の調査と比較するとススキのみが分布する個所数はほぼ横ばいで、数本で生育している割合が若干、増加し、セイタカアワダチソウと混生する群落規模100㎡以上の生育規模が増加する傾向を示しました。

生育地の周辺環境別では、道路沿い、その他（民家、畑、事業所等）、駐車場（空き地）の確認報告数多く、前回の調査と比較すると河原（水路）沿い、駐車場（空き地）、林縁の割合が減少し、件数同様に道路沿いの割合が上昇しています。

おそらく数本で生育している割合が多い理由のひとつにはこの状態があるものと推察されます。

○セイタカアワダチソウとススキの分布からみた分布の動き

相模原市はもともと、ススキの台地が広がる地域でした。昭和46年に人口が30万人を超え、工場、住宅、道路などに移り変わり、前回調査した平成13年度現在と比較すると約1万

6千世帯が増加しています。

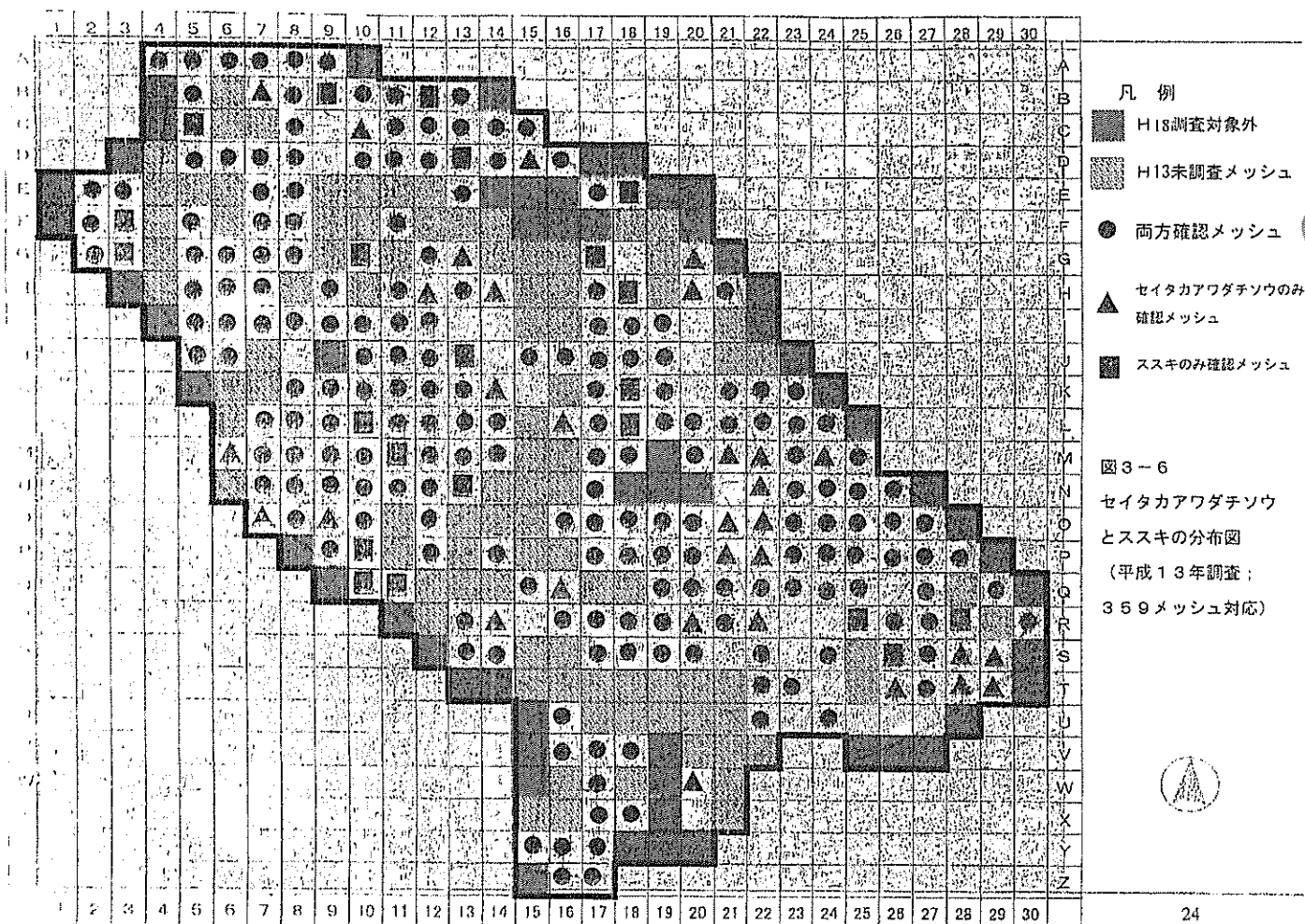
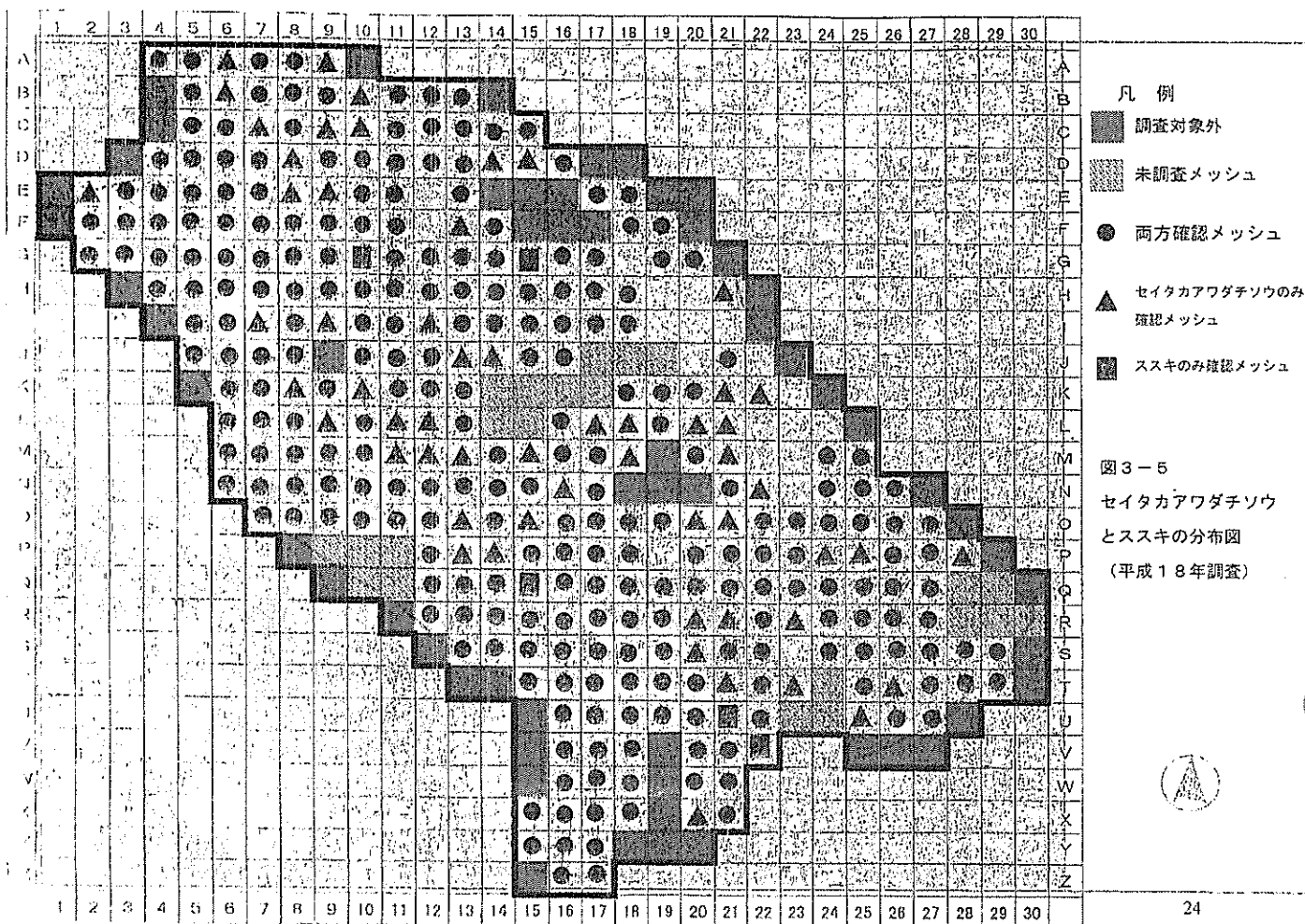
セイタカアワダチソウの大群落がある場所は、河川敷等を除き、土地が改変されてからあまり年月の経っていない場所だといえることから、造成直後の場所も多いことが推察されます。

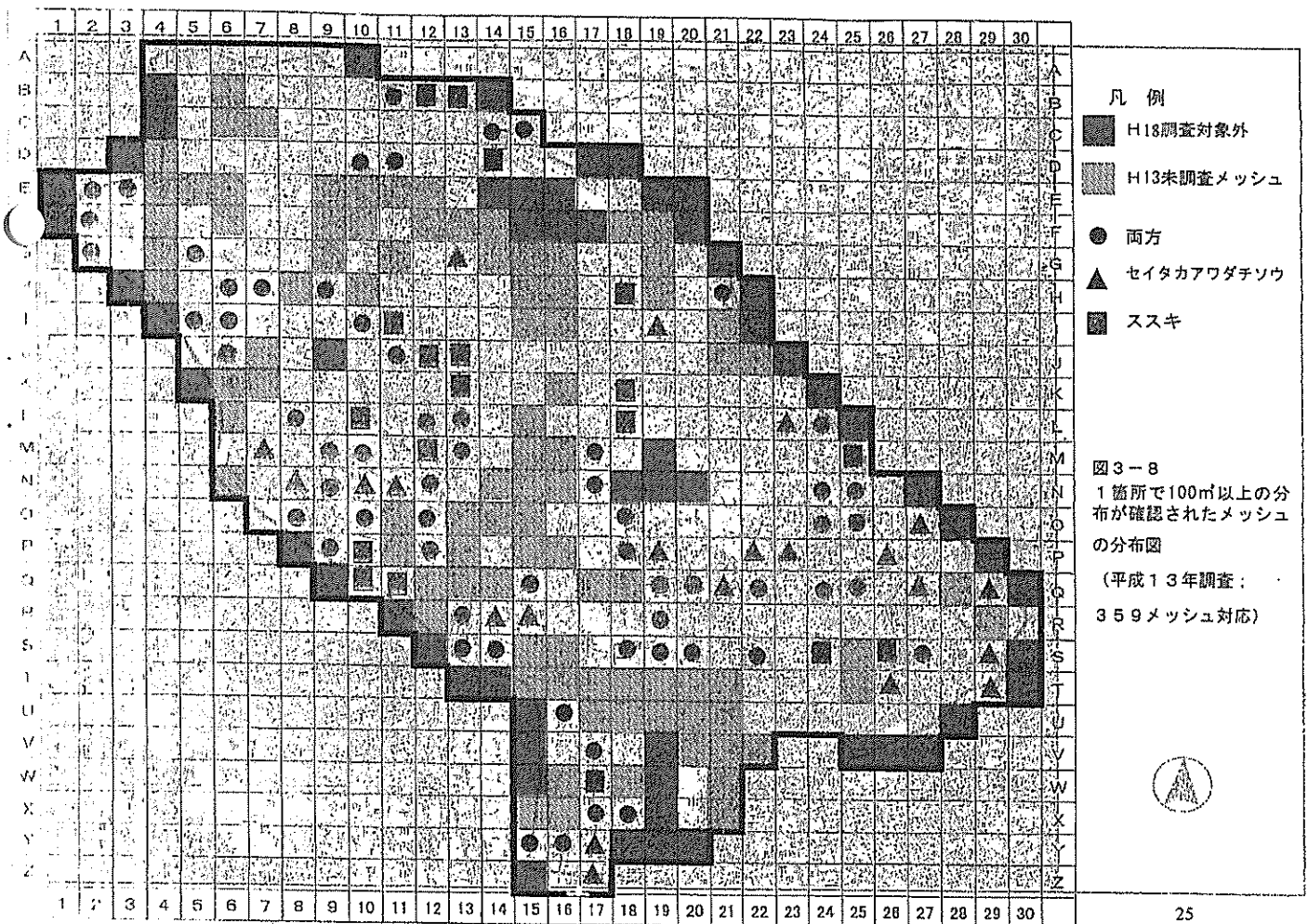
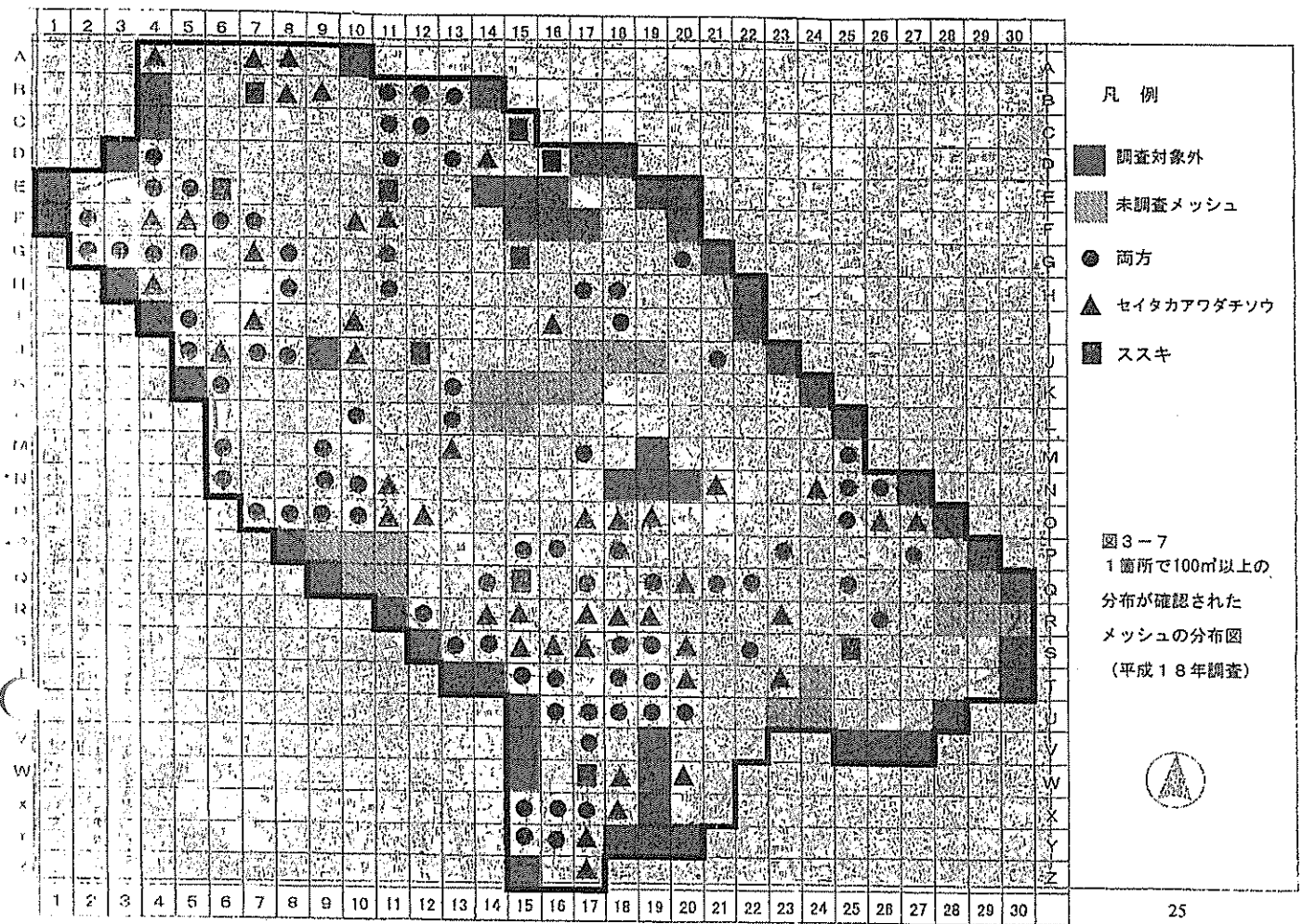
また、セイタカアワダチソウが数本ある場所は、新天地を求めて広がろうとしている場所だといえることから、刈り込みなどの影響を受けない道端などで多く見られるものと推察されます。

今回のセイタカアワダチソウとススキの分布調査からは、

- ・ 上段の市街地では、大きな土地利用の変動がないことや除草をするなどの適正な管理が推進されている様子がうかがえること
 - ・ 上段よりも農地や空き地が多い中段の大沢、上溝、麻溝、田名地区あたりでは、住宅や道路の整備などの土地利用の様子がうかがえること
 - ・ 河川敷や段丘崖などの広い土地を独り占めしようと繁茂する帰化植物セイタカアワダチソウの力強さ
 - ・ 長い期間管理されていない土地がセイタカアワダチソウからススキへ移り変わる可能性があること
 - ・ 道端や庭先などの限られたスペースを活用して生育環境を広げようとしているセイタカアワダチソウとススキ
 - ・ じっとチャンスを待ち続け復活しようとするススキ
- を知ることができました。







1. 4 テントウムシ分布調査

自然環境観察員制度では、これまでにさまざまな指標動植物種の分布調査をしてきました。
今回は、平成13年度に調査をしたテントウムシの分布について、旧相模原市地域を対象に追跡調査を実施しました。

(1) 調査期間

平成18年10月1日～11月5日（設定期間10月1日～10月31日）

(2) 調査方法

担当メッシュ内を歩き、アブラムシの多い草を探しながらテントウムシを探していただきました。見つけたテントウムシについては、種類や周辺の環境と斑紋のつきかたなどを記録し、確認地点を地図に記入するほか、不明な種などはスケッチや写真をとっていただきました。

(3) 調査結果

今回は、テントウムシの確認状況、出現地の周辺環境等について、平成13年度の調査と比較して報告します。

① テントウムシの確認状況

表4-1 テントウムシの確認状況

(単位；メッシュ数)

調査年度	テントウムシを確認	テントウムシ未確認	未調査	合 計
H13	135	99	125	359
H18	87	245	27	359
増 減	▲48	146	▲98	—

※市内の総メッシュ数は417ですが、調査除外メッシュ58があるため調査対象メッシュは359です

※平成13年度の合計メッシュは420メッシュですが、ここでは、18年度調査対象メッシュに対応する359メッシュを抽出して比較しています。

※調査対象8種とその他のテントウムシの確認状況をあわせたメッシュ数です。

図4-1

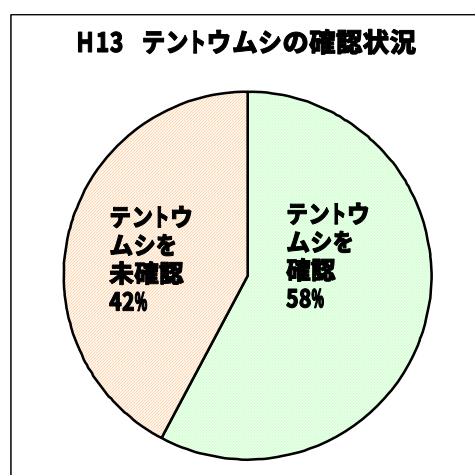
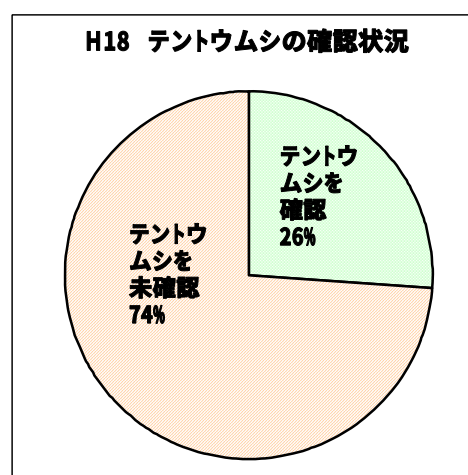


図4-2



注) 合計メッシュから未調査メッシュを除いた割合です。

② テントウムシが出現した周辺環境

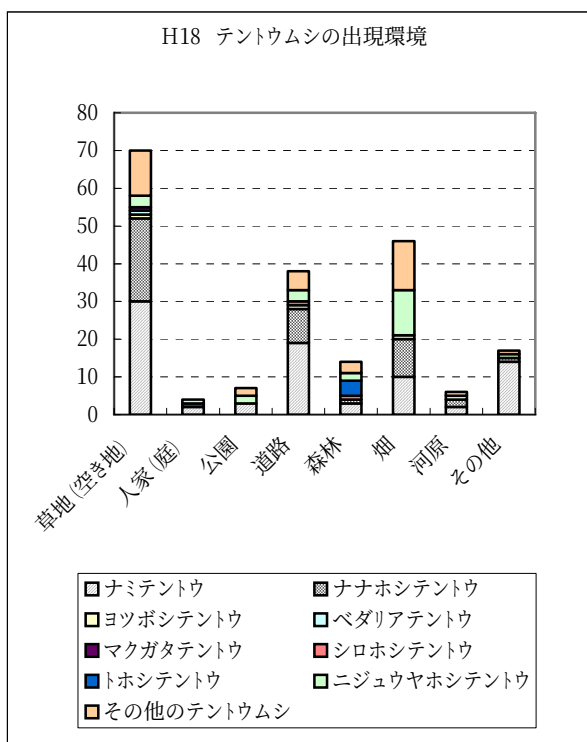
表 4-2 生育地の周辺環境

(単位：箇所数)

項 目 確認状況	調査 年度等	草地 (空き地)	人家 (庭)	公園	道路	森林	畑	河原	その他	合計
ナミ テントウ	H13	28	5	9	13	2	9	0	8	74
	割合	37.8%	6.8%	12.2%	17.6%	2.7%	12.2%	0%	10.7%	100%
	H18	30	2	3	19	3	10	2	14	83
ナナホシ テントウ	割合	36.1%	2.4%	3.6%	22.9%	3.6%	12.0%	2.4%	17.0%	100%
	増減	▲1.7%	▲4.4%	▲8.6%	5.3%	0.9%	▲0.2%	皆増	6.3%	-
	H13	46	7	7	22	2	19	4	9	116
ヨツボシ テントウ	割合	39.7%	6.0%	6.0%	19.0%	1.7%	16.4%	3.4%	7.8%	100%
	H18	22	0	0	9	1	10	2	1	45
	割合	49.0%	0%	0%	20.0%	2.2%	22.2%	4.4%	2.2%	100%
ベダリア テントウ	増減	9.3%	皆減	皆減	1.0%	0.5%	5.8%	1.0%	▲5.6%	-
	H13	0	0	0	0	0	0	0	0	100%
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
マクガタ テントウ	H18	1	0	0	1	0	1	0	0	3
	割合	33.3%	0%	0%	33.3%	0%	33.3%	0%	0%	100%
	増減	皆増	-	-	皆増	-	皆増	-	-	-
シロホシ テントウ	H13	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	H18	1	0	0	0	0	0	0	0	1
トホシ テントウ	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	増減	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-
	H13	1	0	1	0	0	0	0	0	2
ニジュウ ヤホシ テントウ	割合	50.0%	0%	50.0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	H18	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
その他の テントウムシ	増減	50%	-	皆減	-	-	-	-	-	-
	H13	2	1	1	0	0	0	0	0	4
	割合	50.0%	25.0%	25.0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
合 計	H18	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	割合	0%	0%	0%	50.0%	50.0%	0%	0%	0%	100%
	増減	皆減	皆減	皆減	皆増	皆増	-	-	-	-
ニジュウ ヤホシ テントウ	H13	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	H18	0	1	0	0	4	0	0	0	5
その他の テントウムシ	割合	0%	20.0%	0%	0%	80.0%	0%	0%	0%	100%
	増減	皆減	皆増	-	-	皆増	-	-	-	-
	H13	5	1	0	2	0	16	0	0	24
合 計	割合	20.8%	4.2%	0%	8.3%	0%	66.7%	0%	0%	100%
	H18	3	1	2	3	2	12	1	1	25
	割合	12.0%	4.0%	8.0%	12.0%	8.0%	48.0%	4.0%	4.0%	100%
合 計	増減	▲8.8%	▲0.2%	皆増	3.7%	皆増	▲18.7%	皆増	皆増	-
	H13	35	11	13	34	8	25	1	8	135
	割合	25.9%	8.1%	9.6%	25.2%	5.9%	18.5%	0.7%	6.1%	100%
合 計	H18	12	0	2	5	3	13	1	1	37
	割合	32.4%	0%	5.4%	13.5%	8.1%	35.1%	2.7%	2.7%	100%
	増減	6.5%	皆減	▲4.2%	▲11.7%	2.2%	16.6%	2.0%	▲3.4%	-
合 計	H13	120	25	31	71	12	69	5	25	358
	割合	33.5%	7.0%	8.7%	19.8%	3.4%	19.2%	1.4%	7.0%	100%
	H18	70	4	7	38	14	46	6	17	202
	割合	34.7%	2.0%	3.5%	18.8%	6.9%	22.8%	2.9%	8.4%	100%
	増減	1.2%	▲5.0%	▲5.2%	▲1.0%	3.5%	3.6%	1.5%	1.4%	-

※報告書が未記入の分は「その他」に含む。

図 4-3



(4) まとめ

自然環境観察員制度でのテントウムシの調査は平成13年に実施して以来5年ぶり2回目。前回の調査活動の反省を活かし、今回は、成虫として観察しやすいよう10月1日から調査を開始しました。

多くの観察員からは、「何日も観察したが見つからない」など、今回の調査は大変だったという感想が寄せられました。秋に育つテントウムシは、気温が低いせいか、あるいはエサ不足のためか、春よりも小型のものが多くといわれます。報告書を整理すると10月中旬になっても幼虫やさなぎの状態である報告が多く、「10月中旬以降も幼虫が100以上いる」「11月に入っても幼虫多数」といった報告や「成虫が幼虫とともにいるということは気候の関係で成虫になるのが遅れているのか?」「天候の影響か?」「今夏の長雨の影響か?」などの考察も寄せられました。

テントウムシにとって暑さとエサ不足の季節となる夏は、ナナホシテントウの場合、草のしげみの根もとにもぐりこんで、夏の季節をねむって過ごし、ナミテントウの場合、森や林の大きな樹木の葉かげで、夏の暑さを避け、ちょっと涼しい秋になると再び活動が活発することが一般的にいわれています。

このことから、夏から秋にかけての気候の状態によって成虫になる時期が遅れたのではないかと推察することができます。また、図4-4のテントウムシ分布図をみていただくと、緑や農地の多い地域で確認されていることから、エサとなるアブラムシや植物等の状況など、複数の要因が絡み合っていることも推察されます。

いずれにしても今回の調査では、秋のテントウムシの成虫が一般的に見られたのは10月末頃ということと相模原市で生息するテントウムシも地球環境や自然環境の営みに左右され、それに対応して生息していることがわかりました。

今回の調査では対象となった8種類のテントウムシ（ナミテントウ、ナナホシテントウ、ヨツボシテントウ、ベダリアテントウ、マクガタテントウ、シロホシテントウ、トホシテントウ、ニジュウヤホシテントウ）をすべて確認しました。前回はヨツボシテントウを除く7種類でした。その他にもキイロテントウなどの6種類のテントウムシの確認報告がありまし

た。

テントウムシが確認されたメッシュは87メッシュで前回と比較すると48メッシュ減少しましたが、前述してあるとおり今年は幼虫やさなぎの期間に調査期間がぶつかってしまったことが大きな原因であると推察できます。

しかし、未調査メッシュを除いたメッシュの確認割合が約58%（H13）から約26%（H18）に減少していることも忘れてならない事実だったと言えます。

主な地域として、淵野辺、東淵野辺などの大野北出張所管区、麻溝台、大島で未確認メッシュが増えました。

なお、未調査メッシュが125メッシュ（H13）から27メッシュ（H18）に減少し、調査したメッシュの割合が前回比約1.4倍となるため、より広い地域を調査したことも影響していることから、H13においても分布する割合はもしかすると結果より低い可能性もあることを示唆しています。

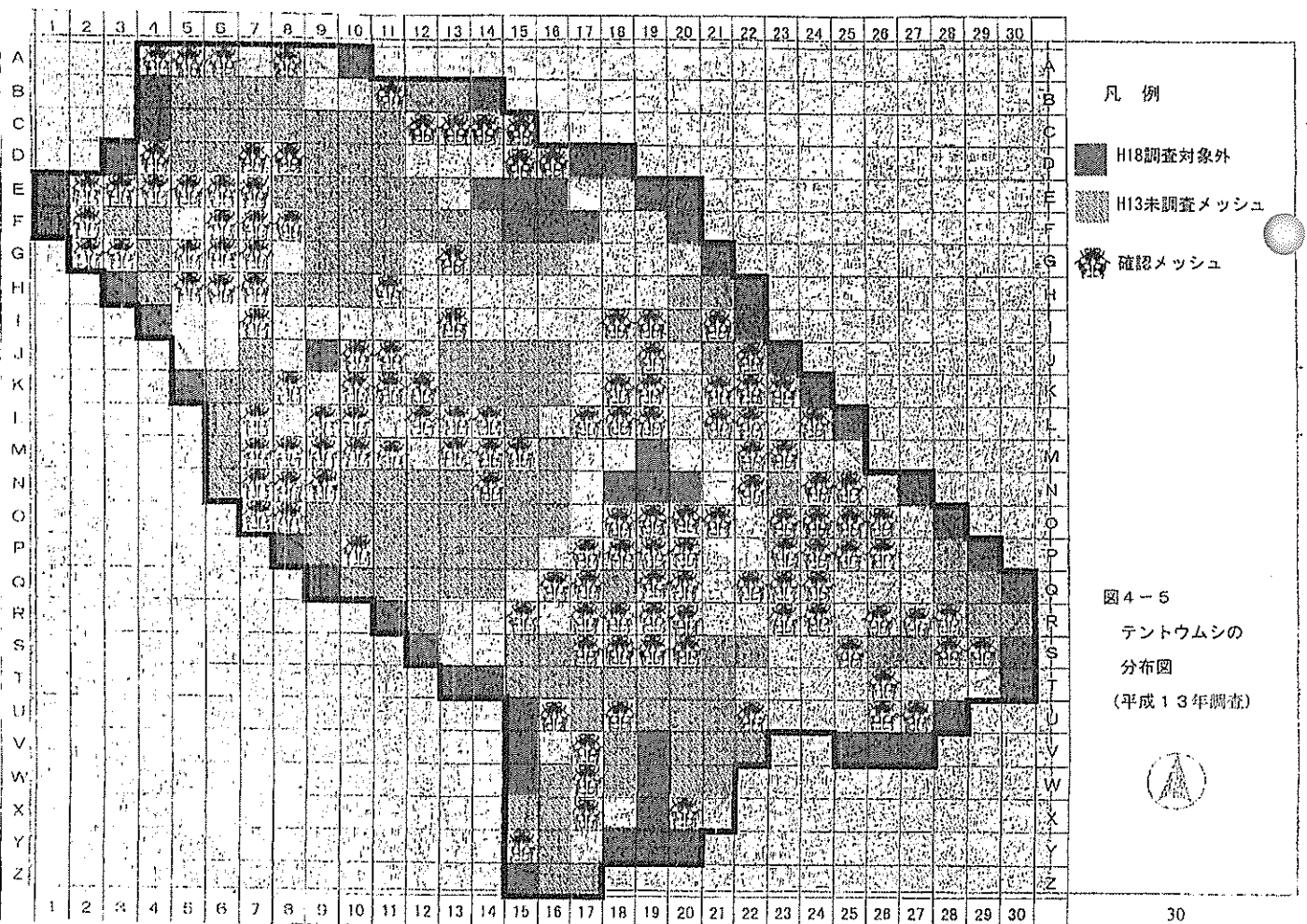
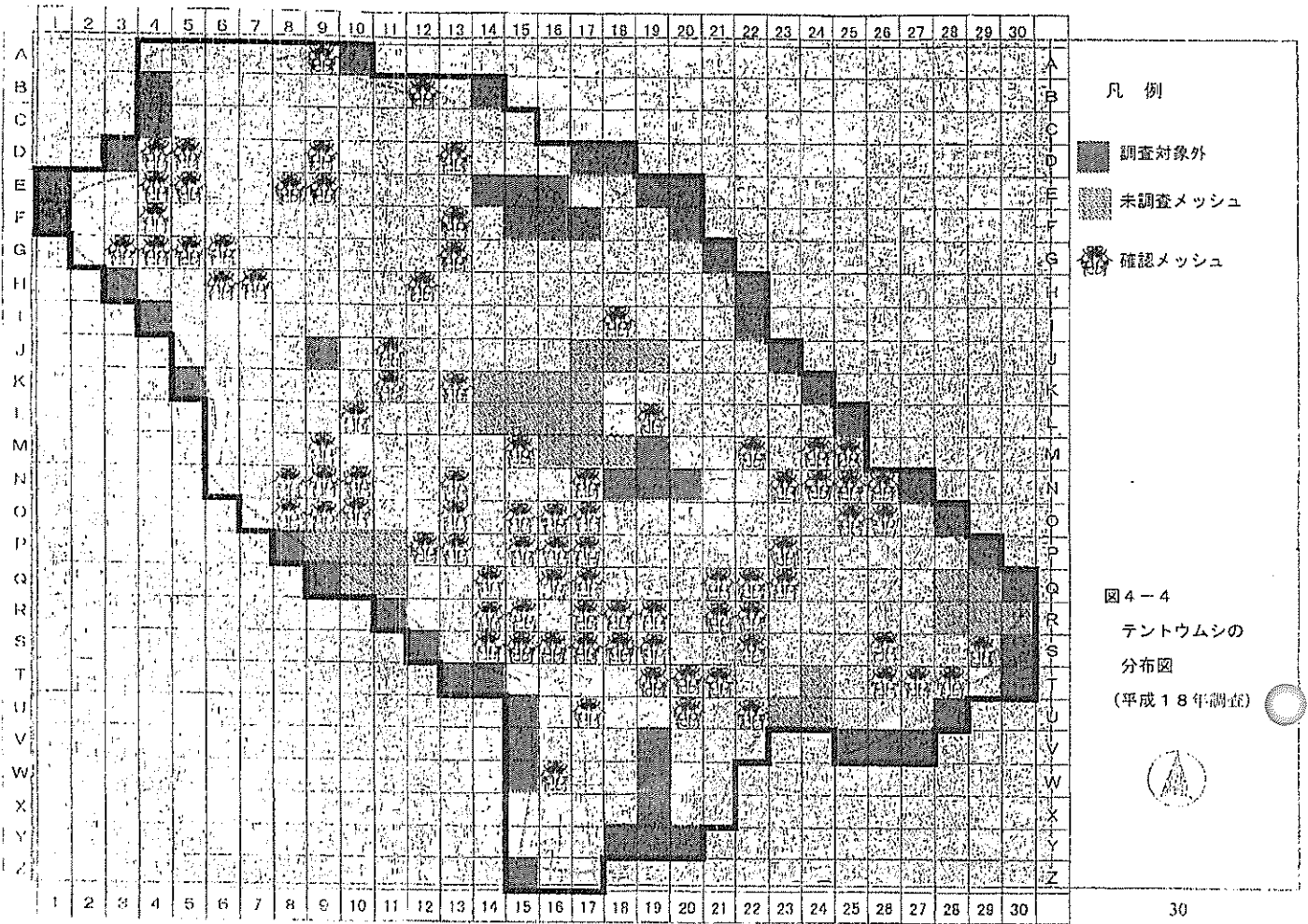
種類では、前回の調査と同様、ナミテントウが最も多く、ついでナナホシテントウ、ニジュウヤホシテントウが多く確認されました。

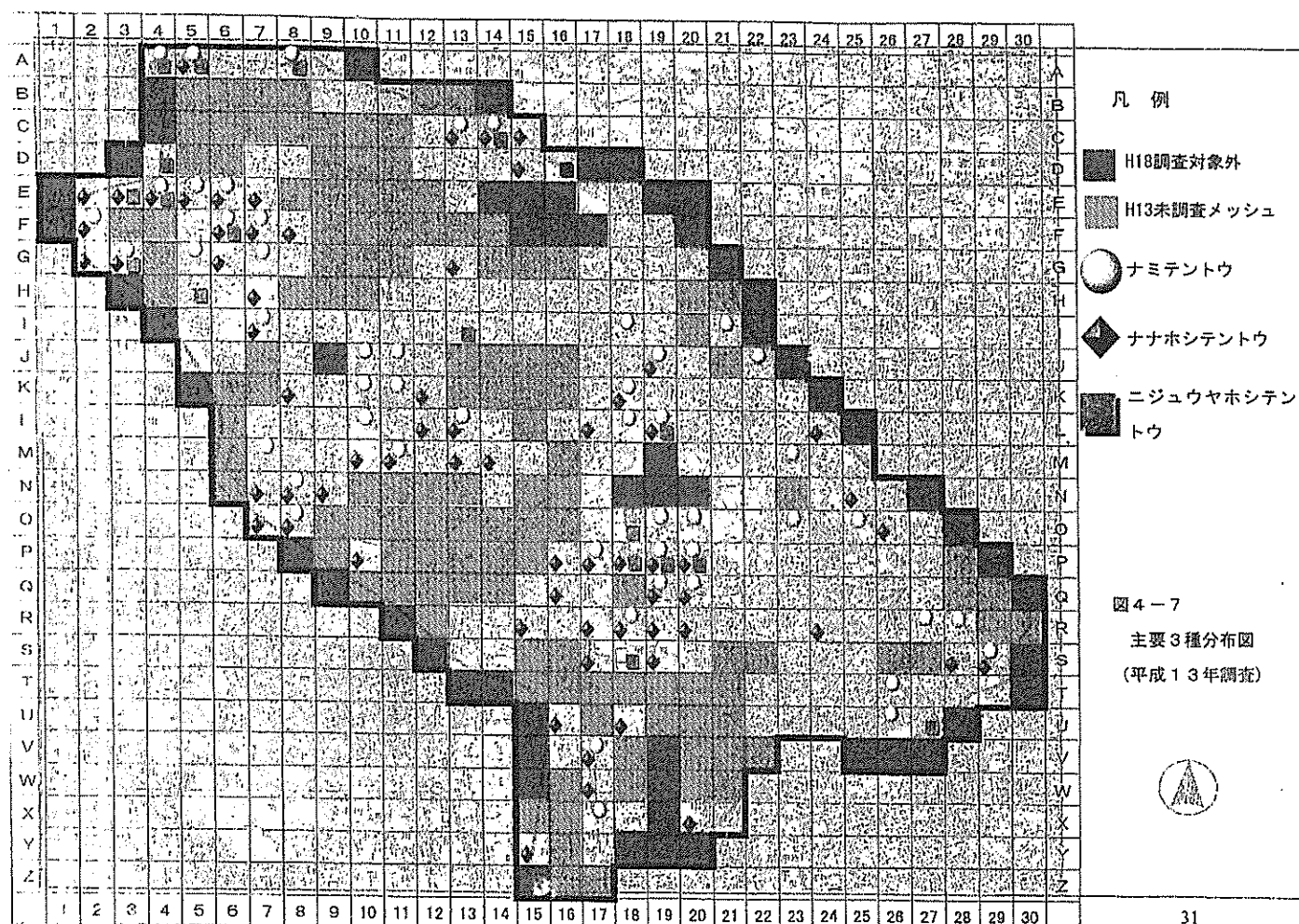
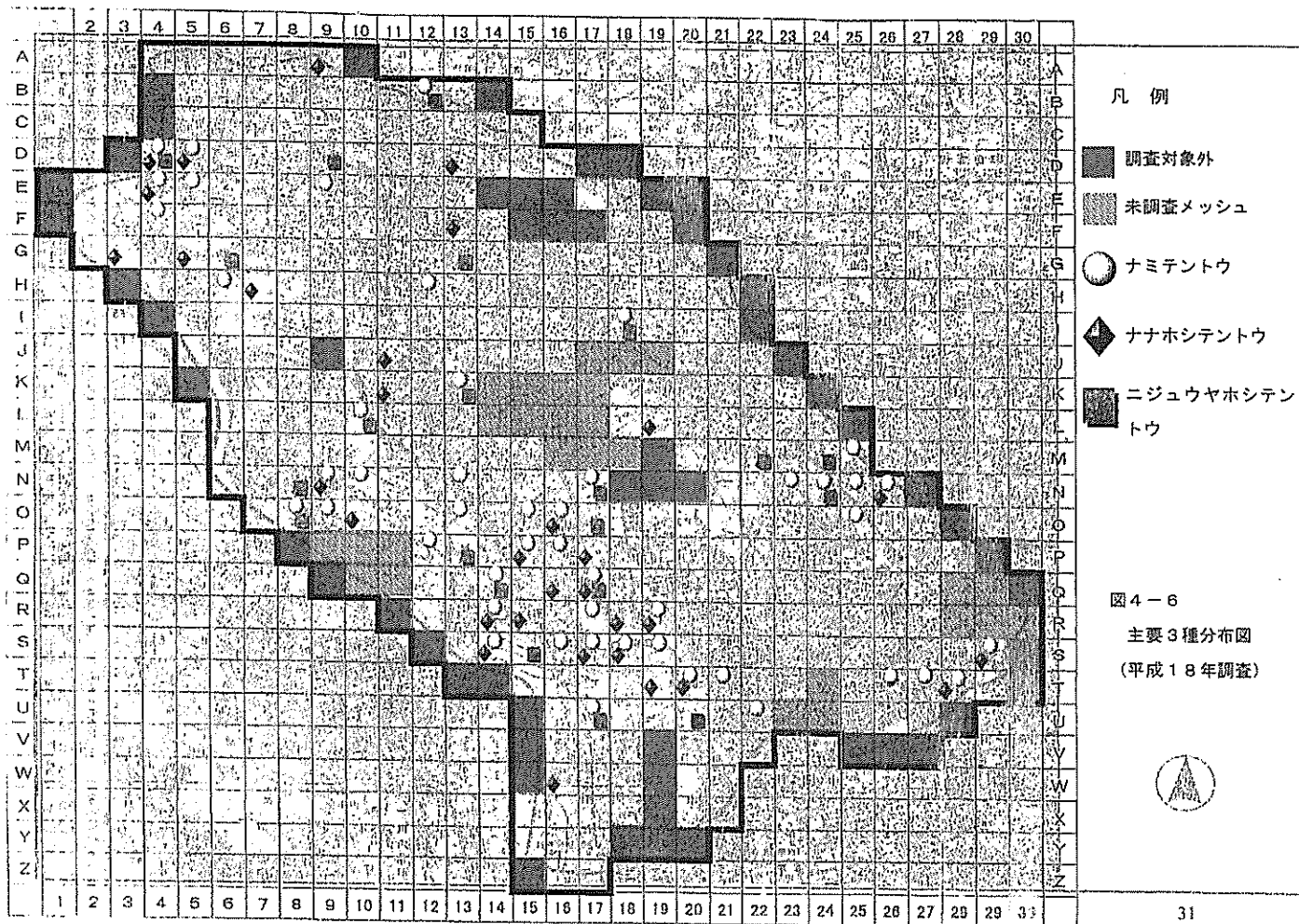
また、調査対象8種類には含まれないキイロテントウの確認報告が14件ありました。大部分が近隣に大きな雑木林や斜面林がある地域で、クワの木にいたとの報告が多くありました。

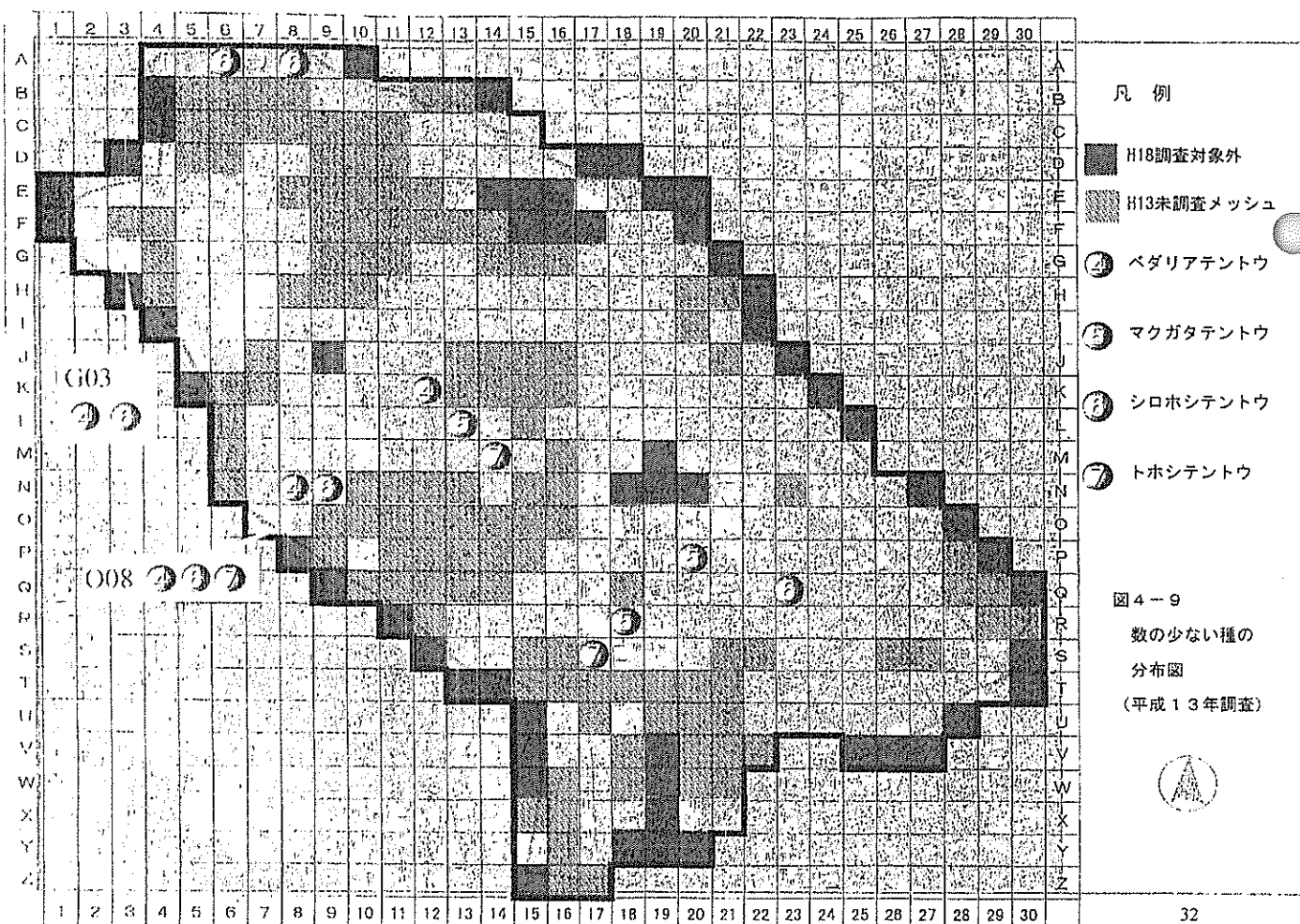
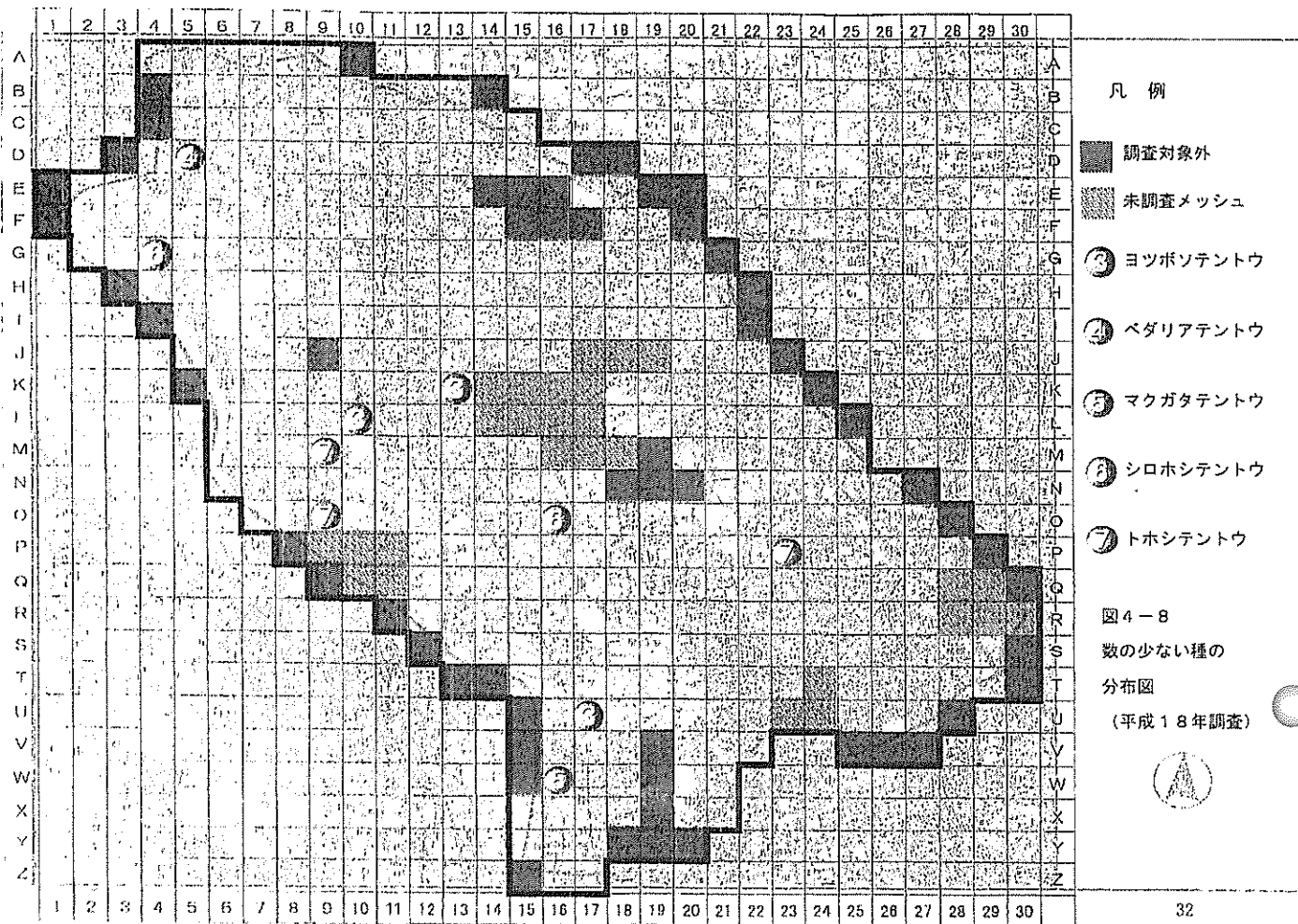
テントウムシが確認された周辺環境では、草地（空き地）、畑、道路沿いが多く、前回の調査と同様な結果を示しました。草地では、ナミテントウやナナホシテントウなどが「カナムグラ（1年生のつる草）」や「セイタカアワダチソウ」に多く、農地での聞き込みについても多くの情報があり、「無農薬なので昆虫は多いがテントウムシは見ない」「畑付近を調査してもみつからない」といった報告や「無農薬で管理する畑であっても対象が小さく注意力やみるポイントが必要」といったご意見が寄せられました。

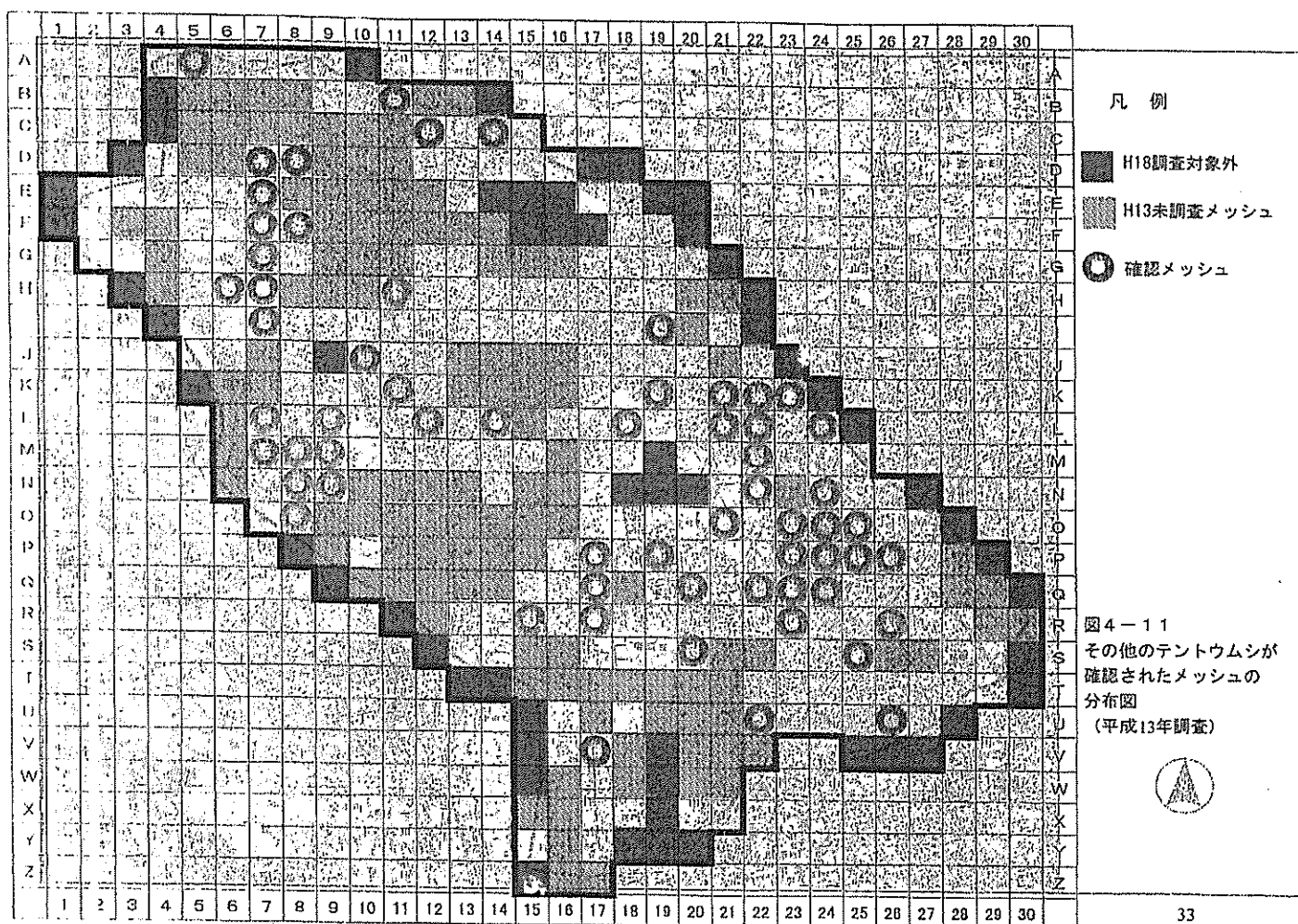
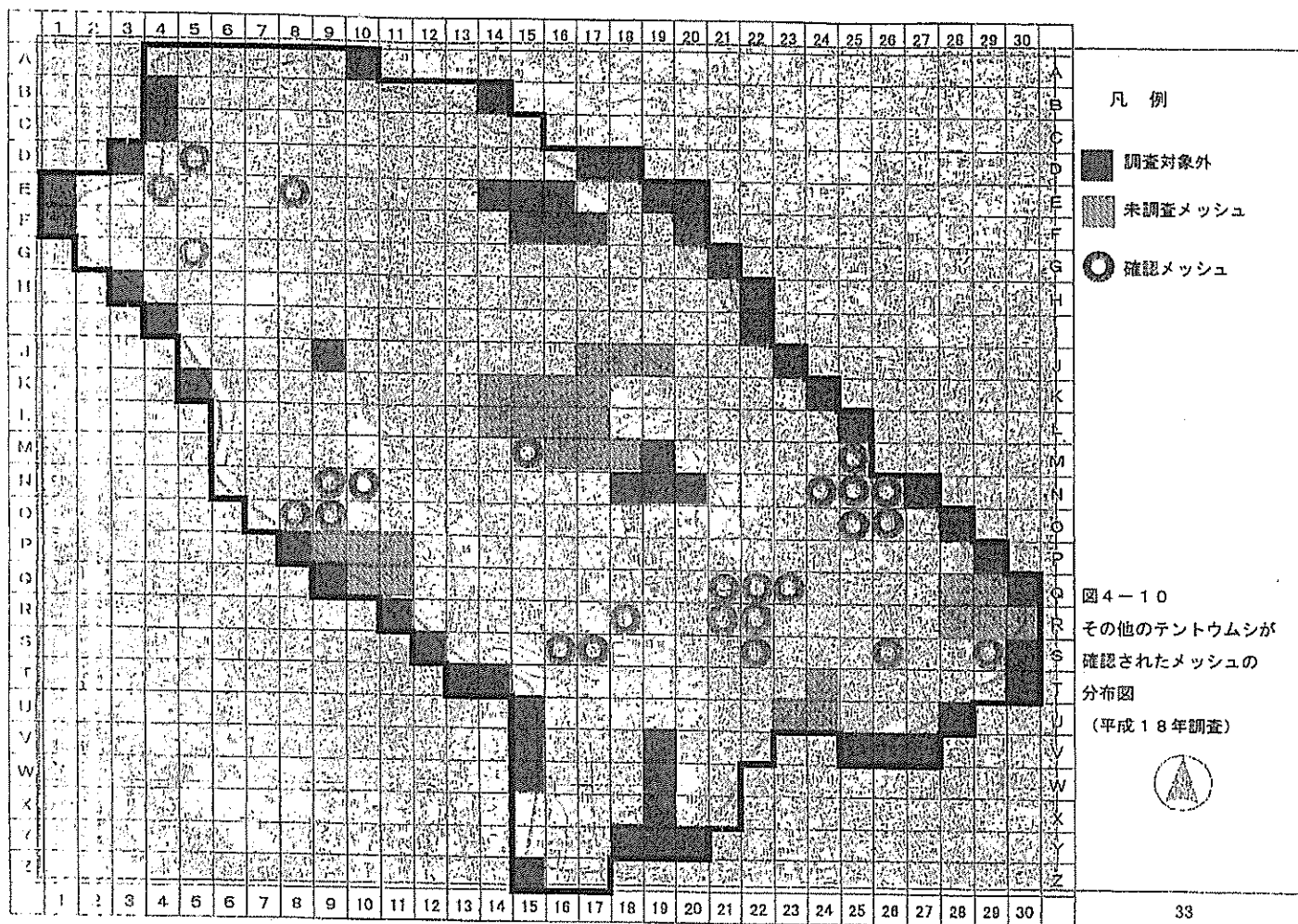
特に、ニジュウヤホシテントウは、前回の調査と同様、多くのテントウムシが益虫といわれることに対し「害虫」の特徴を示すとおり、多くがジャガイモやナスを栽培する畑で確認され、住宅地域の中にある家庭菜園での確認も増えた印象を受けました。

テントウムシの分布調査からは、緑地の分布（量・質）、身近な緑（庭や公園など）などの状態がわかると考えていますが、5年前と比較して大きな変化はないのではないかと推察するに至りました。ただし、テントウムシから見た場合、緑地の質としては畑や道路沿いの雑草も重要な緑であり、人間にとっても虫が集う身近な緑だということではないでしょうか。









2 自主テーマ調査

2. 1 自主テーマ調査の目的・実施方法

自然環境には地域差があるので、局地的に生息・生育する種などは市内全域を対象とした調査に適さないものも多く、また、観察員さんの興味・関心や経験などにも個人差が見られます。

さらに、「全体テーマ調査」だけでは、市内の自然環境を評価するには不十分であるため、自主テーマによる調査を導入することにより、より多くのデータを集積する目的としています。

テーマの選択、実施方法、調査時期は、観察員さん自身に設定していただき、調査をしていただきました。

2. 2 自主テーマ調査の紹介

観察員さんから3件の自主テーマ調査の調査結果を提出していただきました。

表 2-2-1 自主テーマ一覧

No	報告者	調査テーマ(題名)	調査内容	分類
1	小林 義博	水生生物と水質	境川寿橋での水性生物調査	昆虫
2	櫻木 博史	こもれびの森中央広場隣接北側に 自生する植物の開花日調査	自主植物の開花日調査（年度別比較）	植物
3	早戸 正広	チョウの調査	チョウの観察記録	昆虫

3 任意参加調査

3. 1 任意参加調査の目的・実施方法

動植物の生息・生育状況には地域差があります。身近な生きもの調査（全体テーマ調査）はそういう動植物の生息・生育状況の差異で市内全域の自然環境の状況を明らかにするものですが、局地的に生息・生育する動植物は市内全域を対象とした調査に適していません。

そこで、平成15年度から、生息・生育範囲が狭く、市内のどの場所に生息・生育しているかを明らかにしたい動植物を対象に目撃情報等の収集を行うことにより、市内での生息・生育状況のデータを集積することを目的としています。

今年度は、上記の目的以外に、全体テーマ調査を補完すること及びツバメの巣作りから巣立ちまでを観察するため、任意参加調査においても「ツバメの巣分布調査」を実施しました。

3. 2 ツバメの巣分布調査

(1) 調査期間

平成18年4月～8月1日（火）

(2) 調査目的

ツバメは今、相模原でどんな暮らしをしているのかを知ることがを目的に調査をしました。また、全体テーマ調査の「ツバメの巣分布調査」では、飛んでいたが巣を発見することができないことも予想されることから、市内のツバメ分布図をまとめることにしました。

(3) 調査方法

調査の手引きを参考に、自宅付近、出かけた先などでツバメとひなの行動を観察し、報告する。

(4) 参加者数

12人から任意参加調査の報告書を提出いただきましたが、全体テーマ調査報告書に併せて詳細情報を書き込んでいるケースが多く、大部分の方が参加してくれました。

(5) 調査結果

結果は、全体テーマ調査「ツバメの巣分布調査」の(3)調査結果①ツバメの巣の確認状況を反映するとともに「ツバメ分布図」と「2006相模原市のツバメ観察日記」としてまとめました。

(6) まとめ

まとめは、全体テーマ調査「ツバメの巣分布調査」を参照ください。

凡 例



調査対象外



未調査メッシュ



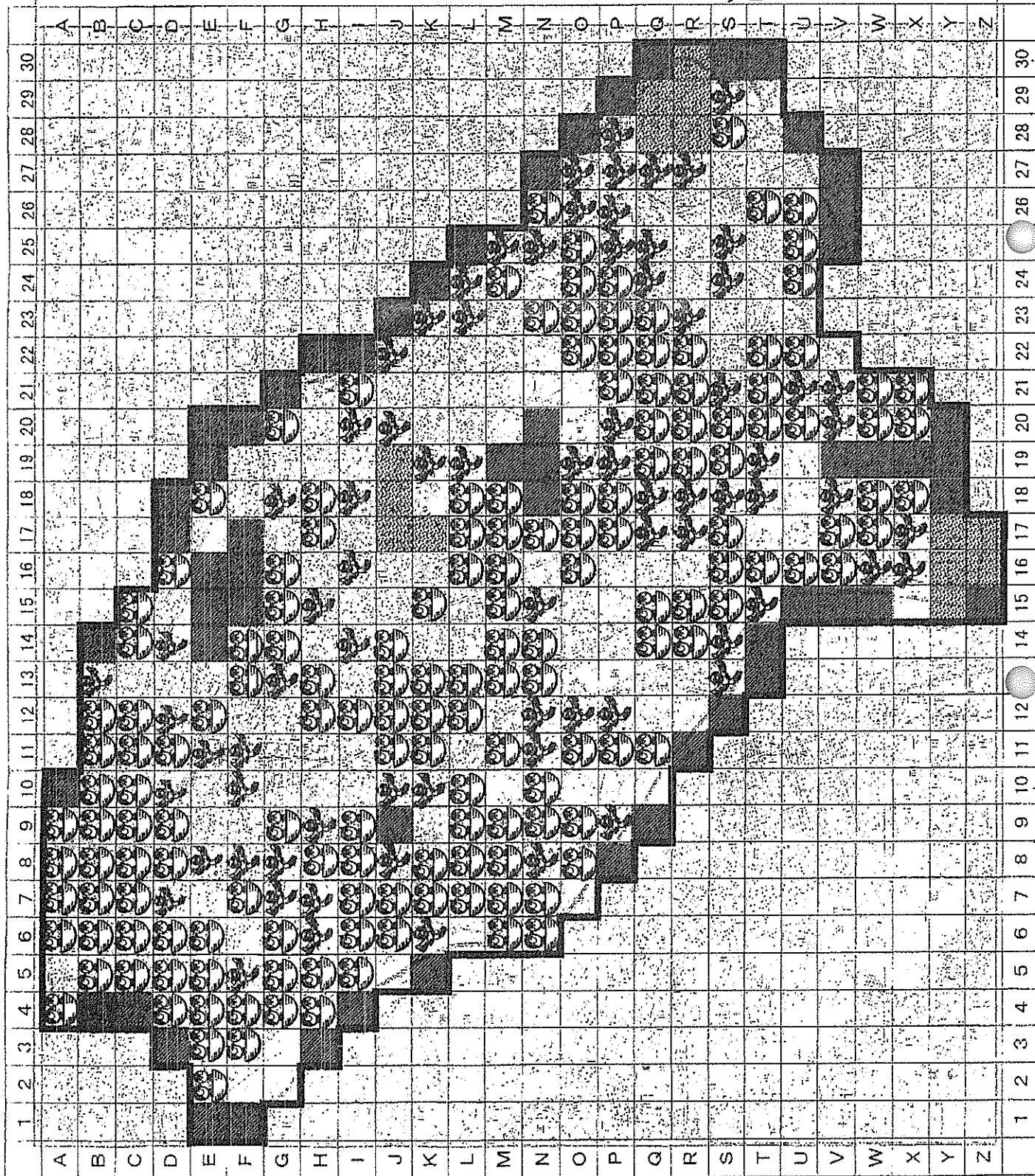
確認メッシュ



ツバメの飛翔のみ

図 3-2-1

ツバメの巣の分布図に飛翔
している箇所を併せたもの



2006相模原市のツバメ観察日記

1							
4		4/2	4				○ 3
		4/5	4				○ 23
		4/15					
		4/21					
		4/23					
5	上旬から下旬にかけて産卵① 14 15	5/4 2	5/3				
	※ほとんどのツバメは、年2回ひなを育てる。なかには3回も育てるツバメもいる。	5/5 5 3	5/10				
		5/6 4	5/11	5/11 3 2			
		5/7 5		5/15			
		5/15 6	5/17	5/15			5/26
		5/21	5/21				5/28
		5/22	5/28 5/17		5/28 3		
		5/23	6/10		5/29 5 6		6/4 3
				6/8	6/5		6 5
6	21 22	6/11			6/6 5	6/6	
	中旬から下旬にかけて産卵② 14 15				6/7 4		6/14
					6/10		
					6/14 5	6/12	
					6/14 5		
					6/18 1	6/20 3	
					6/20 5		
		6/23		6/23	6/21 1		
			6/22	6/25	6/22 2	6/23	6/25
					6/23 2 2		6/27
			6/25	6/28 5 1 4	6/24 2 4 5		6/27 5 6 3
				6/29 2	6/25		6/27 3
					6/28		6/27
		6/30 2 3 1	7/6		6/29 1	6/29 3	6/29 5 1
		7/2			6/29		
7	21 22				7/9 4	7/9	
8		7/12					8/1
		8/2					
		8/16					
		8/20					
		8/22 2					
9							
10							

4 専門部会調査

4.1 専門部会の設置

自然環境調査には、専門的な知識が必要なものや、グループで行ったほうが効率的なものがあります。また、「全体テーマ調査」は稀少種などの特定の地域にのみ生息・生育するものの調査には不向きですので、興味・関心が共通していたり、同じような問題意識を持っている方々がまとまって様々な活動をする中で、より専門的な活動が図れるよう専門部会を設置しています。

今年度は、河川生物相調査部会及び野鳥調査部会の2つの専門部会を新設しました。

専門部会の設置状況

部会名	設置年度	平成18年度登録数
植物調査部会	平成14年度	33名
湧水調査部会	平成14年度	25名
河川生物相調査部会	平成18年度	16名
野鳥調査部会	平成18年度	22名

4.2 植物調査部会

(1) 設置目的

植物には限られた地域に生育しているものや同定が難しいものなどがあるため、従来の全体調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、「相模原市自然環境基礎調査」で得られた稀少種のデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、植物に関心を持つ観察員さんが協力し合い、相模原市の貴重な植物の調査を行うため、植物調査部会を設置しました。

(2) 活動報告

ア 第1回植物調査部会

(ア) 形式 活動・観察会（カワラノギクの保護活動①）

(イ) 日時 平成18年7月25日（火）

午前10時～正午

(ウ) 場所 相模川河川敷 神沢地区

(エ) 参加者 観察員7名（浅木、鹿島、川崎、川村、

小林（通）、真山、山尾）

市博物館他2名（秋山学芸員、海老名市のカワラノギクを守る会 河又氏）

事務局1名 小泉

(オ) 内容 ・市博物館と連携したカワラノギクの保護活動は今年で2年目。有志による活動とし、保護区内のコセンダングサ等の草抜きを実施。終了後は、秋山学芸員の指導により、付近で植物観察を行いました。



イ 第2回植物調査部会

(ア) 形式 活動・観察会（カワラノギクの保護活動②）

(イ) 日時 平成18年9月12日（火）

午前10時～正午

(ウ) 場所 相模川河川敷 神沢地区

(エ) 参加者 観察員11名（岩田、鹿島、川崎、木村、



小林（通）、金銅、千野、西田（和）、野口、早戸、山尾）
市博物館他3名（秋山学芸員、博物館スタッフ）
事務局2名 星野、小泉

- （オ）内 容 ・今年度2回目。有志による活動とし、保護区内のコセンダングサの種が落ちる前に草抜きを実施。終了後は、秋山学芸員の指導により、カワラニガナ、カワラハハコ等の植物観察を行いました。

ウ 第3回植物調査部会

- （ア）形 式 観察会（当麻のたんぼと河川敷の植物観察）
講師 市博物館 秋山学芸員

- （イ）日 時 平成18年10月17日（火）
午前10時～正午

- （ウ）場 所 当麻のたんぼ、相模川河川敷（三段の滝下付近）

- （エ）参加者 観察員18名（浅原、岩田、内田、鹿島、川崎、川村、木村、後藤、小林（通）、櫻木、佐藤、千野、中村、西田（和）、野口、堀野、真山、山尾）
事務局 2名 菅井、小泉

- （オ）内 容 河川敷のツルヨシやオギ群集、局地的になってきた田んぼ周辺の秋の植物環境の学習を行うため、観察会を行いました。



エ 第4回植物調査部会

- （ア）形 式 観察会・企画会議
講師 市博物館 秋山学芸員

- （イ）日 時 平成19年3月21日（水）
午前10時～午後2時30分

- （ウ）場 所 城山町小松川・穴川付近

- （エ）参加者 観察員12名（浅原、岩田、川崎、川村、小林（通）、小林（義）、櫻木、高橋、千野、西田、堀野、真山）
城山町在住田中さん、浅原さん夫
事務局 3名 小泉、中島、植村（センタースタッフ）

- （オ）内 容 合併し拡大した市域を知り今後の調査活動に役立てたい思いから、城山町小松川・穴川付近の観察会を行いました。



オ 部会報の発行

11月に部会報を発行しました。

4. 3 湧水調査部会

（1）設置目的

相模川をはじめとする河川と段丘崖に点在する湧水は、相模原市の代表的な自然環境といえます。河川や湧水の水質・水量を維持し、生態系の保全を図りながら、将来世代に豊かな水辺を引き継ぐことは我々の責務です。

そのため、相模原市環境基本計画においては、湧水保全対策として、重点施策に「自然環境観察員と連携して、湧水の監視を行います。」という取り組みを掲げました。この取り組みを推し進め、湧水の継続的な調査を実施するため、湧水調査部会を設置しました。

（2）活動報告

今年度は、合併した津久井地域の湧水について研究し、今後の湧水調査部会活動の考え方を整理する年としました。

ア 第1回湧水調査部会

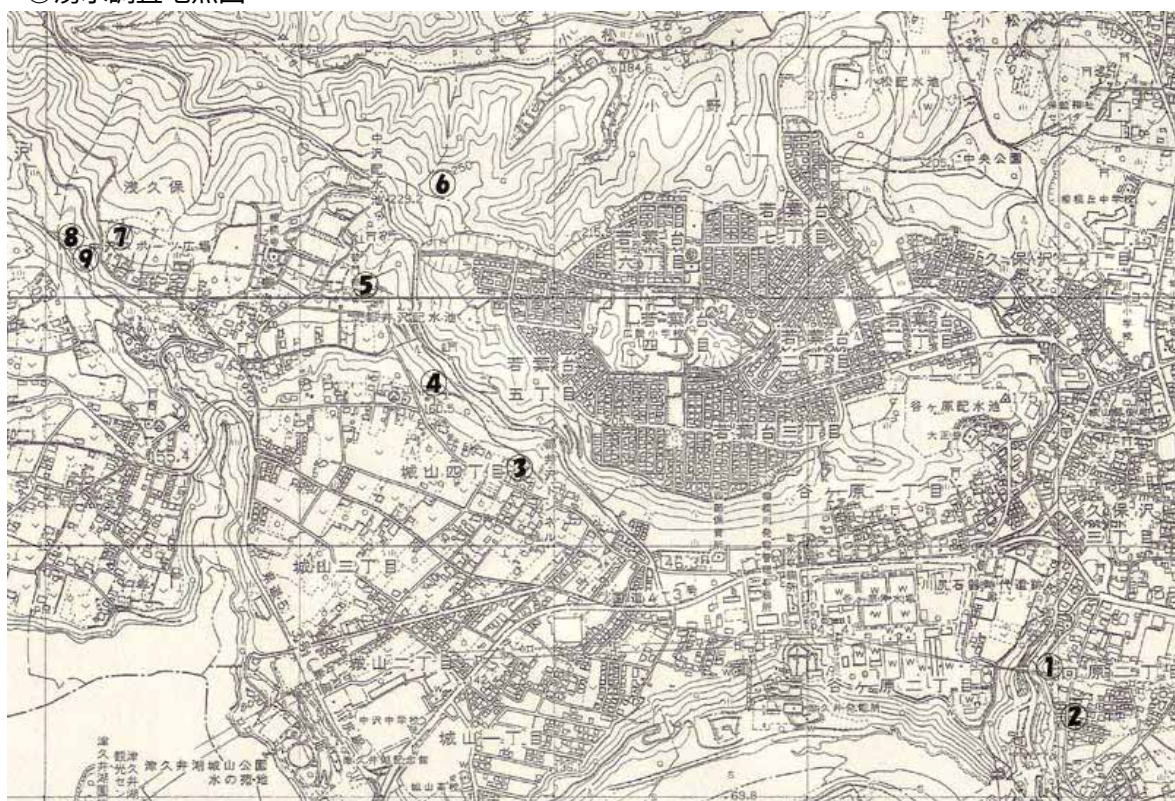
- (ア) 形式 観察会（城山地区の「湧水を訪ねて」）
 講師 城山ホテル研究会 保坂 健次さん
- (イ) 日時 平成19年3月17日（土）
 午前9時20分～午後3時30分
- (ウ) 場所 城山町
- (エ) 参加者 観察員11名（浅野、安達、池川、岩田、内田、小田、川崎、杉山、中川、西田、真山、）
 事務局 2名 星野・広田（環境対策課）
 ※その他、講師の城山町在住の関係者も多数参加
- (オ) 内容 平成19年度からの調査計画を作成するため、城山地区の湧水箇所とその歴史的背景等についての学習と観察会を行いました。



(カ) 結果

No	調査箇所	pH	EC (mS/cm)	COD (mg/l)	水温 (℃)
1	清水の湧水	6.5	0.18	1.5	14
2	男滝・女滝	6.5	0.09	1.0	6
3	尻無沢	6.7	0.16	0	6
4	慈眼寺湧水	7.2	0.02	0.5	10
5	普門寺	7.3	0.07	0	8
6	谷津川水源	7.5	0.04	1.0	10
7	旧知恩寺湧水	7.4	0.05	1.0	11
8	死人橋 川	7.5	0.03	0.5	8
9	// 湧水	7.2	0.04	0	12

○湧水調査地点図



イ 部会報の発行

3月に部会報を発行しました。

4. 4 河川生物相調査部会

(1) 設置目的

相模川をはじめとする河川には様々な生き物が生息しています。とくに河川に見られる底製生物を指標とする河川生物相は、種類、固体数などから、水の汚れ具合を見分けることができます。また、継続的にデータを収集し現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、河川の生き物に関心を持つ観察員さんが協力し合い、市内を流れる河川の生物相調査を行うため、河川生物相調査部会を設置しました。

(2) 活動報告

ア 第1回河川生物相調査部会

- (ア) 形 式 活動・観察会
- (イ) 日 時 平成18年6月23日(金)
午前9時30分～11時30分
- (ウ) 場 所 境川(宮上小学校横)
- (エ) 参加者 観察員2名(小林(義)、中川)
事務局2名(星野、小林)
- (オ) 内 容 境川上流部の川の生き物の調査を実施しました。
メダカ、ドジョウ、アメリカザリガニ等、多数の生き物を確認できました。

イ 第2回河川生物相調査部会

- (ア) 形 式 活動・観察会
- (イ) 日 時 平成18年9月17日(日)
午前9時30分～11時
- (ウ) 場 所 相模川 大島キャンプ場下流
- (エ) 参加者 観察員4名(小林(義)、岡野、木村、真山)
事務局1名(星野)
- (オ) 内 容 当該流域を全国水生生物調査に準じた方法により実施しました。
当日は、水質階級Ⅰ(きれいな水)に生息する生物を始め、約30種類を確認できました。



ウ 第3回河川生物相調査部会

- (ア) 形 式 講義・実践
- (イ) 日 時 平成18年12月6日(水)
午後1時～4時
- (ウ) 場 所 環境情報センター活動室
- (エ) 参加者 観察員6名(小林(義)、木村、櫻木、中川、
川崎、田口)
市博物館1名(守屋)
事務局1名(星野)
- (オ) 内 容 市博物館守屋さんから水生生物の標本作りについて指導をいただき、事前に収集している水生生物の標本作りを行い、作品を環境情報センターに展示しました。



4. 5 野鳥調査部会

(1) 設置目的

鳥類の生息状況を把握するには、季節的な変動を考慮して年間を通じた調査を行うことが必要であるため、全体調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、「相模原市自然環境基礎調査」で得られたデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、野鳥に関心を持つ観察員さんが協力し合い、現地調査による記録種をもとに、相模原市の鳥類相の把握、鳥類相から見た緑地や水辺の現況を把握することを目的に野鳥の調査を行うため、野鳥調査部会を設置しました。

(2) 活動報告

ア 第1回野鳥調査部会

(ア) 形 式 会議

(イ) 日 時 平成18年7月11日(火)
午後6時～7時45分

(ウ) 場 所 環境情報センター 活動室

(エ) 参加者 観察員11名(安達、内田、大沢、小川、荻原、小林(義)、櫻木、佐藤(昭)、田口、肥田、真山)
事務局1名 小林

(オ) 内 容 ・新設した本部会の活動をはじめるため、自然環境基礎調査結果を紹介し旧相模原市域における鳥類相の現状を知るとともに部会の活動方針、事業計画等について打合せを行いました。

イ 第2回野鳥調査部会

(ア) 形 式 学習・観察会(野鳥の調査について
～冬鳥を観察しよう!～)

講師 野鳥調査部会員 真山正彦

(イ) 日 時 平成18年12月2日(土)
午前9時30分～11時30分

(ウ) 場 所 古山貯水池

(エ) 参加者 観察員13名(浅野、安達、内田、大沢、荻原、川崎、櫻木、佐藤(昭)、原田、肥田、真山、小林(義)、小林(喜))
事務局3名 菅井、小泉、植村(センタースタッフ)

(オ) 内 容 ・今後の調査活動を行うため、市内の代表的な越冬地であり自然環境基礎調査の定点観察地点である古山貯水池(相模原沈殿池)を会場に、学習を兼ねた観察会を行いました。また、調査計画(案)を提示し、野鳥に詳しい部会員に協力してもらい詳細事項をつめていくことにしました。

(カ) その他 ・



分 類			渡り区分
目	科	種	
ペリカン	ウ	カワウ	留鳥
コウノトリ	サギ	アオサギ	留鳥
カモ	カモ	オシドリ	冬鳥
		マガモ	冬鳥
		カルガモ	留鳥

		コガモ	冬鳥
		ヨシガモ	冬鳥
		オカヨシガモ	冬鳥
		ヒドリガモ	冬鳥
		アメリカヒドリ	冬鳥
		オナガガモ	冬鳥
		ハシビロガモ	冬鳥
		ホシハジロ	冬鳥
		キンクロハジロ	冬鳥
ツル	クイナ	オオバン	冬鳥
チドリ	カモメ	ユリカモメ	冬鳥
スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	留鳥
		セグロセキレイ	留鳥
		タヒバリ	冬鳥
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥
	モズ	モズ	留鳥
	アトリ	カワラヒワ	留鳥
	ハタオリドリ	スズメ	留鳥
	カラス	ハシブトガラス	留鳥

※渡り区分は相模原市を基準にして絶対的なものではありません。

(例 オシドリ 相模原では基本的には冬鳥ですが、東北地方などでは繁殖をしており留鳥、最近では相模原でも繁殖をしている。)

ウ 第3回野鳥調査部会

(ア) 形 式 学習・観察会

講師 野鳥調査部会員 内田 英樹

(イ) 日 時 平成19年2月10日(土)
午前9時30分～11時45分

(ウ) 場 所 相模川河川敷 神沢地区

(エ) 参加者 観察員14名(浅野、内田、小川、荻原、川崎、
小林(義)、塩沢、原田、肥田、小林(喜)、鹿島)
事務局 2名 小泉、中島

(オ) 内 容 19年度からの調査活動を行うための事業計画(案)をもとに、今後使用する調査票(案)を使い、実際に観察しながら、ルート観察、定点観察の方法を学びました。

(カ) その他 ・P3地点



分 類			渡り区分
目	科	種	
タカ	タカ	トビ	留鳥
キツツキ	キツツキ	アカゲラ	留鳥
スズメ	ホオジロ	ホオジロ	留鳥
		カシラダカ	冬鳥
		アオジ	冬鳥
	アトリ	カワラヒワ	留鳥
		ベニマシコ	冬鳥
		シメ	冬鳥
	ハタオリドリ	スズメ	留鳥
	カラス	ハシブトガラス	留鳥

・ R 1 ルート周辺

分 類			渡り区分
目	科	種	
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥
コウノトリ	サギ	アオサギ	留鳥
カモ	カモ	オシドリ	冬鳥
		コガモ	冬鳥
		キンクロハジロ	冬鳥
		カワアイサ	冬鳥
タカ	タカ	ミサゴ	冬鳥
		オオタカ	留鳥
ハト	ハト	キジバト	留鳥
キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥
スズメ	セキレイ	キセキレイ	留鳥
		セグロセキレイ	留鳥
		ビンズイ	冬鳥
		タヒバリ	冬鳥
	ジョウビタキ	ジョウビタキ	冬鳥
	エナガ	エナガ	留鳥
	シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥
	メジロ	メジロ	留鳥
	ホオジロ	ホオジロ	留鳥
		アオジ	冬鳥
	アトリ	カワラヒワ	留鳥
		ベニマシコ	留鳥
		シメ	冬鳥
	カラス	ハシブトガラス	留鳥
※参考確認（50M以上離れ、調査基準に不適合）			
タカ	タカ	ノスリ	冬鳥
ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	留鳥
野生化した鳥類		ガビチョウ	—

※渡り区分は相模原市を基準にして絶対的なものではありません。

（例 オシドリ 相模原では基本的には冬鳥ですが、東北地方などでは繁殖をしており留鳥、最近は相模原でも繁殖をしている。）

エ 部会報の発行

1月に部会報を発行しました。

第3章 かんきょう学習セミナー

1 かんきょう学習セミナー

1. 1 第1回かんきょう学習セミナー

日 時 平成18年4月23日(日) 午前9時30分～11時15分
場 所 環境情報センター 学習室
参加者 63人



(1) 自然環境観察員制度について

本制度の目的や意義などについて、事務局から説明を行いました。

(2) 講義

講師 内田 英樹さん(相模原市探鳥会)

内容 「ツバメと環境について」

相模原市の自然環境の現状やツバメ類の生態、市域の観察ポイントについて、学習しました。

(3) 全体テーマ調査「身近な生きもの調査」について

観察員さん個々が調査する担当メッシュを確認し、調査の手引きにそってツバメの巣分布調査方法の説明、質疑応答を行いました。

調査の詳細は、資料編の「1. 調査の手引き」をご参照ください。

(4) 自主テーマ調査について

自主テーマ調査の目的について、事務局から説明しました。

(5) 専門部会調査について

部会の目的や設置・運営について事務局から説明を行いました。今年度は、既存の「植物調査部会」と「湧水調査部会」に加え、「河川生物相調査部会」と「野鳥調査部会」を新設しました。

(6) 任意参加調査について

調査の概要を事務局から説明しました。

(7) その他

エコネットの輪及び「さがみはら環境まつり」について、概要を説明し、参加を依頼しました。

1. 2 第2回かんきょう学習セミナー

日 時 平成18年7月8日(土) 午前9時～午後3時30分
場 所 県立津久井湖城山公園 他
参加者 24人



(1) 観察会

講師 小林 義博さん(自然環境観察員)

内容 津久井地域の自然観察や市街地の観察会。津久井城山公園では水質検査を行いました。

1. 3 第3回かんきょう学習セミナー

日 時 平成18年9月24日(日) 午前9時30分～正午
場 所 環境情報センター 学習室
参加者 55人



(1) 講義

講師 藤本 真宗さん(アジア航測(株))

内容 「セイタカアワダチソウとススキについて」と「テナントウムシと環境について」学習を行ない、調査の方法を確認しました。調査の詳細は、資料編の「1. 調査の手引き」

をご参照ください。

(2) 調査のしかたについて

調査の手引きにそって、調査方法の説明、質疑応答を行いました。

1. 4 第4回かんきょう学習セミナー

日 時 平成19年10月22日(日) 午前10時～正午
場 所 環境情報センター学習室
参加者 10人



(1) 講義

講師 プロジェクト・ワイルド一般指導者

麻布大学村山専任講師、久保山君(麻布大学生)と5人の学生ボランティア

内容 プロジェクト・ワイルド講習会

プロジェクト・ワイルドとは、米国で開発された野生生物をテーマにした環境教育プログラムで、野生動物と自然資源に対し、責任ある行動をとれるようになることを目的としており、幼稚園児から高校まで、さまざまな教育現場で活用することができます。今回は、プロジェクト・ワイルドの基礎を学び、創造的な場を作るためのプログラムを自ら体験し、現在又は今後、皆さんが指導等を行う機会において参考になるよう、講習会を行いました。

1. 5 第5回かんきょう学習セミナー(公開講座)

日 時 平成19年11月19日(日) 午前10時～正午
場 所 環境情報センター学習室
参加者 39人(一般22人含む)



(1) 講義

講師 大田 顕成さん(NPO 相模湖町山岳協会理事長)

内容 相模原市の山々をハイキングするための講座

～知って、歩いて、見て、感じて、水源森林の自然観察～

合併した津久井地域の水源森林を紹介し、トレッキングしながら豊かな自然環境に触れるための事前学習会を実施したものです。

東海自然歩道コースや陣馬山コースなど、新相模原市内の日帰りハイキングコースやコースの特徴と見どころなどを中心に紹介する講座を行いました。

1. 6 第6回かんきょう学習セミナー(公開講座)

日 時 平成19年11月19日(日) 午後1時～3時
場 所 環境情報センター学習室
参加者 30人



(1) 講義

講師 谷 重和さん・石川 恵理子さん(ヤマビル研究会)

内容 ヤマビルの生態と防除対策講座 ～相模原市の山々でハイキングを楽しむために～
県内で被害が拡大するヤマビルの生態や防除対策等について学習しました。

1. 7 第7回かんきょう学習セミナー

平成18年12月10日(日)に相模湖地域の自然観察(ハイキング)を予定していましたが、天候不良のため中止となりました。

1. 8 第8回かんきょう学習セミナー

日 時 平成19年2月4日(日) 午前9時30分～11時30分
場 所 環境情報センター 学習室
参加者 39人

(1) 講義

講師 染矢 貴さん(アジア航測(株))

内容 「津久井地域の自然環境調査(植生)等について」
津久井地域の植生等について学習しました。

(2) 平成18年度調査結果について

アドバイザー アジア航測(株) 染矢 貴さん
藤本 真宗さん
滝口 善博さん

ア 全体テーマ調査結果報告

ツバメの巣分布調査、帰化植物(セイタカアワダチソウ)分布調査及びテナガシシ分布調査の結果について報告しました。説明資料は、本編第2章に掲載されています。

イ 自主テーマ調査

調査の報告を依頼しました。

ウ 任意参加調査報告

現在の状況について報告しました。

エ 専門部会調査結果報告

現在の状況について報告しました。

オ その他の活動結果報告

現在の状況について報告しました。

(3) 平成19年度活動に向けて

平成19年度の全体テーマ調査について、企画会議の結果を報告しました。



第4章 企画会議

1 企画会議

1.1 第1回企画会議

日 時 平成18年9月12日（火） 午後2時から
場 所 環境情報センター 活動室
参加者 10人
内 容 ・第2回全体テーマ調査についての検討

1.2 第2回企画会議

日 時 平成19年1月27日（土） 午前10時～11時40分
場 所 環境情報センター 活動室
参加者 18人
内 容 ・平成19年度における全体調査対象種について
・津久井地域における調査について

第5章 その他の活動

- 本制度の調査結果を発表するため、「さがみはら環境まつり」へ出展し、運営にご協力いただきました。
- 環境情報センター事業協力者登録制度「エコネットの輪」に登録。また、相模原市の環境学習・環境活動プログラム集へ、「小・中学校の校庭にある樹木・園芸種の観察会」「身近な植物観察会」「草あそびー草笛や草虫笹舟づくりー」「インタープリテーション（IP）を体験する」の4プログラムを登録し、小中学生を対象とした各種観察会や総合学習への支援などで講師活動にご協力をいただきました。
- 環境情報センター主催事業「夏休み環境学校」の講師及び運営サポートにご参加いただきました。
- 環境情報センター主催、「環境カウンセラー制度説明会」「プロジェクト・ワイルド一般指導者養成セミナー（本編・水辺編）」に、多くの方がご参加し、資格等の取得にチャレンジしました。

観察員さんの活動は身近な生きもの調査以外においても、これからますます、大切な役割を担っていくことが期待されます。どうぞ、よろしくお願いいたします。



写真（左から）

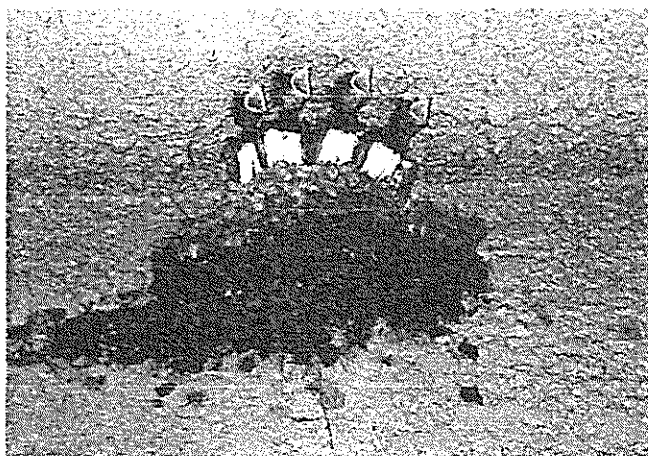
- ・さがみはら環境まつり展示
- ・夏休み環境学校指導
- ・プロジェクトワイルド一般指導者養成セミナー

資 料 編

- 1 調査の手引き
- 2 自然観察かわらばん
- 3 ご意見一覧

平成18(2006)年度
相模原市自然環境観察員制度
身近な生きもの調査

ツバメの巣分布調査
— 手 引 き —



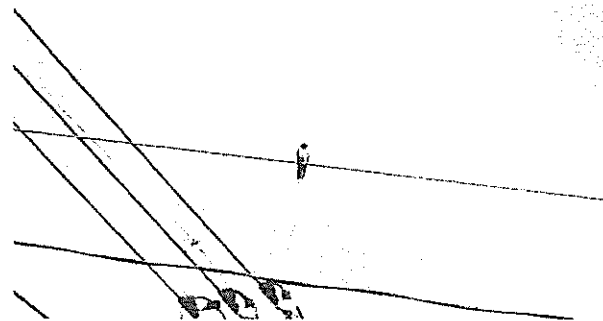
相模原市自然環境観察員事業パートナー
相模原市立環境情報センター

はじめに

平成13年度から始めた身近な生きもの調査の一番最初に実施した調査が、このツバメの巣分布調査でした。それから5年が経過し追跡調査を実施することになりました。

春になり木々に新芽が付きはじめた頃、青い空にはツバメが気持ちよくすべるように飛び回っています。ちょっと気をつけてまわりをみると、軒下や歩道橋の下などで巣を見つけることができます。そして巣の中には、巣から身を乗り出して大きな口を開いて餌をねだるヒナがいることでしょう。

ツバメはスズメ、ヒヨドリ、カラスなどと並んで、市街地で比較的良好にみかけることのできる馴染み深い鳥です。都市でもたくましくくらしているツバメの生活にちょっとだけ触れてみましょう。



1 ツバメってどんな鳥

ツバメの仲間は日本に5種類います。このうち相模原で見られるのは、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメの3種類です。

これらツバメの仲間は遠くフィリピンやマレーシアから渡ってきて、春から夏の暖かい日本でヒナを育て、また南の島へ帰っていきます。

親ツバメは一匹で一日に昆虫を数千匹近く捕まえて、ヒナに与えるといわれており、害虫なども捕まえてくれることから、昔から益鳥として人々に親しまれてきました。しかし現在は、都会では巢の材料となる泥や糞をみつけにくいことや、エサとなる昆虫も減ってきていることから、ツバメによって生活しにくい環境になってきています。

では、相模原で見られるツバメの仲間はどんな鳥なのでしょう。

2 調査対象

□ツバメ

□コシアカツバメ（ツバメ科）

□イワツバメ

（ツバメの仲間と間違えやすい鳥）

■ヒメアマツバメ（アマツバメ科）

※詳細は「調査対象種一覧」参照

3 ツバメはどんなところにどんな巣を作るの？

ツバメの仲間は人が生活している近くに巣を作ります。これは人がいることで、外敵が近づきにくいからです。

また、ツバメの仲間は、種類によって巣の形や巣を作る場所がちょっとづつ違います。先ほど出てきた3種のツバメの巣にはどんな特徴があるのでしょうか。

※詳細は「調査対象種一覧」参照

4 調査のしかた

（1）調査期間

5月7日（日）から6月30日（金）まで

（2）調査の方法

① 調査場所

調査票の地図を基に、商店街、人家、駅、歩道橋の下など、ツバメの巣のありそうな場所を探してみましょう。

注1：調査区は500m×500mのメッシュになっています。基本的には中央部付近（調査票の地図の円内）を通る500m以上の経路になるように設定してください。

② 調査道具

手引き書、調査票、地図、筆記用具、身分証（名札）ほか

③ 調べること

ツバメの巣をみつけた場所、ツバメの巣の種類、ツバメの巣の状況など。

④ 調査票記入方法

調査票の地図上に、ツバメの巣があった場所に番号をふり、その番号に対応する表のNoの欄に必要事項を記入してください。

※詳しくは調査票の記入例を参照してください。

⑤ 回収期限

調査票の提出は、7月10日（月）までに環境情報センターに送付ください。

記入例

H18 相模原市自然環境観察員制度身近な生きもの調査

ツバメの巣分布調査（2006 年度） 記録票

調査日：平成 18 年 5 月 20 日（土）

調査者： 相模 太郎

（参考文献）

- ・指標生物自然をみるものさし（（財）日本自然保護協会,1994）
- ・まち中のバードウォッチング（竹下信雄,1985）
- ・山溪ハンディ図鑑 日本の野鳥（叶内拓哉他,1998）
- ・四季 動植物前線（百瀬茂夫,1998）

調査にあたって注意して頂きたいこと

【 安全面 】

- ・調査は、日中に行ってください。
- ・高校生以下の方は、なるべく一人では行かないでください。（行くときは家族に行き先を知らせてください。）
- ・工場や河川敷、がけ地など、危険な場所は、無理に調査をしないでください。
- ・双眼鏡では、太陽を見ないように注意してください。

【 その他 】

- ・工場や農地など、民有地に無断で立ち入らないでください。
- ・双眼鏡を使う場合、人混みや民家などに注意し、誤解を招く使い方をしないよう注意しましょう。
- ・調査に出かけるときは、必ず身分証を携帯してください。
- ・巣に必要以上に近づいたり、さわったりしないでください。
- ・落ちていたヒナを拾わないでください。

◇なぜヒナを拾っちゃいけないの？

野鳥たちにとって、4月から7月は子育てのシーズン。まだ飛ぶ力が十分ついていない「巣立ちヒナ」が地面にいるのを見かけることが多い季節ですが、大半は拾う必要のない元気なヒナです。まずは、鳥と自然界についての正しい知識を得る必要があります。野生とは厳しい世界です。生き延びて当たり前という人間の世界と違い、明日生きている保証はありません。野生の小鳥の平均寿命はおよそ1年半前後と考えられています。一冬を生き延びその後数年生息するものは、ヒナの段階からすると1割あかないかという程度でしょう。

◇ヒナを見つけたときどうしたらいいの？

近くに姿が見えなくても、親鳥は必ずヒナのもとへ戻って世話をします。人がヒナのそばにいますと、かえって親鳥はヒナに近寄れません。絶対に連れていかなくて、そのままにして、すぐにその場を立ち去りましょう。

◇人が野鳥のヒナを育てることは出来ないの？

私たちはヒナに飛び方や、何が自分にとって危険なのか教えることはできません。自然の中で自立していけるように育てるといのは、とても難しいことなのです。人になれてしまったがために、周囲を警戒しなくなって捕食者に食べられたり、野生生活に戻れなくなってしまった鳥の例もあります。また、野鳥を飼うことは、蓄意による保護も含め「鳥獣保護法」で禁止されています。

メッシュ番号	A04	調査地名	相原 6-0-△ ※目印など 相原 6	住所が分からない場合は、「〇〇の信号付近」や「△小学校の南側」のように目印となるものを記入してください。
--------	-----	------	------------------------	--

場所	ツバメの種類	建物の種類	建物の素材	建物の高さ	巣の数	巣の場所	巣の高さ
①	ツバメ コシアカツバメ イワツバメ ヒメアマツバメ	・一軒家 ・学校 ・商店 ・マンション、ビル ・駅 ・工場 ・ガリンスタンド ・橋、歩道橋 ・岩場、崖 ・その他（ ）	・木造 ・コンクリート ・鉄 ・その他（ ）	・1階 ・2階 ・3階以上 （ 5 ）	・ヒナがいる巣 （ ）つ ・親の出入りする巣 （ 1 ）つ ・壊れかけの古巣 （ ）つ	・軒下 ・外壁 ・室内	およそ 15m
②	ツバメ コシアカツバメ イワツバメ ヒメアマツバメ	・一軒家 ・学校 ・商店 ・マンション、ビル ・駅 ・工場 ・ガリンスタンド ・橋、歩道橋 ・岩場、崖 ・その他（ ）	・木造 ・コンクリート ・鉄 ・その他（ ）	・1階 ・2階 ・3階以上 （ ）	・ヒナがいる巣 （ ）つ ・親の出入りする巣 （ ）つ ・壊れかけの古巣 （ 2 ）つ	・軒下 ・外壁 ・室内	およそ 3.0m
③	ツバメ コシアカツバメ イワツバメ ヒメアマツバメ	・一軒家 ・学校 ・商店 ・マンション、ビル ・駅 ・工場 ・ガリンスタンド ・橋、歩道橋 ・岩場、崖 ・その他（ ）	・木造 ・コンクリート ・鉄 ・その他（ ）	・1階 ・2階 ・3階以上 （ ）	・ヒナがいる巣 （ 1 ）つ ・親の出入りする巣 （ ）つ ・壊れかけの古巣 （ ）つ	・軒下 ・外壁 ・室内	およそ 3.0m
該当する項目に丸をつけてください。							
④	ツバメ コシアカツバメ イワツバメ ヒメアマツバメ	・一軒家 ・学校 ・商店 ・マンション、ビル ・駅 ・工場 ・ガリンスタンド ・橋、歩道橋 ・岩場、崖 ・その他（ ）	・木造 ・コンクリート ・鉄 ・その他（ ）	・1階 ・2階 ・3階以上 （ ）	・ヒナがいる巣 （ ）つ ・親の出入りする巣 （ ）つ ・壊れかけの古巣 （ ）つ	・軒下 ・外壁 ・室内	およそ m
⑤	ツバメ コシアカツバメ イワツバメ ヒメアマツバメ	・一軒家 ・学校 ・商店 ・マンション、ビル ・駅 ・工場 ・ガリンスタンド ・橋、歩道橋 ・岩場、崖 ・その他（ ）	・木造 ・コンクリート ・鉄 ・その他（ ）	・1階 ・2階 ・3階以上 （ ）	・ヒナがいる巣 （ ）つ ・親の出入りする巣 （ ）つ ・壊れかけの古巣 （ ）つ	・軒下 ・外壁 ・室内	およそ m

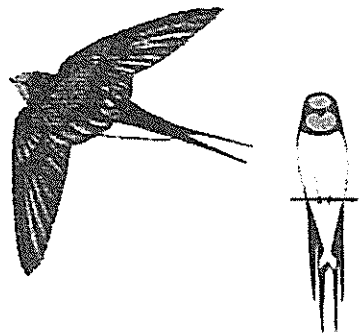
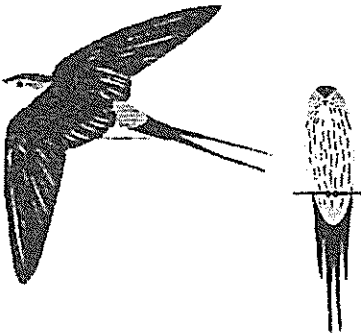
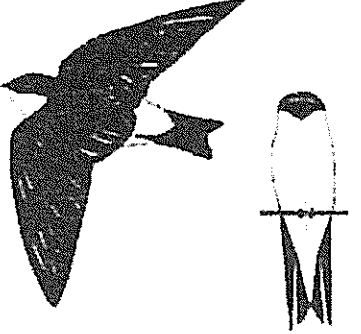
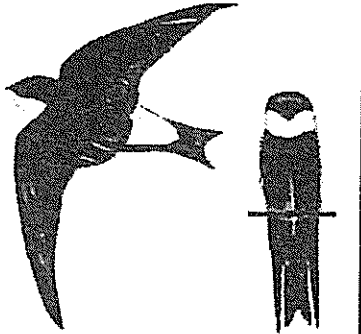
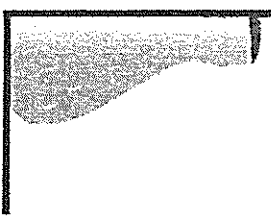
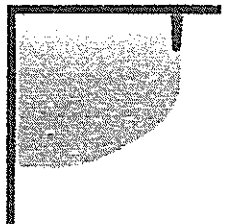
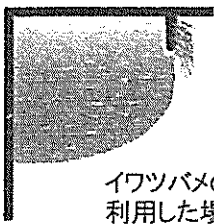
特記事項

表と図の番号を一致させてください。

※③は、同一建物



○調査対象種一覧表

種名	調査対象種			
				
	ツバメ (ツバメ科)	コシアカツバメ (ツバメ科)	イワツバメ (ツバメ科)	ヒメアマツバメ (アマツバメ科)
種の特徴	・もっともよく見かける種 ・のどとおでこが赤く、尾が長い。 ・おなか白い。	・腰と目の後ろの部分が赤茶色で、尾が長い。 ・ツバメよりもやや大きく、ゆったりと飛ぶ ・おなかと胸にあわい縦斑がある。	・腰の部分が白く、尾が短い。(ヒメアマツバメとの区別の方法) ・おなか白い ・羽が短い	・のどと腰の部分が白く、尾が短い。(イワツバメとの区別の方法) ・おなか黒い ・羽が長い
巣の形				 イワツバメの巣を利用した場合
巣の特徴	・商店や住宅の軒下、歩道橋、駅などの人工構造物に作る。(日本では、建物以外に作った例はない) ・1つの建物に1～数個 ・材料は泥と枯れ草。 ・昨年の巣を補修して使う場合がある。 ・お碗型	・人工構造物に作る。 ・木造の建物よりもモルタルやコンクリートの大きな建物を好む傾向がある。 ・とっくり型	・本来は岩壁に作るが、最近は山小屋、橋、都会のビルなどの建造物にも集団で作っている。 ・お碗型(ツバメと比較して出入り口が狭い)	・イワツバメやコシアカツバメの巣を奪ったり、古巣を利用することが多い。 ・自分でお碗型や筒型の巣を作ることがある。 ・出入り口に羽毛をつける。
鳴き声	・チィチュロリ、チュリチュリ、ジュリリ(土くって虫くって、渋い?)	・ジョイジョイ、チュリチュリイ、ジョイジョイ(太く濁った声)	・ジュリジュリ、ビィビィ、ジュリジュリ(早口で濁った声)	・チィーチィー(とまっているとき) ・チュリリリ、チュリリリ(飛んでいるとき)

平成18(2006)年度
相模原市自然環境観察員制度
身近な生きもの調査

帰化植物
(セイタカアワダチソウ)
分布調査
— 手 引 き —



相模原市自然環境観察員制度事業パートナー
相模原市立環境情報センター

はじめに

自然環境観察員制度では、これまでにさまざまな帰化植物の分布調査をしてきましたが、今回は、そのなかで平成13年度に調査をしたセイタカアワダチソウを対象に、追跡調査を実施することになりました。

これからの季節、街の木々は色づき、ススキの穂がひかり、街並みも秋めいてきます。帰化植物として有名なセイタカアワダチソウの黄色い花も秋の風物詩として定着しました。

最近、帰化動植物の問題がよく取りあげられています。交通機関の発達により、人や物が海外に行き来しやすくなるにつれ、生きものも海を越えて別の土地に移動する可能性が高くなってきています。そして海外から渡ってきた生きものは、日本に昔からすんでいた生存競争に弱い生きものの生育・生息環境を奪ってしまいます。平成14(2002)年6月には「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(略称「外来生物法」)」が策定され、国による取り組みも進められています。

市街地でもっともよく見られる帰化植物の1つであるセイタカアワダチソウについて、市内ではどのような分布状況であるか、どのような環境によくみられるかを調べてみましょう。



1 帰化植物ってなに？

帰化植物とは、人の力によって本来の生育地から、その植物が自生していない新しい地域に運ばれ、野生化した植物のことです。

現在、日本には 1000 種近くの帰化植物が存在すると考えられています。また相模原市（旧市域）で確認されるおよそ 800 種の植物のうち、約 150 種が帰化植物です（平成 10 年～11 年実施の自然環境基礎調査結果）。この割合は帰化率といい、相対的な都市化の指標のひとつです。

一般的に帰化植物は人為的に攪乱される市街地の空き地や造成地にいち早く侵入してきます。そのため市街地には帰化植物が多くみられます。また人為的な攪乱ではないのですが、河川敷にも川の増水による攪乱があります。そのため、河川敷でも比較的多くの帰化植物がみられます。

2 調査の対象とする植物

今回調査する植物は、代表的な帰化植物の「セイタカアワダチソウ」と、セイタカアワダチソウと生育環境が類似する、在来種である「ススキ」です。

セイタカアワダチソウは市街地でもよく見られ、河川敷や空き地では大群落をつくれます。また、他の植物が少なくなった晩秋に黄色い花をつけるのでよく目立ちます。

ススキはセイタカアワダチソウと同じように市街地でもよくみられる植物で、皆さんにも馴染みの深い在来種です。

調査対象とするセイタカアワダチソウ（帰化植物）とススキ（在来種）はどのような植物なのでしょうか？次ページから各種の概要を説明します。

セイタカアワダチソウ（背高泡立草）

分類	キク科アキノキリンソウ属
花	花期は10月～11月です。円錐型の大きな黄色い花を咲かせます。
高さ	1～2.5m
分布（原産）	北アメリカ 観賞用として栽培されていたものが、戦後に全国的に広がりました。晩秋まで花があるので、養蜂業者が全国に広めたこともあります。
生育環境	空き地や河川敷に大群落をつくれます。
繁殖方法	種子と地下茎により繁殖します。また、他の植物が生長しにくい物質をだして、自分の分布を広げていきます。
名前の由来	花がおわったあとに「泡立つ」ように冠毛を浮き立たせることから、このような名前がつけました。



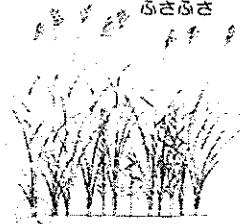
（生育期）

〇ススキ（薄）

分類	イネ科ススキ属
花	花期は8月～10月です。穂のような形で花を咲かせます（花穂）。
高さ	1～2m
分布	北海道から南西諸島に広く分布する在来種です。
生育環境	平地や山地の日当たりのよい場所にみられます。
繁殖方法	種子と地下茎により繁殖します。また茎は叢生（そうせい）し、大きな株をつくります。
名前の由来	「すくすく立つ木（草）」という説があります。
その他	穂を尾に見立てて「尾花」ともよばれ、秋の七草の1つにあげられています。

（参考）オギ

オギ（荻）は、ススキと同じイネ科ススキ属で外見もよく似ていますが、次のような違いがあります。

	ススキ	オギ
生育環境	上表のとおり	河岸池沼のへりなど湿地にみられる。
生え方	根茎が短く、根元から多数の茎が伸びる。  1か所から複数本	根茎が長く、茎は1本ずつ立つ。  1か所から1本
葉	幅2cm以下	幅1～3cm
葉舌	低いが明ら	ほとんどない
小穂 （しょうすい）	長いノギがあり、基部の毛は小穂とほとんど同長  ノギ	ノギがなく、基部の毛は小穂の3～4倍で銀白色  銀白色

3 セイタカアワダチソウとススキはどのようなところに生えているの？

セイタカアワダチソウとススキは、街中でよくみかける植物です。街中でみられる生育環境のうち、いくつか代表的な場所を挙げてみました。

空き地（駐車場など）、道路沿い、公園・グラウンド、
線路沿い、川沿い・水路沿い

また、平成13年度調査での生育地の周辺環境別の結果は次のとおりです。
（生育状況別で上位3か所まで）

	1	2	3
セイタカアワダチソウのみ	駐車場（空き地）	道路沿い	河原（水路）沿い
混生	駐車場（空き地）	河原（水路）沿い	道路沿い
ススキのみ	駐車場（空き地）	道路沿い	河原（水路）沿い

4 調査のしかた

(1) 調査時期

10月15日前後(調査期間は10月1日から10月31日まで)

(2) 調査の方法

① 調査場所

調査票の地図を基に、空き地(駐車場など)、線路沿い、道路沿い、公園などセイタカアワダチソウ・ススキが生えていそうな場所を探してみましょう。

② 調査道具

手引き書、調査票、地図、筆記用具、身分証(名札)、(双眼鏡)ほか

③ 調べること

セイタカアワダチソウ・ススキをみつけた場所の環境、生えていた状況(生育地の大きさ*)など

*大きさ

ある程度の範囲(駐車場や公園など)で考えて合計面積を目測で調べます。

大きさを「数本(10本程度)」、「100m²未満」、「100m²以上」の3段階に分けてください。 ※100m² = 10m×10m

なお、「数本」は面として捉えられない量として考えてください。

④ 調査票の記入方法

調査票の地図上に、セイタカアワダチソウ・ススキが生えていた場所に番号をふり、その番号に対応する表のNoの欄に必要な事項を記入してください。

※詳しくは、調査票の記入例を参照してください。

⑤ 回収期限

調査票の提出は、11月10日(金)までに環境情報センターに送付ください。

送付先: 〒229-0036 相模原市富士見1-3-41

相模原市立環境情報センター

5 参考文献

- ・指標生物自然をみるものさし(財)日本自然保護協会、1994)
- ・四季・動植物前線(百瀬成夫、1998)
- ・生きもの地図が語る街の自然(浜口哲一、1998)
- ・原色日本帰化植物図鑑(長田武正、1976)
- ・植物の生活誌(堀田満、1980)
- ・山溪ハンディ図鑑 野に咲く花(林弥栄、1989)
- ・ポピュラー・サイエンス91化学で勝負する生物たち(1)
ーアレロパシーの世界ー(今村壽明、1994)
- ・日本帰化植物写真図鑑(清水矩宏他、2001)

6 参考資料

□観察の視点

○セイタカアワダチソウが増えるわけ

セイタカアワダチソウは、

- ・日当たりのよいところが大好き。ぐんぐん伸び、他の植物から日光を奪って独り占めします。
 - ・多年草で、根っこからどんどん芽を出して広がるので、刈っても刈ってもなくなりません。さらに、
 - ・根っこから、他の植物の発芽を抑える化学物質を出し、他の植物が育ちにくくします。これをアレロパシー(他感作用)といいます。
- セイタカアワダチソウの他にも、彼岸花(ヒガンバナ)や、ヨモギ、ヒメジョオン属など、非常に多くの植物がアレロパシー物質を分泌することが知られています。

○最近減ってきた?セイタカアワダチソウ

アレロパシー物質は、他種だけでなくセイタカアワダチソウ自身の発芽も抑えてしまいます。しばらくは地下茎で増えるセイタカアワダチソウの天下になりますが、これが何年も続くと地中にアレロパシー物質が溜まり、セイタカアワダチソウは自家中毒を起こして生育が抑えられ、自滅してゆきます。

そこへ、ススキなどの他の植物が進出してゆき、セイタカアワダチソウの草原は、次第にススキなどの草原へと遷移していくわけです。

従って、セイタカアワダチソウの大群落がある場所は、河川敷など増水で地中に蓄積した化学物質が洗い流される場所を除き、土地が改変されてからあまり年月の経っていない場所だといえそうです。

一方、セイタカアワダチソウは、今度は綿毛のついたタネを風に乗せて大量にばらまき、新天地を求めて広がっていきます。

帰化植物（セイタカアワダチソウ）分布調査（2006年度） 調査票

調査日：平成18年 〇 月 〇 日

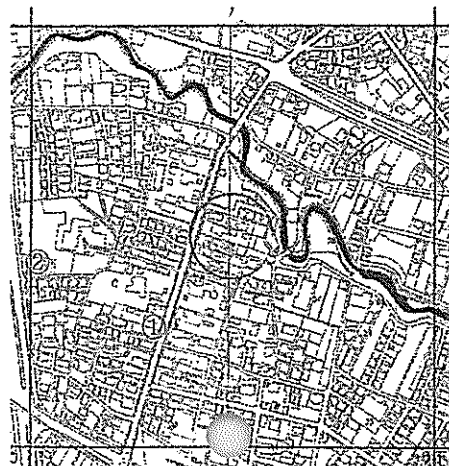
調査者： 稲垣太郎

メッシュ番号	A09	調査地名	※目印など 橋本5丁目付近
--------	-----	------	---------------

番号	植 名	周辺の環境	大きさ	備 考
①	セイタカアワダチソウ ススキ	・駐車場（空き地）・林縁 ・線路沿い ・河原（水路）沿い ・道路沿い ・その他（ ） ・公園	・数本 ・100 m ² 未満 ・100 m ² 以上	
②	セイタカアワダチソウ ススキ	・駐車場（空き地）・林縁 ・線路沿い ・河原（水路）沿い ・道路沿い ・その他（ ） ・公園	・数本 ・100 m ² 未満 ・100 m ² 以上	駐車場内に2、3本生えていた。
③	セイタカアワダチソウ ススキ	・駐車場（空き地）・林縁 ・線路沿い ・河原（水路）沿い ・道路沿い ・その他（ ） ・公園	・数本 ・100 m ² 未満 ・100 m ² 以上	
④	セイタカアワダチソウ ススキ	・駐車場（空き地）・林縁 ・線路沿い ・河原（水路）沿い ・道路沿い ・その他（ ） ・公園	・数本 ・100 m ² 未満 ・100 m ² 以上	
⑤	セイタカアワダチソウ ススキ	・駐車場（空き地）・林縁 ・線路沿い ・河原（水路）沿い ・道路沿い ・その他（ ） ・公園	・数本 ・100 m ² 未満 ・100 m ² 以上	
⑥	セイタカアワダチソウ ススキ	・駐車場（空き地）・林縁 ・線路沿い ・河原（水路）沿い ・道路沿い ・その他（ ） ・公園	・数本 ・100 m ² 未満 ・100 m ² 以上	
⑦	セイタカアワダチソウ ススキ	・駐車場（空き地）・林縁 ・線路沿い ・河原（水路）沿い ・道路沿い ・その他（ ） ・公園	・数本 ・100 m ² 未満 ・100 m ² 以上	

特記事項

セイタカアワダチソウは黄色の花がさいていた。



平成18(2006)年度

相模原市自然環境観察員制度

身近な生きもの調査

テントウムシ分布調査

－ 手 引 き －



相模原市自然環境観察員制度事業パートナー

相模原市立環境情報センター

はじめに

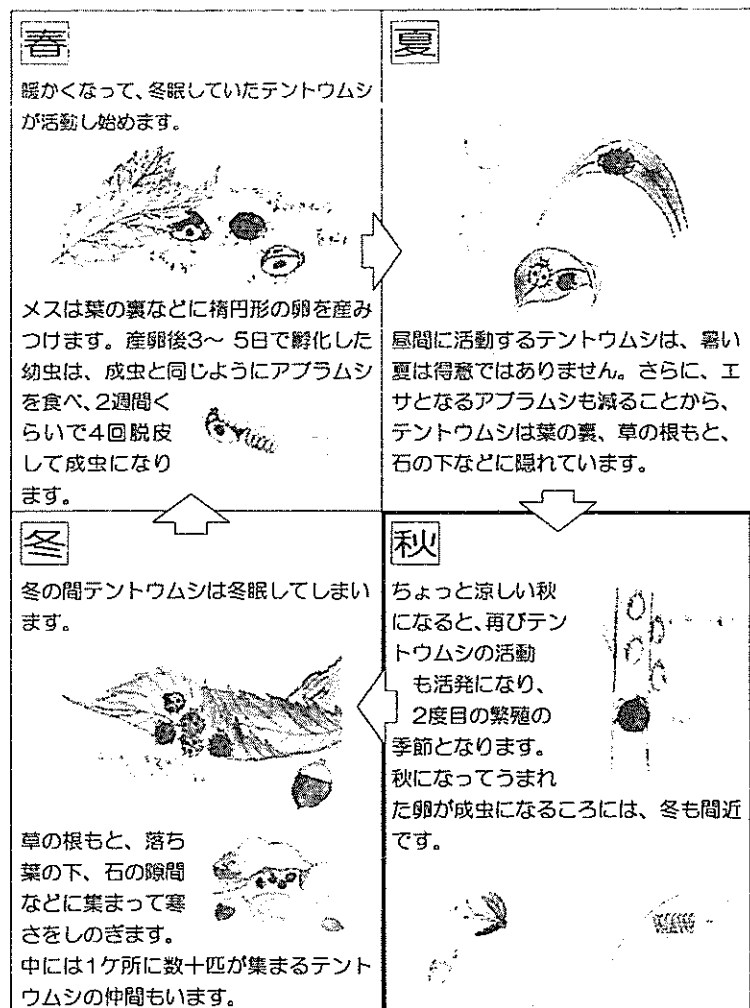
初秋、暑さも和らぎ夏に休んでいたテントウムシが、草木にみられるようになりました。草木の先端にのぼり、飛び立とうと翅を広げている姿がみられるでしょう。テントウムシは、枝や葉の先にのぼってから飛び立つことから、「天への道を知る虫」→「天道虫」→「テントウムシ」と呼ばれるようになりました。

今回の全体テーマ調査は、平成13年度に実施した「テントウムシ分布調査」の追跡調査を実施することになりました。

テントウムシは公園や庭先など、市街地でもよくみかけることのできる馴染みの深い昆虫です。日本には約150種、相模原には約40種のテントウムシの仲間が確認されています。また、テントウムシは、草木の汁を吸う害虫であるアブラムシをエサとすることから益虫として大切にされてきました。普段なにげなくみているテントウムシも、もう少し詳しく調べてみることで、都市の自然を知る手がかりとなるかもしれません。都市でもたくましくくらしているテントウムシの生活に、ちょっとだけ触れてみましょう。

1 テントウムシの生活史

テントウムシは四季を通してみられる昆虫です。春と秋は繁殖期で活発に動くので、その姿がよく見られるでしょう。一方、冬と夏には冬眠や夏眠をします。



2 テントウムシはどのようなところに棲んでいるの？

テントウムシは種類によって棲んでいるところが変わる場合があります。どんな種類のテントウムシが、どんな場所に好んで棲んでいるのでしょうか。テントウムシが棲んでいる代表的な場所を挙げてみました。

空き地(草地など)、森や林(または林縁)、
道路、公園、畑、河原

また、平成13年度調査での生息地の周辺環境別の結果は次のとおりです。
(種別で上位3か所まで)

	1	2	3
ナミテントウ	草地(空き地)	道路	公園、畑
ナナホシテントウ	草地(空き地)	道路	畑
ヨツボシテントウ	(未確認)		
ベダリアテントウ	草地(空き地)	—	—
マクガタテントウ	草地、公園	—	—
シロホシテントウ	草地(空き地)	人家(庭)、公園	—
トボシテントウ	草地(空き地)	—	—
ニジュウヤホシテントウ	畑	草地(空き地)	道路

3 調査の対象とするテントウムシの仲間

今回の調査対象種は、別表(最終ページ「調査対象種一覧表」)のとおり8種類としました(平成13年度と同じ)。これらのテントウムシは、相模原市では比較的よく見られる種、もようが分かりやすい種、生息する場所が比較的限られている種です。

4 調査のしかた

(1) 調査目的

テントウムシは身近な昆虫ですが、知らないこともたくさんあります。テントウムシにはどんな種類がいて、どんなところに棲んでいるのか、どういう生活をおくっているのか調べてみましょう。また、相模原市のテントウムシ各種の分布状況を調べることで、市内の緑地の分布（農・質）、身近な緑（庭や公園の緑など）の状況などがわかると考えています。

(2) 調査時期

10月15日前後（調査期間は10月1日から10月31日まで）

(3) 調査の方法

① 調査場所

調査票の地図を基に、草地（空き地）、公園、林などテントウムシがいそうな場所を探してみましょう。

② 調査道具

手引き書、調査票、地図、筆記用具、虫眼鏡、身分証（名札）、（虫とり網）ほか

③ 調べること

テントウムシをみつけた場所、テントウムシの種類など。その他にも虫眼鏡で観察し、斑紋のつきかたなど気がついたことを記録してください。

また、種がわからないテントウムシについては、観察し、調査票の特記事項の欄にスケッチしてください（または写真を撮影）。

④ テントウムシを探すコツ

- ・アブラムシの多い草を探してみましょう。
- ・テントウムシがいないようにみえるところでも、虫とり網ですくうように草や木の葉をガサガサすると、葉の裏に隠れていたテントウムシが捕れるかもしれません。



⑤ 調査票の記入方法

調査票の地図上に、テントウムシがいた場所に番号をふり、その番号に対応する表のN○の欄に必要事項を記入してください。

※詳しくは、調査票の記入例を参照してください。

⑥ 回収期限

調査票の提出は、11月10日（金）までに環境情報センターに送付ください。

送付先：〒229-0036 相模原市富士見1-3-41

相模原市立環境情報センター

5 参考文献

テントウムシに関する文献

- ・テントウムシ（七尾純、1988）
- ・テントウムシ（佐藤有恒、1994）
- ・日本動物大百科昆虫Ⅲ（片倉晴雄他、1998）
- ・テントウムシの自然史（佐々治寛之、1998）
- ・テントウムシ観察辞典（小田英智他、1999）
- ・大阪のテントウムシ（大阪市立自然史博物館、1999）

自然観察に関する文献

- ・指標生物自然をみるものさし（（財）自然環境保護協会、1994）
- ・自然観察入門（日浦勇、1975）

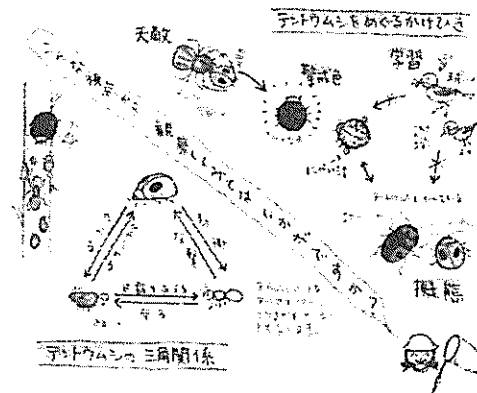
6 参考資料

□観察の視点

○テントウムシに似ている種

テントウムシは目立つ模様をしていますが、鳥などにみつかる可能性が高くなります。しかしテントウムシは危険を感じると死んだふりをして、臭い液体を出します。そのため、鳥などは“テントウムシはまずい”と覚えて、食べようとしなくなります。

テントウムシを他の動物があまり食べないことを利用して、テントウムシに姿形を似せて天敵から身を守る昆虫がいます。今までテントウムシの仲間だと思っている虫も本当は違うかもしれません。興味のある方は、環境情報センターの環境情報コーナーや「5 参考文献」などで調べてみてはいかがでしょうか。



アブラムシ分布調査（2006年度） 調査票

調査日：平成18年（2006年）12月15日（木）

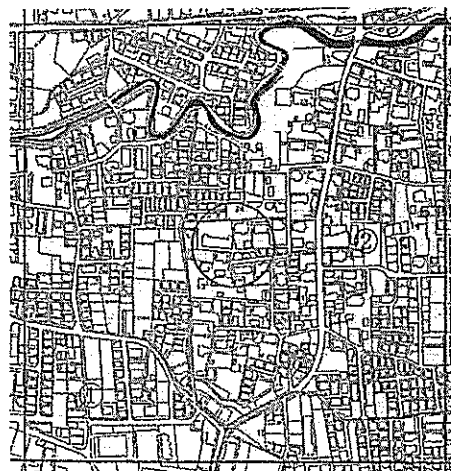
調査者： 相模太郎

メッシュ番号	A04	調査地名	※日印など 相原6丁目付近
--------	-----	------	---------------

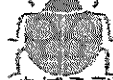
場所	アブラムシの種類	周辺の環境	数	備考	
①	オオホシテントウ	・草地（空き地） ・人家（庭） ・公園 ・道路	・森林 ・畑 ・河原 ・その他（ ）	・1匹 ・2～10匹 ・11匹以上	まどまて草にとまっていた。
②	ナミテントウ	・草地（空き地） ・人家（庭） ・公園 ・道路	・森林 ・畑 ・河原 ・その他（ ）	・1匹 ・2～10匹 ・11匹以上	
③		・草地（空き地） ・人家（庭） ・公園 ・道路	・森林 ・畑 ・河原 ・その他（ ）	・1匹 ・2～10匹 ・11匹以上	
④		・草地（空き地） ・人家（庭） ・公園 ・道路	・森林 ・畑 ・河原 ・その他（ ）	・1匹 ・2～10匹 ・11匹以上	
⑤		・草地（空き地） ・人家（庭） ・公園 ・道路	・森林 ・畑 ・河原 ・その他（ ）	・1匹 ・2～10匹 ・11匹以上	

特記事項

アブラムシはいなかった。



○調査対象種一覧表

種名	調査対象種							
	 紅 型  二線型  四線型  まだら型							
	ナミ デントウ	ナナホシ デントウ	ヨツボシ デントウ	ベダリア デントウ	マクガタ デントウ	シロホシ デントウ	トホシ デントウ	ニジュウヤホシ デントウ
大きさ	4. 7～8. 2mm	5. 0～8. 6mm	2. 9～3. 7mm	3. 3～3. 8mm	3. 0～3. 8mm	3. 1～4. 9mm	4. 5～6. 0mm	6. 6～8. 2mm
エサ	アブラムシ	アブラムシ	アブラムシ	柑橘類の果樹園 につく害虫	アブラムシ	樹木につく菌類	カラスウリ、クマシ デ、アマチャヅル などの葉	ナスやジャガイモ の葉
生息 場所	都市部・山地・河原など 様々な環境に生息	平地・山地・山沿 い・河川敷などに 様々な環境に生 息	山沿いから山地	柑橘類の果樹園 や都市の公園など	河川敷	山地	山沿い・山地	平地や山沿い
特徴	もっともよくみられる種です。 変異が多いですが、大きく4 つのタイプに分けられます。 胸の部分の側面が白くなりま す。または胸の部分は白地 で中央に2対の黒い紋もしく はM型の紋があります。 羽の色は黒地には赤い紋 が、赤地～黄色地には黒い 紋がつかます。これらの紋 は、消えたりくっついてたりして 様々な模様となります。	ナミデントウと同様 によく見られる種で す。羽の色は赤色 で7つの黒い紋が あります。	胸の部分は黒色 です。羽の色は赤 色で黒い紋が4つ あり、また羽の周 囲や合わさる部分 は黒く縁取られて います。羽をよく見 ると細かい毛がた くさん生えていま す。	この種はミカン類 の害虫を食べるの で、世界中で利用 されている帰化種 です。胸の部分と羽は赤 色です。羽の中心線は黒く 中央で広がっておりその他に4つの黒 紋があります。	やや長細いデント ウムシです。羽の 上側に赤い 斑紋が2つつきま す。	胸の中央に茶色 い帯があります。 羽は茶色の地に 白い斑紋が12個 つきます。	羽は赤地に大きく 黒い紋が10個つ きます。胸は大部 分が黒くなります。	ジャガイモなどの 作物の葉を食べる 害虫です。大きさは比較的大 きく羽は褐色の地 に黒い紋が多数あ ります。

種名	調査対象外						
							
	キイロ デントウ	ヒメアカホシ デントウ	ダンダラデントウ	シロジュウシホシ デントウ	ムーアシロホシ デントウ	シロトホシ デントウ	オオニジュウヤホシ デントウ

自然観察かわらばん

Vol.12
平成18年8月発行

- ◆「かわらばん」は、観察員の皆さんから寄せられた貴重なご意見や情報を交流させ、今後の調査をより良いものにしていくために発行しています。
- ◆今号に掲載をしてあります写真は、全て、今回の調査で自然環境観察員のみなさんからご提供いただきましたものです。ありがとうございました。

【調査結果速報】

平成18年度の第1回全体テーマ調査「ツバメの巣分布調査」が終了しました。

調査対象の359メッシュ中、156メッシュでツバメを確認！

観察員の皆さま、ツバメの巣分布調査にご参加いただきましてありがとうございました。

今回、メッシュ中心部の半径 50mの円内を通る経路で調査をしていただき、記録票で報告をいただいたデータをまとめた結果は次のとおりになりました。

表 今回の調査と平成13年度の結果との比較

年 度	対象メッシュ数※	巣あり	確認メッシュ比率
平成13年度	414	179	43.2%
平成18年度	359	156	43.5%

※当制度の途中で、調査対象メッシュを見直したことで数値が異なります。

今回の調査では、4種類のツバメを対象に、巣の形状等から種の同定をしていただきましたが、壊れかけの巣や巣が作られた場所が見にくい位置であったなど、どの種類のものが確認できなかったり、周辺に飛翔していた種類で同定をされた方など、判別が難しい場合もあったようです。一部の調査結果については、担当チーム等により確認をしておりますので、種類別の確認状況については、最終的な報告書でお知らせいたします。

また、この7月に「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」が発行され、＜繁殖期・減少種＞として、平成7年に引き続き、「コシアカツバメ」が、新たに「ツバメ」と「ヒメアマツバメ」が指定されており、種の同定については慎重に対応をしたいと考えています。

※減少種 かつては県内に広く分布していたと考えられるもののうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少しているもの。

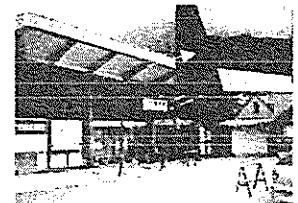


(吉岡孝夫氏撮影)

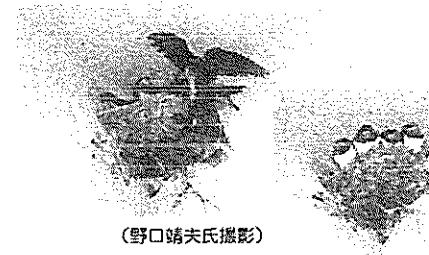
また、今回の調査では、メッシュ調査に併せて、市域で見つけたツバメの巣の状況について、任意調査として報告をいただきました。

調査結果の中には、巣づくりから巣立ちまでを継続的に観察したもののや広域的な調査をしていただいたもの、津久井地域での報告もありました。さらに、詳細な調査により、メッシュ調査を補完した情報もいただきました。

任意調査でご報告いただきました結果につきましては、情報を整理して、環境情報センターに掲示するとともに、メッシュ調査の結果を反映して、今回実施した調査の最終の集計結果といたします。また、考察を加えて報告書にまとめる予定です。



JR相模湖駅 ※塩沢徳夫氏より情報提供
(環境情報センター撮影)



(野口靖夫氏撮影)



(齋藤健夫氏撮影)



(後藤裕子氏撮影)

紙面の都合上、写真をご送付いただきましたすべてのみなさんの写真を掲載できませんでしたが、このほかにもツバメの生態が分かるもの、人工的に巣を補強したもの等、多数の報告をいただきました。ご送付いただいた写真は、環境情報センターに掲示いたしますので、ぜひご来所ください。

※環境情報センター開所時間：平日・土日祝日ともに午前9時～午後5時

■ご感想 (一部のみ)

・ツバメが飛んでいるのは見られたが、巣は見つからなかった。

→今回、同様の感想を多数いただきました。前述した「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」では、ツバメの存続を脅かす要因として、建造物の構造変化、都市化、カラス等の捕食者による弱

やヒナの捕食などが挙げられており、巣の場所も前回調査に比べ、道りから見えづらい位置に作られるようになったためであると考えられます。巣を見つけた方のなかには、住んでいる方から情報の提供をいただき、ようやく分かったとの感想も寄せられました。

- ・民家の軒先より人通りの多い商店街のお店に複数の巣を発見することができた。
→商店街には街路灯があり、エサとなる虫が灯下集まるためであると考えられます。また、商店街には人が出入りするため、カラス対策になっているためでしょう。
- ・分担地図の範囲が分かりづらい。
→地図内の情報が乏しく、分かりづかったようです。今回、記録票の「調査地名」欄に目印などの記載をいただきました情報を、次回の地図に反映いたします。
- ・1回目の子育てが終わり、どこかに集団で暮らしているとのこと。観察会で見学できると幸いです。
→今回の調査で担当チームを務めていただきました、真山氏より「ねぐら入り」についての観察報告をいただきましたので、ご紹介します。

ツバメのねぐら入りを観る

真山正彦

大集団でねぐらを作る種として、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ムクドリなどが知られていますが、8月頃にヨシ原に形成されるツバメのネグラも個体数の大きいもの（数千羽から数万羽になることもあるといわれている）の一つです。

そこで相模川へツバメのねぐら入りを観察しに行ってきました。（主催：東林野鳥の会）

日時 8月1日(火) 17:00～19:10

場所 相模川三段の滝展望広場周辺

記録 17:00 相模川三段の滝展望広場集合①

周辺の野鳥観察

上空を飛んでいるツバメは、まだ餌取りに夢中。

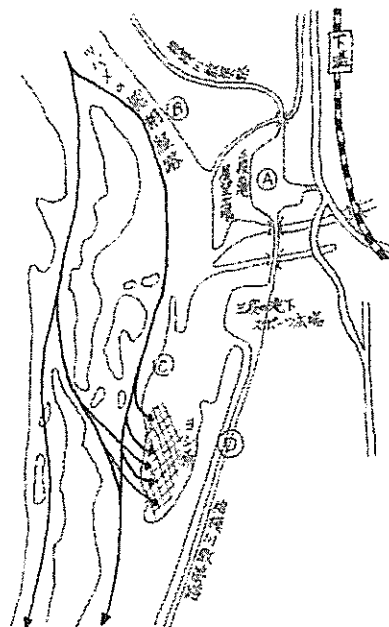
17:40 相模川敷策路を上流に向かって歩き、途中で河原へ降りる②

上流から下流に向かうツバメの集団が少し見られるが、ねぐら入りしているかは確認できない。

18:00 下流へ移動。三段の滝下スポーツ広場を通り河原へ③

18:20 上流側から水面すれすれに小さな集団のツバメが次から次へと下流側に飛んでいく。

18:30 ツバメの数も多くなり、近くのアシ原へ一瞬にして消える集団、さらに下流へ飛んでいく集団もいる。



19:50 上からねぐら入りを見てみようと思い⑤地点へ移動。

集団で飛んできたツバメがアシ原に入り、アシの根に止まり、静止する姿は双眼鏡でも見える。ねぐら入りはピークを迎えたようで、ツバメの集団は次から次へとアシ原へ一瞬にして消えていく。すでにねぐら入りしているツバメがいて、ねぐら入りできないツバメは、他のねぐらを目指し飛び去る。19時を過ぎるとツバメの数も少なくなってきて、上空にはねぐら入したツバメと入れ代わるように、アブラコウモリがひらひらと飛んでいた。

メモ

集団ねぐらは古くから注目されていて、

- ・安全な場所を求めて集合する。
- ・多く集まることで外敵への警戒を強める。
- ・餌に関する情報交換(情報センターの役割)。

などの説があるようです。皆さんはどのように思われますか。夕方の群れ飛びを見ながら、ツバメはどのように考えているのか想像してみるのも楽しいと思いませんか。

今後の予定

<平成18年度 第3回 かんきょう学習セミナー>

日にち:平成18年9月24日(日)

場 所:環境情報センター学習室(2階)

内 容:第2回全体テーマ調査について

※詳細については、後日ご案内いたします。

口秋の全体テーマ調査は、テントウムシとセイタカアワダチソウ、ススキの調査を実施します。

相模原市立環境情報センター(相模原市環境保全部環境対策課)

〒229-0036 神奈川県相模原市富士見1-3-41

電話:042-769-9248 FAX:042-751-2036

アドレス:kankyou-center@city.sagamihara.kanagawa.jp 担当:小林、小泉

相模原市自然環境観察員

自然観察かわらばん

植物調査部会版 Vol.6
平成18年11月1日発行

「かわらばん」は、植物観察員から寄せられた資料や情報を受け、今後の調査より良いものにしていくことに努めています。

カワラノギクの保護活動と河原の植物観察会を実施

植物調査部会では、平成15年度(2003)から継続して、カワラノギクに係る部会等を開催しています。市内では平成6年(1994)以後の確認がとれていませんでしたが、平成16年に相模川神沢地区で確認されました。これを機に、今年度も継続して市立博物館と連携し、神沢地区にあるカワラノギクの保護地の除草作業を有志で実施しました。

1回目は、7月25日(火)に7人の参加者で実施しました。当日は、海老名市のカワラノギクを守る会会長の河又さんも参加し、市立博物館の秋山学芸員とともにカワラノギクの苗と雑草の違いについて指導いただき、コセンダングサ等の草抜きとアカメガシワ等の除去を行いました。また、草抜き後、秋山学芸員の指導により付近の植物観察会を実施しました。

2回目は、コセンダングサの種が落ちる前の9月12日(火)に、秋雨の中11人の参加者で実施しました。秋山学芸員の話では、カワラノギクの苗は100株程度で、今年開花するのはおそらく20株前後の見込みとのことです。

草抜き終了後は、秋山学芸員の指導により、カワラノギクが他のところでも咲いているか調査しながら、河原の植物観察を実施しました。保護区から下流の所にカワラニガナ、カワラハハコが見事に群生している景色に出会うことができました。コセンダングサやセイタカアワダチソウの背丈が低い分、群生がはっきりと確認することができ、とても爽快な気分です。

お時間が取れる方は、ぜひ、神沢地区のカワラノギクをはじめとした河原の観察をされてみては如何でしょうか。また、10月25日に同じ種子のカワラノギクが環境情報センターの花壇で開花いたしましたので、お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。



▲除草前(9/12)



▲除草後(9/12)

当麻のたんぼと河川敷の植物観察会を実施

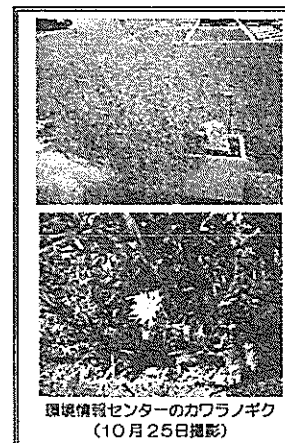
第3回植物調査部会は、「当麻のたんぼと河川敷の植物観察会」として、10月17日(火)に18人の参加者で実施しました。

相模原市南部の低地に位置する当麻から磯部にかけてのこの地域は、相模原市自然環境基礎調査(H10~12年)において、三段の渚下周辺のツルヨシ群集やオギ群集、ヨシ群落などの湿性の草本群落が多くみられることなど、本市の環境特性の指標となる自然環境があることが報告されています。このため市博物館の秋山学芸員の同行により、たっぷり2時間をかけて、指導をいただきながら観察会を行いました。

田んぼ周辺の畦道では、稲刈りが終わった田んぼの風景を眺めながら、コセンダングサやオオオナミなどの“ひっつき虫”、カントウヨメナやノコンギクなどの野ギクの仲間、その他帰化植物などの植物や、ゴミの不法投棄現場や廃棄物の処理施設などの周辺環境も観察することができました。河川敷では、オギとススキの見分け方の実践を行い、ツルヨシ、トダシバ、シナダレスズメガヤ、チカラシバ等の特徴を聞きながら観察しましたが、やはりここでも大量の建築資材等の不法投棄を目にすることになりました。全体的には、今秋の全体テーマ調査にも取り上げられた「セイタカアワダチソウ」が河川敷や田んぼの休耕田など、黄色い頭花をびっしりとつけた状態できれいに咲いていることやオギとススキとツルヨシの群生においてはそれぞれの花穂が気持ちよさそうに秋風に揺られている姿が強く印象に残りました。



三段の渚下広場からオギ群落を望む



環境情報センターのカワラノギク
(10月25日撮影)

相模原市環境保全部 環境情報センター

〒229-0036 神奈川県相模原市富士見1丁目3番41号

電話: 042-769-9248 FAX: 042-751-2036

アドレス: kankyou-center@city.sagamihara.kanagawa.jp 担当: 菅井・小泉

※10/1 付人事異動のため、小林が市民税課へ、新たに菅井が着任いたしました。

ホームページアドレス <http://www.eic-sagamihara.jp/>

自然観察かわらばん

野鳥調査部会版 Vol.1
平成19年1月1日発行

「かわらばん」は、観察員の皆さんから寄せられた貴重なご意見や情報を発表させ、今後の調査をより良いものにしていくために発行しています。

学習・観察会（第2回部会）を実施

第1回野鳥調査部会での検討結果に基づき、今後の調査活動を行うため、学習を兼ねた観察会を、平成18年12月2日（土）、相模原沈殿地を会場に実施しました。

この観察場所は、平成11～12年に実施した相模原市自然環境基礎調査「鳥類」の調査ルート・地点27調査地の一つで、カモ類をはじめカイツブリ類やカワウ、アオサギ、オオバンといった水辺に生息する種が優先し、とくに冬季には12種千羽以上ものカモ類が生息するなど、カモ類とカワウの重要な越冬地となっているポイントです。

今回の学習・観察会で確認した鳥は、アオサギ、アメリカヒドリ（解放後複数人が確認）、オオバン、オカヨシガモ、オンドリ、オナガガモ、カルガモ、カワウ、カワラヒワ、キンクロハジロ、コガモ、スズメ、セグロセキレイ、タヒバリ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ヒドリガモ、ヒヨドリ、ホシハジロ、マガモ、モズ、ユリカモメ、ヨシガモの24種でした。



▲カルガモ(上) ▼キンクロハジロ(下)



分類			
目	科	種	渡り区分
ペリカン	ウ	カワウ	留鳥
コウノトリ	サギ	アオサギ	留鳥
カモ	カモ	オンドリ	冬鳥
		マガモ	冬鳥
		カルガモ	留鳥
		コガモ	冬鳥
		ヨシガモ	冬鳥
		オカヨシガモ	冬鳥
		ヒドリガモ	冬鳥
		アメリカヒドリ	冬鳥
		オナガガモ	冬鳥
		ハシビロガモ	冬鳥
		ホシハジロ	冬鳥
		キンクロハジロ	冬鳥
ツル	クイナ	オオバン	冬鳥
チドリ	カモメ	ユリカモメ	冬鳥
スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	留鳥
		セグロセキレイ	留鳥
		タヒバリ	冬鳥
		ヒヨドリ	留鳥
		モズ	留鳥
		アトリ	留鳥
		ハタオリドリ	留鳥
		カラス	留鳥

野鳥調査部会の活動について

自然環境観察員制度における「専門部会」は、専門的な知識が必要であったり、グループで行ったほうが効率的な調査を行うために設置し、興味・関心が共通していたり、同じような問題意識を持っている方々がまとまって活動をしていく中で、共通テーマによる調査では得られない、より高度なデータの集積をすることを目的としています。このため、野鳥調査部会の目的は、過去に調査した相模原市自然環境基礎調査の「野鳥」の追跡調査を行うことにより、相模原市の鳥類相の把握や鳥類相からみた緑地環境等の移り変わりを把握することとします。

調査の手法は、線センサス法、定点観察法とし、調査地点等はこれまで調査した27調査地に津久井地域を追加します。また、調査地点等が多いため、5年間以上の長期計画を作成し調査を進めるとともに東林野鳥の会や相模原探鳥会で活動をされている観察員の皆さんから野鳥の確認情報を提供していただくなどの調査を補完することも視野に入れていきます。心当たりがある観察員の皆さん、ご協力よろしくお願いいたします。<下に調査地を明記します。この話の続きは2月の学習・観察会で。>

なお、野鳥に関する知識が乏しいなどの心配がある方は、とにかく、ベテラン観察員さんについて積極的に活動していくことが最大の学習方法であるようです。図鑑などの参考図書を読んだりすることも推奨されています。野鳥調査部会かわら版にも、野鳥に関するミニ知識をシリーズで掲載しサポートしていきます。

調査地域分類	ルート・定点コード	備考	コース及び地点の特徴
沿地部(相模川沿岸地域)	R1	1300m	相模川の河川敷と崖線の斜面林を通るルート
	R3	1500m	相模川沿いに広がる耕作地に面したルート
	R4	2300m	市域の南部、下流地域の相模川沿いに広がる耕作地を外周するルート
	P1	上大島	相模川に面した堤防上
	P2	神奈地区	相模川河川敷内(R1の線上)
	P3	田名塩田	相模川に面した土手上
斜面部(西部地域)	P4	下磯辺	下磯辺にある水田の中
	R2	900m	斜面林に面した八頭川沿いのルート
	R6	700m	横山丘陵地内を通るルート
	R7	1300m	新田付近を流下する地川沿いのルート
	R8	2200m	古山の崖線と崖線上部にある沈殿池を外周するルート
	R9	1200m	渡部山谷の断崖絶壁及び周辺の耕作地に面したルート
	P5	三笠重工北	大島の台地上に広がる耕作地の中
台地部(東部地域)	P6	横山	横山公園内の小高い丘上
	P7	下溝	相模原沈殿地
	R5	1100m	市街地に囲まれた相模原北公園内のルートで樹林や広場を通る
	R11	1400m	相模原中央の市街地を通るルート
	R12	1600m	大野台のこもれびの森等の中を通るルート
	R14	1700m	市域の南部、相模川沿地にある相模ゴルフ場と住宅地とに挟まれたルート
	P8	麻溝公園南	麻溝公園の緑地
堤川地域	P10	堤根	市立博物館
	P13	相模大野	相模大野の大野公園
	R10	1700m	宮下本町の堤川沿いのルート
	R13	1100m	市域の東部で横野森付近を流下する堤川沿いのルート
	P9	横野森東	元横本町の住宅地
(津久井地域)	P11	森野辺本町	常盤町にある飯島神社
	P12	横野森ランド	横野森の堤川斜面緑地の上部斜面緑地
			R15以東の新設
			P14以東の新設

野鳥ミニ知識 ① 『越冬する小鳥たち』

●北の国から

今年もジョウビタキやツグミが、ロシアなど北の国から越冬のために渡ってきた。北の国では雪や氷におおわれ、えさが取れなくなった。

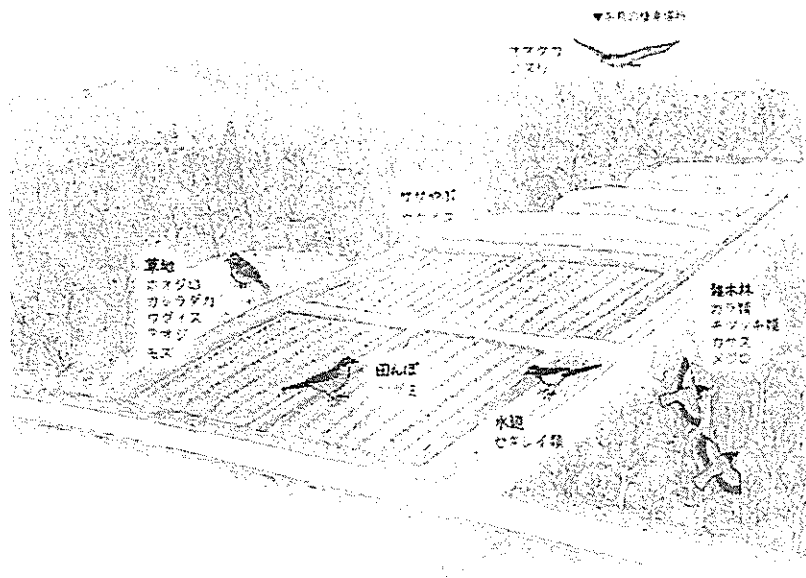
冬鳥には、北の国から渡ってくるものと、国内の山地から下りてくるものがある。前者にはジョウビタキ、ツグミ、シロハラ、マヒワが、後者には、カケス、ルリビタキ、アカハラ、アオジなどがある。繁殖期に相違があるが、越冬地として日本の里山で生活している。

秋から冬にかけて、里山では多くの冬鳥が越冬するので、留鳥（1年中同じ地域で見られる鳥）と冬鳥（秋～冬に見られる鳥。北の国で繁殖した後、日本には秋に渡ってきて冬を越し、春に去る鳥。）が一緒になって、鳥の種類も個体数も多くなる。この時期は、雑木林のほとんどの木が葉っぱを落とすため、見通しがきいて1年で鳥がいちばん見やすい時期である。

●乏しい食べ物

晩秋から初冬にはまだ木の実が残っている。カキの実、ムラサキシキブ、ムクノキ、クヌギなど、鳥が食べられるものはたくさんある。しかし、1月から2月には、木の実がだんだん少なくなり、虫たちは落ち葉の中や木の幹に隠れてしまい、食べ物を探すには大変。木の葉が落ちて丸見えになったので、上からタカにねられやすい。

雑木林では、シジョウカラやエナガが群れをつくって、食べ物を探しながら移動している。虫の卵や幹の中の幼虫でも探しているのだろうか。田んぼでは、ホオジロやカシラダカが群れてえさをついばんでいる。林のへりでは、シロハラやツグミがミミズなどのえさを探するため落ち葉をひっくり返す。やぶではウグイスやアオジがゴソゴソ移動している。



「里山生きもの博物記（荘司たか志・写真と文 山と深谷社 2003）」より

野鳥ミニ知識 ② 『タカについて』

※この情報は、環境情報センター事業協力者登録制度に登録している「東洋野鳥の会」の会報（2005年3月1日号）から引用しています。

○共通する識別のポイント

- ①大きさ ②尾羽の形・長さ ③翼の形状・幅 ④腕の幅 ⑤飛び方 ⑥時期 ⑦生息環境 ⑧天気
- 「ミサゴ」 かなり大きめのタカで魚しか食べないので、水のある所で見られます。水に飛び込んで魚を捕ります（ミサゴ以外のワシ・タカは水には入りません）ので、カモなどは水の中心へ逃げます。カラスに絡め取られないように魚は、飛びながら食べません。見晴らしの良い枝でゆっくり食べます。繁殖期以外はほとんど鳴きません。四角っぽい尾羽、長い翼、頭の後に飾り羽、翼の先に指は5本
- 「ハチクマ」 夏鳥（5月～10月）で低い山で夏を過ごします。渡りの時はどこでも（市街地や海岸の上等）見られます。長く幅広い翼と尾羽、頭と首が細く小さい、指は5本
- 「トビ」 日本中で一番見られるタカです。留鳥で海岸から高い山まで牛歩します。飛びながら足に持ったエサを食べます。旋回しながら長く飛びます。体臭が強い。死んだ動物などを食べてくれる大切なタカです。（お掃除屋さん）トビのエサ捕り術：サギの後から執拗に突いて、食べたばかりの魚を吐かせ空中でキャッチして絡め取ります。尾羽は先が凹んでいます。（または平ら）、飛んでいる時は肩が出ます。指は6本
- 「チュウヒ」 湿原、河川、池沼、水田、水辺にアシ原がある開けた所にいます。（利根川にはいっぱいいます）地面すれすれに飛んでエサを捕ります。（耳で獲物を探します）V字形でグライディングします。低くホバリングもよくします。
- 「ツミ」 低地から山まで生息するかなり小さなタカです。元氣いっぱい自分より大きいタカを攻撃することもあります。（縄張り意識が強くほとんど負けることはない）羽ばたきの回数は多い。ヒヨドリ大ともキジバト大とも言われています。尾羽は短く、翼は細長い、指は5本
- 「ハイタカ」「オオタカ」 この2種は間違いやすい。ハイタカはオオタカより少し小さいだけ。オオタカは翼の先が丸みがある。ハイタカは翼開帳に対して尾羽の比率が長い。オオタカは翼の下側がS字が強い。ハイタカは羽ばたきが速い。
- 「サシバ」 日本では夏鳥。この辺りでは春と秋の渡りの時期に見られます。翼は細長く透けて見えます。体は細い、オオタカより羽ばたきは深く体は小さく見えます。
- 「ノスリ」 翼は短く、堅くしなやかさの無い羽ばたきをします。尾羽は短く、広げた時丸く見えます。上空では翼の下面の肩幅が目玉模様が見えます。旋回する時は肩を前へ突き出す形（羽を少しずぼめる形）になります。
- 「チョウゲンボウ」 翼は長く尖っていて、連続的な速く浅い羽ばたきをします。開けた所でよくホバリングをします。その時体は水平または45°を保ち、頭は下を向いて獲物を探しています。
- 「ハヤブサ」 翼の体に近い部分は幅広く短い、翼は三角形で先は水平か少し下向き（他のタカは上向きが多い）尾は長四角が先が少し細くなっています。羽ばたきは力強く、飛ぶのは速い（狩をする時はもっと速い）上空から落ちるように降りて足で獲物を捕らえます。

一 今後の予定 一

O2月に学習・観察会（第3回部会）を相模川沿岸地域の神沢地区（P3地点等）で開催します。

【過去調査】サギ類やカワセミ、セキレイ類といった水辺周辺に生息する種のほか、セッカやホオジロ、カワラヒワといった草地等の開けた環境に生息する種が確認されている。

【一言メモ】広い河川敷では丈の低い草地、高い草地、疎林などの環境ごとに小鳥の種類も豊富。広い水面には湖沼と同じような鳥。水際近くでは一年中カワセミ、イソシギ、セキレイやサギのなかまが。上空にはタカのなかまも。 「新・水辺の鳥」（財）日本野鳥の会より

=====

相模原市環境保全部 環境情報センター

〒229-0036 神奈川県相模原市富士見1丁目3番41号

電話：042-769-9248 FAX：042-751-2036

アドレス：kankyou-center@city.sagamihara.kanagawa.jp 担当：菅井・小泉

ホームページアドレス <http://www.eic-sagamihara.jp/>

=====

相模原市自然環境観察員

自然観察かわらばん

湧水調査部会版 Vol.7
平成19年3月20日発行

◆「かわらばん」は、観察員の皆さんから寄せられた貴重なご意見や情報を交流させ、今後の調査をより良いものにしていくために発行しています。

城山地区の湧水9ヶ所を対象に調査を実施

当初は、津久井地区の湧水箇所を調査する予定でしたが、適切な箇所が確認できなかったため、城山在住で「城山ホテル研究会」の保坂健次氏に現地案内をお願いし城山地区の湧水調査を3月17日に行いました。

当日は、朝方は小雪もばらつくあいにくの天気でしたが、調査員11名、また城山地区からも保坂氏を含め13名が任意参加し、3月11日に旧城山町、旧藤野町と合併後最初のイベントとしてふさわしい盛り上がりを見せました。

調査結果は下記のとおりですが、特に山間部での水質の良さが参加者の印象に残りました。

※調査箇所は次ページを参照してください。



No	調査箇所	pH	EC (mS/cm)	COD (mg/l)	水温 (℃)
1	清水の湧水	6.5	0.18	1.5	14
2	男滝・女滝	6.5	0.09	1.0	6
3	尻無沢	6.7	0.16	0	6
4	慈眼寺湧水	7.2	0.02	0.5	10
5	普門寺	7.3	0.07	0	8
6	谷津川水源	7.5	0.04	1.0	10
7	旧知恩寺湧水	7.4	0.05	1.0	11
8	死人橋 川	7.5	0.03	0.5	8
9	川 湧水	7.2	0.04	0	12

pH:水素イオン濃度, EC:電気伝導度, COD:科学的酸素要求量

○湧水調査地点図



平成19年度以降の事業計画について

平成19年度からの湧水部会調査の事業については、下記表のとおり、前回実施した旧相模原地域29箇所を5年のサイクルで実施しようと計画していますが、今回調査した旧城山町地域の湧水箇所を調査対象とするか否かについて、部会でご意見を伺いながら決定していきたいと考えています。

○年度別調査計画

年	湧水番号・名称		年	湧水番号・名称		年	湧水番号・名称	
19	1	横山丘陵緑地公園	21	14	相模病院	23	24	清谷寺下
	2	横山丘陵緑地地下		15	当麻山公園		25	神沢・滝
	3	道保川公園内		16	緑化センター裏		26	神沢・上
	4	道保川公園下		17	塩田ホーム脇水路		27	神沢
	5	十二天神社横		18	東急工地下		28	老人福祉センター・栗松橋下
	6	相模原浄水場下		19	リバーサイド田名ホーム並び		29	相模川自然の村・水路
20	7	フィッシングパーク上	22	20	望地の渡し・上流側	※23年度の「久 相模川自然の村・水路」は調査しない。	30	相模川自然の村裏
	8	フィッシングパーク下		21	釣り場・高田橋寄り			
	9	麻溝台		22	大杉公園池			
	10	相模ヶ丘病院下		23	相模川ふれあい科学館上			
	11	大下坂下	★部会において、旧城山町地域の湧水調査を実施すると決定した場合は、23年度及び24年度の計画を見直します。					
	12	相模中学校裏						
	13	勝坂遺跡						

相模原市立環境情報センター

〒229-0036 神奈川県相模原市富士見1丁目3番41号

電話: 042-769-9248 FAX: 042-751-2036

アドレス: kankyou-center@city.sagami-hara.kanagawa.jp

HP アドレス <http://www.eic-sagami-hara.jp/>

担当: 星野・菅井・小泉

ご意見・ご感想一覧
○調査対象 ツバメの巣

分類	項目	内容
	新たな発見	最後に自宅前のマンションの上を飛んでいるツバメ5～6羽に気づいた。毎年来ているマンションの1Fの軒に2ヶの巣があった。すでに成長していて巣立ち間近。まさに灯台下暗しであった。子育て中には気づかなかった。 意外だったのは人通りの多いビルの密集した所で飛来しているのが多かったこと。 久しぶりに行った地区に新しい家が増えて住宅地になっていてびっくりした。 声を掛けると皆さん協力的でありがたかった。 仲間の協力がありがたかった。
	嬉しかった	オラリオンの巣はみごとです。きれいな巣が並んでいました。近くに私たちが管理している公園があり、飛び回っているけれど探することが出来なかったが、雨に日に草取りをした後出会ったときはうれしかった。 ツバメの巣の調査メッシュ5区分を担当して、やっと1区分のメッシュ(E-12)で初めて巣を発見しました。とてもうれしく感動しました。もう1ヶ所巣が見つかりましたが(F-13)残念ながら昨年までのものか、あるいは今年作られたものかは判別できず、且つ、巣が半分ほど崩れておりツバメが(ひなも含めて)住んでいる様子は伺えませんでした。発見した1ヶ所では感動のあまり、しばし、たたずみ巣のあるお店の方にいろいろお聞きしました。毎年ツバメが来てくれていること、ひなが4匹いることなど楽しく観察しました(6/7)。 ひとつも見つけられないと思っていましたが、どうにか雛のいる巣にめぐり会えました。うれしかったです。 境川鶴森地区散歩路では、カワセミがいるせいか鳥好きが集まり、顔見知りもできました。「何見てるの?」、「この頃少ないね」、「去年あそこに巣があったけど今年は壊されていない」など情報を頂き歩きましたが、川の中のエサ採りかツバメは見ても巣は…。最後に中学生に話しかけられて自然観察証を見せて巣の図面を見せると家に巣があるとのこと。嬉しくて中学生とツバメの話ができたこと、何よりのご褒美でした。夕方でしたので、親鳥が餌を運びに難儀は首を伸ばして大きな口を開けていましたが、翌日9時過ぎに写真を撮りに行ったら、雛は寝ていました。 とても楽しくわくわくして探しました。 楽しく終了することが出来て感謝です。
	意識の変化	人に聞いてもツバメはいない、少ないと言われる。隣に家に巣があっても気づかない人がいた。一般的に興味がない。 平成13年に続き2回目の調査であるが今回は前回に比較し多くの巣が発見できました。これは前回調査した経験から、ツバメの飛ぶ姿を日常から自然と観察していたのに気づいた。 市役所の裏などイワツバメが沢山いたが、自然が壊されたせいかイワツバメは見られなくなった。 初年度の調査とは場所が違ったため、ツバメが減ったのか、もともといないのか分からないが、すれちがった数人の方にお話をうかがったところ、今年は少ない、巣は見えていない、とのことだった。全体的に減少しているのかもしれない。 相模川近辺、境川近辺では多数のツバメの飛翔がみられたが、今回調査区域では日常的にツバメの飛翔に出会うことは希であった。 数年前には巣があったが今はないというのがいくつかありました。この事実は私の近く橋本5丁目でも同様です。通りに面したコンビニ、マンションにあった巣が今年はありません。 調査内(町田市)にあった水田を見て驚きました。畦に小さなフェンスがあることです。これでは巣材の泥が集められません。電線にツバメの見られない夏は寂しい限りです。こんなにツバメに会えないとは信じられない気持ちです。 相模原市南部の当地域も昭和30～40年ごろは周りに田畑も多くツバメはどこでも確認された鳥でした。今回、同地域を廻ってもツバメ自体を確認するのが困難な状況を知り、改めて環境の変化に驚かされました。 以前と比べて、ツバメの数が少なくなったように思われる。 昔は木造建ての家の中まで入っていた様だが、今はコンクリートの壁面、新築の建ち並ぶ処、露地に2～3軒等、何か燕も変わってきているのかなと思う。十数年来ている様な家の人には、巣の作り方、どのような処に作るか等等、実に詳しく知っている。 以前(5年くらい前)は東林間の駅にもツバメの巣を見ながら通勤したのですが、最近は今く家の近くではツバメを見なくなりました。 現在の住所に引っ越して23年になりますが「ツバメ?」と意識したのは今回の調査が初めてです。子供時代は家の中庭に巣をかけ子育てをしたツバメが秋には電線に集結し南に飛び去るのを毎年観ていました。こんなにツバメを見つけることが困難な時代に(状況)なっているとは全く思っても寄ってませんでした。環境の変化の一言では済まされないことですね。「田んぼ」が無くなり、小さな虫(ツバメの餌)が少なくまた巣作りの為の土も見当たらなくなったのでしょね。
	疑問	相模台高校の体育館下にはたくさんのイワツバメの巣と思われる巣が住宅街のようにあります。しかし今は使われていないようでほとんど壊れかけです。これは昔はツバメの餌となる物(生物)が沢山いたのに今はまったく餌が獲れないということでしょうか。 相模原駅横浜銀行前の階段裏に巣があるが一昨年来まで三菱東京UFJ銀行隣の床屋(4階・1000円)の外壁の所に巣を作っていたツバメでしょうか?(去年塗装した) 巣を見つけるのは難しかったです。巣がありそうだった軒下などは人の家の庭に入らないと見えなかったりで見たくても見る事が出来ませんでした。 6月中旬からツバメが飛んでいるのは見るのですが巣を見つけることはとても難しかったと思います。自転車であわったのですが、ジロジロ家を見ることが出来ず捜すのに苦労しました。

感想

苦労しました

(1)5月度は、天候不順であり、調査予定日が生憎雨の日が多く調査日が6月に移行した。(2)最近のツバメの巣は、簡単に発見できない場所に巣作りをしている為、ツバメの出入りの観察が必要であり時間の浪費が多く、結局発見出来ない場合が多いものでした。(4)調査地区に於いて、ツバメ巣が発見出来ないで、地区上空を飛んでいるツバメ及び電線にいるツバメの種類を探すこととしました。
巣が玄関の入り口にあるものが多く、じっくり観察出来なかった。
6月に入ってからの方がツバメの飛んでいる姿を見掛ける様になったが、巣を見つけるタイミングは大変だった。
探す方法がわかると最初は見つけるのは大変だったが、行けば探すことが出来た。
公共の開放された建物であれば内に入って調べられますがそれ以外の建物では住居者又は管理者がいないと入れないので外側から見る程度でしか調べられなかった(観察員証を首からさ下していても軒先を注視するには気遣いがした)
子ども(3人)の行事や天候のため、調査日を確保するのが大変でした。

残念でした

ガラスの被害で巣が壊れているのを見たが残念。
6月の末、電線に止まった子ツバメに親が餌を与えていた。この日、ツバメの姿は多かったが電線などに止まっているのが多く、巣は探せなかった。
5/10 小雨のち、うす陽が差したので調査に出た。雲多く南風やや強い。ツバメあまり飛んでいない。巣の発見なし。まだ自分のための食事なのか、夕方は木の中へ帰るのだろうか。6/8 もう子育てしているだろうと思い調査に出る。5月よりも姿を見ない。ルートセンサスでは無理と考えると、下校中の子どもたちに情報を聞く。大人に聞いても「いないですね」。長屋門の天井には古い跡があるが、今年の巣はない。玄関先が汚れているので嫌われたのか。巣を教えてもらって見に行くと表通りからは決して見えない所にある。1軒1軒のぞきこむわけにゆかないので、軒下、地面にフンの跡がないかを見ながら歩くが発見出来ず。[調査方法] 円内だけだと全て「0」発見できずになってしまう。[その他]田んぼや川から離れた麻溝台や大野台でも飛ぶ姿は見られた。
ツバメが飛んでいる姿は見かけるが巣を見つけるのは難しい。残念！
調査に出たのが6/20過ぎで、時期が遅すぎたためか、全く巣を見つけることができなかった。民家や商店の軒下やガレージなど、いかにもツバメが巣をかけそうなど注意深く探してみたが、巣の痕跡もなかった。飛んでいるツバメを目で追おうと思っていたが、ツバメを見たのが2回きりで、それも遠くの空高く飛んでいたで見失ってしまった。
御園1-●-●のツバメの巣がいつの間にか無くなっていたのです。その家の人に聞いてみると、「誰かに取られ巣だけ車の上に置かれていた」と教えてくれました。ヒナはいなくなっていたそうです。人間がやったのか他の鳥がやったのかは分かりませんがショックでした。親鳥はまだまだに巣があった軒下に来るそうです。
ツバメが飛んでいるのに巣を発見できなかった時は悔しかったです。特にヒメアマツバメらしきツバメを発見したのに巣を見つけれなかったときは悔しかったです。
飛んでいる親鳥は、たくさん目撃できるのに巣はなかなか見つけれず、残念でした。
一番下の子ども(小1)を連れて調査したが、体力的にきついため、1メッシュのみの調査となってしまった。
調査初日に、相模原駅前周辺を歩き、3ヶ所で雛のいる巣を見つけることができました。ところが後日、ほかの調査地を歩きましたが、巣を見つけることはできませんでした。駅から離れた住宅地で全く巣を見つけれず、私の調査地域に偶然巣がなかったのでしょうか？調査が不十分だったのかかと反省しております。
今回は日曜日に雨の日が多く、普段の日は仕事が忙しいので、なかなか思うようにまわれませんでした。
前回調査と同じなのはM09.とN09.前回の所をすべて見てまわったかったが時間がなく出来なかった。
近所の猫がツバメ(親)を捕まえて来て庭においてあったとのこと。
今回の私の調査範囲内ではツバメの巣は発見できず、悔しい思いをしました。田名病院の近くの高田橋付近でツバメが飛んでいるのはかくにんできましたが、巣を発見するには至らず残念な思いです。ちゃんと見たつもりですが、見過ごしもあったかも知れません。

ツバメに
対する気持ち

巣を作っている建物の持ち主に会うとツバメに対して温かい目で見守っている人が全てであった。
ツバメの巣は道を歩いていたら見えないような所にあるのが多く、近所の方が教えて下さらなければ見つけられませんでした。でも、感心したのは、巣がある所はそのお家の方も近所の方もとても大切にしている様子がうかがえました。そして、ヒナは一斉に口を開けていてとても可愛かった。
一般住宅では、ツバメの巣を見ることは皆無であった。又、何人かの住民に話を聞いたが、ツバメの巣作りを歓迎しない声が多数あった。
聞き取りもしたが多くの人がツバメにあまり関心がないようでした。
今回は調査対象のツバメ1種しか観察できなかった。人がツバメに特別な好感を持って接していることを今回の調査で実感しました。住宅地の人たちは、ツバメをよく観察していて、巣立った時期やヒナの数まで話してくれるケースが多い。巣は玄関の奥まった場所や、ベランダの下にある事が多く、家人に声をかけないと観察しにくいので、人に会える時間を選んで調査をした。子どもたちが外で遊んでいると聞き易く、巣のある場所も容易に教えてくれます。「ツバメの巣調査に来ました」と声を掛ければこの家にツバメが来ているか教えていただけるので助かりました。

	近くを飛んでいても見つかりにくく近くの人に尋ねると快く教えてくれました。巣づくりをしている家では、その家もツバメに対してやさしくいろいろと配慮しているし、好意的で巣立ちを心待ちにしているようだった。そして安心して親ツバメが雛を育てられるように見守ってくださっている姿を見て本当に嬉しくなった。これでは来年もまた同じ家にやってくるに違いないと思った。 幼稚園等や個人の家でもツバメの子供の成育に協力があるところに巣作りしている様に感じた。当て木を付けて巣を作りやすくしている家もあった。またフン対策で使われなくなったカサを逆さに吊るしたり、下に古新聞をしいたりして、住んでいる人の温かみを感じた。 5年前に巣のあった家、残念ながら当時見落としていた処等、家の人によって色々話を聞くようにしてみた。燕に名前までつけて話しかけたり、挨拶したり、…。巣から出てきて見てくれたりすると、大変親身に見守っている人が多い。(記録を付けている人、夫婦やお孫さんぐのみで楽しんでいる人、その家で赤ちゃんが(人間の)産まれたり、又は病人が出てきたりした年は、こなかった等等) 猫、ムク鳥、鳥など、川沿いの蛇など外敵にも襲われる。或る家では雛を全部やられた3年前の原因が分からず、心配していた。(センターの方に電話で尋ねて色々教えて頂き、早速、お知らせし喜ばれました。)
提案・要望	5年前の調査結果を事前に配布するのは、大変な作業ですね。(私は調査員になって2年目です) 前回の巣の分布状況がわかっているならば、同じ場所を調査して5年後の分布の変化が、はっきりできたのではないかと思います。 ツバメの調査は2度目だが、以前の調査したエリアが変わっていたので、今回気づいたことだが前回の記録を前もって知っていたら調査する際にも参考になることが出来たと思う。(参考方法として検討してほしい) 地図が見にくかった。目印となるものを補記していただけるとありがたい。 さがみはらマップだけで調査区域がわかりにくく、自分で地図をコピーして調査したのですが前もって地域のコピーが記録表と一緒に綴じてあれば調査しやすかったと思います。 分担地図の範囲が不明(わかりにくい)。※目標地点を明確に指示願いたい。・ネームプレートに額写真を入れるか、現状のものであれば腕章などを付けた方が良い。 1回目の子育てが終わり、河原?か何処かに集団で暮らしているとのこと。観察会で見学できると幸いです。・帰燕の前に、その家の周辺にきたり電線にずらっと並んでいたり、色々な習性など、興味が深まります。 同じ調査を数年ごとに繰り返す場合は、できるだけ前回と同じ調査区を受け持った方が、移り変わりがわかると思った。また調査時期と時間も非常に大切だと改めて感じた。
その他	中学生の娘が1日だけ調査参加したことは娘にとっても良かったと思っています。 子どもは喜んでいたので次回も連れて行こうと思います。 燕の飛ぶ青い空の何と平安な日々かとつくづく思いました。たくさん感動を味わいながら観察できました。 今回の調査は自分でも数回に分けて実施したが、「東林野鳥の会」の皆様の協力で詳細な調査ができた。 少し離れたお宅のことを伺っても「知らない」との返事が多く、おつきあいの希薄さを感じた。 旅行中、駅(小田急線、南武線)の構内にツバメを見かけました。 街中では「自然観察員登録証」を持っていないと、不審者と思われるようで、登録証が役立った。 6/末になるとツバメの子供が巣立つ練習で電線にとまっているのが目立つ。 子ツバメがかわいかった。自分の家にも巣を作ってもらうには何をしたらいいのだろうと思った。 ツバメの巣は商店の軒下、しかも正面にあった。(但し、天幕又は軒で外部からは直接見ることはできない。)したがって、一般家屋には見る事ができなかった。 ツバメは車道の人通りの多い人の目のつきやすい場所に巣をつくっていました。天井近くの電灯や換気口、ひさしの上にうまく巣をおわん型につくっていました。二ヶ所で時計まわりに思いましたが、かなり低くスピーディに群がって飛びまわっていました。一つの習慣でしょうか? 前回(平成13年度)の調査では、巣は全て軒下の建物内の作業所、駐車場で外から見られるところは皆無であった。今回は前回と担当メッシュが異なるが幸運にも外から3ヶ所の巣が見られた。また、巣の調査にはタイミングがあり、5月末迄は中空の飛翔が見られたが地上近くを飛び又多く見られたのは6月中旬～下旬であった。これは巣作り、抱卵、給餌の関係と思われるが、巣の多くは一軒家の軒下であり外から見えず人に聞き了解を得て見る以外にない。この為、日曜日の午前中を重点に調査した。 ツバメの巣作り習性として感じたこと (1)外部から見にくい場所 (2)多数の人間が入り出る場所 (3)周辺に泥が得やすい場所がある 公共の建物ではほとんど見られず、民家の玄関先が多い。 幼少時には多く巣作りしている様子が伺われたが、今回の調査で改めて知ったことは民家が新しい為か、民家の軒下には巣を見ることが出来なかったがやっと商店街のお店の軒下に複数の巣を発見することが出来ました。何故民家の軒下でなく人通りの多い商店街を好むのが不思議であった。 ツバメの巣:団地やマンション、ハイム等の住居には巣を作らない。形状が塗料かツバメの好きなものを利用しているのか、巣作りには適正と思われる場所があると思ったが何故か全くない。ツバメの巣は比較的目立たないところ(外敵に襲われるのを考えてか外側から見ると裏側に作っていた)が多い。 毎年巣作りを楽しみにしているお宅が数軒あり、いろいろとお話を伺いました。塗装をしたり、建て替えた所はなかなか戻って来てない様です。また何軒か新築の家が建った所では巣作りしているのが、4～5軒ありました(調査地外)。
営巣場所	

	調査方法も1軒1軒覗いて廻るわけにはいかないので、①ツバメの確認 ②ツバメの好み環境・構造物を重点確認 ③昔からツバメの巣をよく見た場所 等々を留意して廻ってみました。結果としてツバメの巣は1つも発見されませんでしたが、「O27」地区ではツバメ自体の確認の頻度が多いこと、ヒナと思われるツバメが餌を与えられていたこと、近隣に緑が多く餌となる虫も豊富なこと等々からツバメの巣がある確率は高いものと推察します。
環境の変化	住宅地の中では飛んでいる姿をほとんど見かける事は出来ませんでした。最近の家は軒の出の深い日本家屋風の家がほとんど見当りません。洋風で軒のほとんどない家か、あっても60センチぐらいが最大です。それに伴い、ツバメも風雨をしのげず、危険から身を守れない軒のない住宅には営巣しなくなったのでしょうか。 家のつくりの構造が巣を作りにくい形、壁面になっているのかもしれない。 現在の住宅構造物は、ツバメ営巣に適していない様な気がしました。
	マンションのイワツバメ 4月の下旬から、私の住んでいるマンション(3年前の新設)玄関出口の、2階から駐車場に渡る架橋下に、去年から作られた2つの古巣にイワツバメが帰ってきたかと思うと、たちまち大勢の仲間が集まってきて、4月下旬から、架橋の梁とコルゲート構造の床の空間に1つずつ、15個もの巣を作り始めた。われわれマンション住民同様、イワツバメの集合住宅を作ろうとしています。彼らは、約500メートル離れた、工場の駐車場の水溜りに巣の材料の泥を探りに頻繁に出かけていました。その駐車場は去年オオオナモミを見つけた水捌けの悪い河原のような場所で、そこには別の群れのイワツバメが泥を探りに来ていた。(そのツバメを追いかけ別な巣を見つけることが出来た。)雨が降って近くの空き地に水溜りが出来ると、その泥を採って運んでいた。また、草むらの小さな枯れ草も啜って運んでいた。巣作りの最中は高架下のアスファルトの黒い通路は茶色の土に汚れ、清掃係員は毎朝水で洗い流していたが、5月下旬頃より土の汚れは少なくなり、6月に入って、土に代わって白と黒の混じった糞が目立つようになった。その頃、巣の中から、雛が口をいっぱい開けて親ツバメから餌をもらっている姿が目立ち始めた。夜中の暗闇の静かな高架下で耳を澄ますと、ピーピーグジュグジュとにぎやかな巣の中に子ツバメたちの声が聞こえていた。朝になると親ツバメ達は、架橋下に群がって巣に出入りし、出社に急ぐマンションの住人の頭すれすれに飛び交います。近くの公園の芝生の上をすれすれに飛んで餌の虫を獲って巣に運んでいきます。午後には20～50メートル上空を10数羽のイワツバメが飛び交い、時には32階のマンションより高く、100メートル以上の上空を飛んでいることがあります。あのような上空に餌となる虫など居ないのではないかと思います。何のために高空を飛び回るのでしょいか？一仕事終えて、自らの飛翔能力や敏捷性を確認しているのでしょうか？飛んで遊んでいる様に見えるが、遊ぶことを知っているのでしょうか？あんなに忙しく架橋下を飛び交っていたツバメたちがぱったりと見られなく成る時があります。子供を放って、皆でどこに何をし、行っているのでしょうか？だんだんと判らないことが多くなってまいりました。 I 巣の探し方が判らなくなった時期(6/8 調査地域にて) ①巣の探し方もわからないし、あまり馴染みのない調査地域の町並みの中で戸惑った。②ツバメ、イワツバメの飛ぶ姿は見つかるが、巣はみつけれなかった。II 調査地域の住人の方の情報(6/19 調査地域にて) ①調査地域の住人の方が、ツバメの巣情報を集めて下さり、案内して下さい。②さらに、その方が、営業しているお宅の方たちから聞き込み調査をして下さった。③モルタル玄関軒下に巣があり、毎年来ていること。III 巣の探し方の要領がかわった時期(6/20～6/23 調査地域及び近く周辺) ①モルタル玄関で囲いのあるタイプの軒下で多く巣が見つかった。(道路から直に見えないので軒下に入ってから覗き込む必要がある。不審人物と思われそう。)②古い木材家屋よりむしろ新しいモルタル材家屋で多く見つかる。③道路から丸見えの巣も少しはある。この場合、車や人の出入りの多い場所(商店など)、という印象がある。IV 新たな巣の発見(6/24～6/30 自宅周辺) 自宅周辺の、ツバメの巣を意識した散歩を繰り返した。①見張り番のツバメから新たに巣を発見できた。・軒下の電灯の上などにツバメがじっとしている。・電線の定位置にとまてなき続ける。・・・これらが見張り番のツバメで巣はその近くにあった。②巣立ち雛が集まるとまっている電線から巣を発見。・・・巣立ち直後だったらしく、近くの軒下に巣があった。 V 空巣と思っていた巣での発見(6/29、6/30 自宅周辺) 空巣と思っていた巣も、折にふれ観察を続けたところ、①巣からツバメが飛び出してきた。・・・2回目の抱卵か？②夜8:00空巣と思っていた巣にツバメ2羽が寝ていた。・・・ねぐらにしているのかもしれない。VI 調査終了後の感想 ①以上の経験、知識を持ってメッシュ調査に臨んでいたらもう少し充実した調査報告ができたと思う。②遠い調査地域へは何度も調査に出向けない。③新建材のため、巣が固定できず落下するのか、人間が撤去するのかは、巣跡だけでは判断不可。本当は聞き込み調査ができれば理想。VII 今後の課題 自宅の軒下にツバメの巣があれば発見も多いだろうが、他人の家の軒下はそう頻繁には覗き込めない。今回の調査で発見しつつも生まれた疑問も少なくなかった。求愛給餌等の求愛行動→巣作り→抱卵→孵化→巣立ち→成鳥 ・各々のステージでの様子、期間、その間のねぐら場所は？・ツバメの起床時間と就寝時間は？・メスは一日中抱卵しているのか？オスと交替するのか？・オスが見張りをしている時期は抱卵→孵化→巣立ちの間なのか？・第1回目と第2回目の抱卵時期と期間は？ 部分的には観察しているが確認しきれない。次回可能ならば、4月頃から、今回わかった巣を手がかりにして調査できるかもしれない。 ツバメ調査を終えて 調査できる日数は、都合と天候のため2日のみとなってしまった。しかも5月15日(月)、6月25日(日)と1ヶ月以上も空けてしまい、経過観察ができなかったのが残念である。

①5月15日(月) あまり収穫のない観察日となってしまった。この日は月曜日なので、営農センターが稼働日で中に入れたのが幸いだったが、巣がないことを確認したつまらない結果となってしまった。まわりの畑の空には沢山のツバメが飛び交っていて農地の中にボツンとある建物。きっと巣があるのではと、期待したのだが、ツバメはスチール製の建物が嫌いなのか、もしくはボツンと建っている建物は嫌いなのだろう。H5の道路の上に低く飛ぶツバメを見掛け、黙視追跡。パーマ屋の自宅の玄関に巣を発見。一安心だった。ツバメはよく飛んでいるのだが、G5では巣を発見できず、G6では予想通り小学校の校舎に岩ツバメの巣を多数発見。出入りする巣をいくつか確認できるのだが、古巣も多い。下を見てフンでは、と思ったのだが、時期が早いようでそう多くは落ちていない。巣に戻ってもすぐに飛び立ってしまい、巣を作成(補修)中というように感じられた。巣を見つけるのは至難と思った1日であった。岩ツバメに関しては、前任校の大沢中に沢山毎年来ていた。しかし、ある年、鳥の襲撃に遭ってから、移住したのか殆ど来なくなった経験もあった。また、岩波書店『自然環境との付き合い方6』『村の自然をいかす』のP.104中で、下記の記載がある。「昭和になってから、ツバメのいない地域にツバメを放して定着させ、害虫防除を行おうという試みが農林省によってなされた。…(省略)…イワツバメの雛が長野県から浅川(東京都八王子市)の鳥獣実験場(森林総合研究所多摩森林科学園)に運ばれ、ここで人工飼育させて放された。放鳥は1928年から始まったが、1931年に鳥獣実験場にイワツバメが戻ってきてから、1933年には八王子市の民家、1934年には国鉄日野駅と巣作りをするものも増えていった。現在のJR中央線高尾駅でイワツバメが繁殖するようになったのはこの時からである。」(文献:石井時彦(1935):イワツバメの移植に関する調査成績,鳥獣検査報告,八号,農林水産山林局,pp.1221-151)

②6月25日(日)さすが日曜日、対話をしながら充実した観察日となった。G5に直行……巣立った後という感じ。イワツバメの飛来すら観察できなかった。H5パーマ屋の玄関……やはり巣立った後という感じ。しかし、付近に沢山群れて飛んでいる。じっくり観察していると、②の地点の住宅の方へ。なんと玄関の天井の目隠しの裏に営巣。目視で追跡しないと見つからないような処に巣作りをしている。ツバメも良く巣の場所を考えて作っています。沢山群れて飛んで、親子入り混じっている感じがしました。ここでは、人の話が聞けず、③へ移動。

③の地点で目視で追跡、今度は駐車場の天井の目隠しの裏。家の住人に断り、じっくり観察写真撮影。2回目の巣作りという話。ここで、④の巣のあり場所の話聞き、④に移動。ここの通りはツバメの巣銀座という感じ。あちこちの家のこんな所によい感じ沢山の巣がある。dの家で断り写真撮影。もう数日で巣立つという感じ。良く餌を与えに来るので、良い写真がゲットできた。番でなく3羽目が来たりして。これは今年の見習いの子どもか?この地区②③は、集団(親子)で子育て中という感じがした。

⑤の大通りの家の玄関にも営巣。門灯にとりカメラを向けても物怖じしない。人に慣れている感じがする。G5に移動。……教人に話を聞くが、この辺で巣は見掛けないという話。さんざ歩き、目視で追跡しやっと1つの巣を発見。2階建ての天井の裏に営巣中。家の人と話すことが出来た。巣作りしてあまり日が立っていないとのこと。この辺の人の家は新しく、巣作りを始めると殺虫剤をかけたり、巣を壊してしまうという話。ツバメもそれでは避ける!!

まとめ1. 玄関などの天井の目隠し裏に営巣しているものが多い。目視で追跡しないと見つけにくい。大変でした。

まとめ2. 2回目は、集団で子育てという感じでした。

追加: 清新中付近でも、良くツバメは良く見掛けていた。7月8日(土)アイワールドに買い物に行き、歩道橋の上でツバメを目視で追跡。何と、向かいのビルの2階の排気口の上。

○調査対象 帰化植物（セイタカアワダチソウ）とテントウムシ

分類	項目	内容
	新たな発見	今回、セイタカアワダチソウとテントウムシで調査場所が異なりましたが、当初ややとまどいました。けれども、一度下見をして、新しい場所（エリア）の確認をしました。通常と異なるエリアも新しい発見があっておもしろいと感じました。 今回のセイタカアワダチソウ、ススキの調査担当メッシュは前回（平成13年度）と異なり、大工場、事業所、病院等が相当面積を占めて居り、それらを除いた歩ける処は全て歩くことになった。場所によっては1枚の調査票には記入出来ず用紙を追加したメッシュもあった。広範囲に歩いた為か数少ないオナモミ、アレチウリの自生が確認出来た。 帰化植物のたくましさには今回も驚かされる。河原へ下りる途中、崖のコンクリートブロック？の僅かな隙間に点々と3本あったアワダチソウ。斜め又は天へ向こうと茎がうねっていた。見とれてしまった。
	嬉しかった	家と家の間にセイタカアワダチソウを見た時、何だか嬉しかった。 拒当地区では新築住宅地となった処や廃屋となっている処なども見られる。荒地となった処へのコンクリート庭作りの家々にでもちよっとした隙間に（1本～群生）アワダチ草がまだ残っていた。次第になくなりそう。 テントウムシも調査対象種は発見できなかった。虫の採集についても前回と比べ大幅に減少していると感じた。
	環境の変化	テントウムシ：いかにように捜してもみつかりませんでした。パソコンで住み家を調べたのですが写真ではいずれも葉の乗ったものでしたので、天気の良い日中を選んで見たのですが全くだめでした。今迄はどこにでもいると思っていたが、いざさがすとないことは環境の変化か時期がわかったのか、捜し方が悪かったのか？わかりません。 テントウムシについて今回は幼虫やサナギが多く、成虫はあまり見られなかった。カナムグラ、カラスウリ、ワルナスビ、アメリカイヌホオズキ、ジャガイモなどいそうな草をよく見てさがした。休耕地や休耕地が増え、田名バーディから塩田にかけて用水路沿いの道は草ボウボウの所がかなりあった。セイタカアワダチソウ・ススキは自宅の庭にもあり、ススキは植えたものだが、セイタカアワダチソウはいつのまにか生えている。 いつも思いますが、今回も空き地や畑地そして川べりまで家がたち益々虫や自然の植物の居場所が少なくなっているのが本当に残念です。自然の草花を自然のままで残したいですね。現在は秋の七草を近くで見つける事は本当に不可能なのですね。さびしいです。 相模原市の自然が回復し、住み良い自然環境が保たれていくためには、基礎調査を継続的に続けていかなければならないと痛感しております。相模原市立環境情報センターの小林さん、小泉さんには、調査資料の配布や説明等熱心にご指導頂き、誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。
	疑問	テントウムシ；私の観察方法（主に雑草地を虫とり網でさがした）に問題があったのか、ほんとうにいないのか、又は観察時期に問題があったのか、又は天候（快晴のち曇り）のせいかなをはっきりしたいです。 セイタカアワダチソウとススキとの共存関係は今回の生息地調査で初めて知る事が出来た（しかし何故、共存なのか知りたいですね）セイタカアワダチソウは在来ではなく外来種とばかりと思っていました。そこで、前々回の調査のタンポポに於いても同様疑問なのは何故、在来種は虚弱、外来種は強弱なのか、いずれも人間が国内に持ち込みから始まった筈が何故なのか疑問を感じました。相模原市の外来生物（資料参照）を見ても植物、哺乳類から始まって昆虫迄の7種類迄に及ぶいずれも在来種よりも強弱なのかである。 セイタカアワダチソウは同じような空き地でもたくさん生えている所もあれば全く生えていない所もあった不思議に思った。住宅街はあまり生えていなかった。 セイタカアワダチソウは今回すごい場所がありましたが私達の小さい頃はこれがぜんそくの要因になると教えられ刈り取りましたがそうなんでしょうか？
		今回もテントウムシには悩まされました。前回は一匹だけ発見することができましたが、今回は一匹もお目にかかることができませんでした。思うように時間がとれず、十分な調査ができなかったことが原因ですが、小さな虫を探すのは相当たいへんなことだと思います。皆さんお疲れ様でした。 アワダチ草とともにてんとう虫が1匹も見つからず、1日中くたくたになるくらい細かく歩きました。しかし見つかりませんでした。家の落葉の中に1匹やっと見つけただけでした。 セイタカアワダチソウは目立つし、至る所に生えているので見つけるのが楽だったが、ススキとオギの区別がよくわからなかった。どれも教えて頂いた特徴から、オギに思えたけれどどちらがうかもわからない。テントウムシは目を凝らして探したけれど見つからなかった。いろんな人に「テントウムシ見ませんでした？」と聞いて歩いて、まるで「不思議の国のアリス」になったような感じ。とても疲れました。 緑道はツツジとツバキが主でテントウムシが見当らなかった。 てんとう虫の調査は5日間実施しました。調査区域の全域をくまなく歩き、見て廻ったのですが…。予想していたよりも発見できませんでした。てんとう虫が見つからないと「調査をしていない」、「調査の仕方が悪い」と思われる？ので必死になって探しました。見つけた時はほんとうに感動しました。 テントウムシは自宅の庭のみで見られた。他もよく見たつもりだが見当らなかった。庭師さんなども今年はテントウムシが少ないと云って居た。我が家の庭は手入れが悪くアリマキだらけなのだろうか？ 「テントウムシ」調査は、虫とり網を持参し調査したが、発見出来ず気苦労しました。空き地は刈り込みされている場所が多かった。当調査地域は桑畑が多いので対象外の「キイロテントウ」を調査しました。

苦労しました	テントウムシの発見にはとても苦労した。その理由は、対象種の大きさである。鳥や蝶のように、広く見てはダメで、植物の一枝一枝を観察するしかなかった。スーピング法も試したが、無駄であった。2つ目の理由は、分布が局所的であった。対象種の大きさからすると当然なのかも知れない。他の観察員も、かなり苦労したと思われる。そんな中で、発見した時はとても感激したものである。「オー、やっと見つけた！」というのが、今回の正直な感想である。 ススキとオギの見分けがつけにくく、よくなりました。1本ずつ生えているようなので「オギ」のようだが、「ススキ」が数本ずつのすき間がややあいて生えているのか？穂を見てもどれが「ノギ」なのか決め手がなかった。穂の色も白かったり銀色だったり紫がかっていたり。見分け方が悪かったのかとも思いました。考え抜いたあげく、数本以上で束になって生えていて下部の葉も枯れていないものが「ススキ」として観察をまとめました。自信のない観察となってしまいました。テントウムシは2箇所しか見つかりませんでしたが、いずれもが畑の側で見つけました。草地や更地の草むらで虫取り網であおったり枯れ葉を ひっくり返したりしましたが見つけれませんでした。畑の中には入ってゆけないし畑のそばでさがすのもためらいがちでした。 テントウムシの調査は、意外と難しく、捕中網を使用して探したがなかなか見つかりませんでした。その代わり、同じ箇所に多数の個体を発見することができました。小学1年生の息子も大興奮でした。 テントウムシの調査はめばしいところをゆっくり探して見ましたが、なかなか発見できず、数回、同じ場所に出かけました。対象が小さいものは大変でした。 テントウムシ調査の方が時間より注意(観察力)が必要でした。 テントウムシやクモは歩いて調査するのでは中々発見出来ない。タンポポやセイタカアワダチソウの横に歩いて見えるものの方が全体調査には向いていると思う。 あまり行かない地域の調査は自分のいる位置が分からなくなって大変だった。 !!テントウムシを見つけるのは大変!!家の庭でイヌホウズキにニジュウヤホシテントウが5匹位たかっていた。まず、食草のナス科の植物、カラスウリを探しテントウムシの発見に努めたが、食草はあまり目につかなかったし、見つけた食草も人家の庭にあたりで、しっかりテントウムシを採せなかった。 調査地の陽光台、緑が丘は七曲の坂を自転車で登って行かなければならないので大変。自転車では5メッシュは広すぎ、充分調査しきれない。3メッシュ位が適当と思われる。 セイタカアワダチソウとテントウムシの調査を同じ日にやったので時間が思ったよりかかった。 テントウムシを見つけるのがたいへんでした。
残念でした	テントウムシは、10月12日、16日調査したが発見出来ず残念でした。 どこにでも見られると思ったテントウムシがどこにも発見できなかったのにはショックでした。 10月12日にセイタカアワダチソウの調査時テントウムシを見なかったのが後日、別に行うことにした。10月26日にテントウムシ調査を集中的に行ったが全然見つからない。もう越冬の準備に入ったのかと倒木、積み重ねた木材、石の影などを調べたが居なかった。調査日が悪かったのか、本当に居ないのか？小さな虫を探し歩いて全然見つからないと消耗感深い。テントウムシを調べるイミは何なのだろうかと思ってしまった。10月26日は暖かい日でミツバチ、ハナアブ、シジミチョウ、キチョウ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモンなどが見られた。テントウムシが出ていても良さそうなものだが…。 調査対象のセイタカアワダチソウ、ススキは遠目で見てもすぐにわかるが、テントウムシはまったく見つけることができなかった。テントウムシの生態について書店・図書館で調べたが調査地域と関連するものを見ることはできなかった。 テントウムシは比較的我々の生活の身近なところで見掛ける事が出来るものと安易に思っていたがこれ程生息している場所が見当らずに残念！果たして、テントウムシにとって、我が担当のメッシュのみが特異な場所なのかと一瞬、想う程に…最後まで観察が出来なかった事は残念。生息調査を終えて我が家に戻り、我が家の庭の夏みかんの木にはバダリアテントウムシと思われるテントウムシを発見には些か皮肉たっぷりとも思われた。 テントウムシは全く発見できなかった。一日のうちでも活発に活動する時間帯があるのであろうか？そこをはずしてしまったのかも。 テントウムシは2日調査したが見つからなかった。公園や森でスーピングをしてみたら小さな虫は取れたがテントウムシは取れなかった。農家の人にテントウムシを見るか聞いてみたら、夏には見るが今の時期は見ないと教えてくれた。いそうでないのが残念だった。 天道虫はどうしても見つけれませんでした。すみません。 「テントウムシ」の分布調査は今回時季が悪かったのか各所で探して見ましたが全然見る事が出来ませんでした。 てんとう虫:調査方法が下手なのか皆無であった。水道道路、遊歩道、つるまの森など条件が良い筈なのに見つけることが出来なく残念であった。 テントウムシ分布調査:「H15」の我家の植木に9月上旬頃までは沢山いたが、9月中旬頃から少なくなり調査期間中はまったく姿が見られず冬眠に入ったのか？付近を捜したが見つけることは出来なかった。他のブロックも住宅地域のため捜すことは出来なかった。 テントウムシはみつかりませんでした。以前には冬の日だまりの時、暖かいコンクリートの建物やへいにつながらているのをみかけましたが1匹もみつけれませんでした。残念です。 今回の帰化植物及びテントウムシ分布調査に充分な時間が取れず、調査2回も短時間しか調査できず不十分な報告となり残念です。
感想	ススキが全んど見られなくなった。(前回調査時はちよつとした空き地の回りにかなり見られたが、今回、駐車場の回り等には全んど見られなくなった) 今回の調査でアワダチ草が多かったこと、自分の調査の中ではむかし多く見たすすきがずいぶんなくなっています。(私は地方生まれなので) ススキが以外と少なかったと思う。住宅地区内の貸し農園も夏野菜から冬への入れ替え等で虫を見つめるのはむずかしい。歩いた割に収穫がなかったことと空地が年々なくなっているのを感じた。

	ススキは昔はあちこちで見つけましたが、思ったより少なくなっていますね。子供のころ、ススキの穂で(みみずく)を作ったりしましたが、今の子供は作ったりはしないのでしょうか(材料が入り手難?) 境川沿いでは、ここ2、3年、セイタカアワダチソウが勢いを盛り返しているかのように目立ってきました。ススキはもともとあると思っていたのですが、人の手の届かない河原(フェンスの中)や斜面にはありますが草地が減って少なくなりました。林内も少ない。
セイタカアワダチソウが少なくなった?	セイタカアワダチソウも数本ずつ見られる程度で大幅に減少していると思われる。 全体を通してセイタカアワダチソウの数は少なくなっている。最後に神沢河原周辺に行き大群生を見た。(当日、カメラを持たず残念でした。) セイタカアワダチソウはあちこちにありましたが、以前より量的に少なくなってきたようですし、高さも低いような気がします。テントウムシを見つけようと努力しましたが、私の都合でゆっくり時間をかけて回れなかったからテントウムシは観察出来ませんでした。畑に人が居たら声をかけてテントウムシの様子を聞いたりしましたが、畑では見かけないと言われました。昔だったら(田舎-青森-実家は農家)畑とか草ムラ(雑草)なんかにたくさんいたような気がします。
生育環境	セイタカアワダチソウ:調査区域内ほぼ全域で見つけることが出来た。しかし、整地等されればなくなるような状態であった。 ススキ:水道道路、遊歩道、つるまの森に見ることが出来なく、ただ1ヶ所住宅内に見られた。 住宅地にはセイタカアワダチ草はほとんどなく、田んぼの土手、畑のあれた所(耕作していない)に多く茂って咲いていた。
その他	テントウムシでは10月22日セイタカと歩いた時のスーピングで殆どつかまえられず。10月中旬家の工事などで出られず、後半の晴れた10〜2時だけ歩きました。分からないのはフィルムケースに持ち帰って博物館でもいなくてはダメかなあ〜と思っていたのですが、地域文庫の子どもたちに聞いたら、これは幼虫、これはナミと小6の虫博士に出会い解明しました。そして、アカネ科学のアルバム「テントウムシ」(佐藤 有恒著)を見るよう指示されて、幼虫の何令か蛹化したものか分かるようになり、又、お天気も幸いして少し見つけることができてホッとしました。成虫、幼虫分けて記入し、数には入れています。 プランターにセイタカアワダチソウを生やしている家があった。元々観賞用だったということ思い出して妙に納得した。同じプランターに別な植物も植えてあったがアレロパシーは平気なのか気になった。 地図が前回と違ってわかりやすく、調査しやすかったと思います。ありがとうございました。 調査で歩いている時に地域の人から、「花粉症の花の調査ですか」と聞かれました。ブタクサと勘違いされている人が幾人かいた。 頂いた拡大コピーの地図でとても助かりました。 ススキを園芸用として栽培している所があった。 テントウムシのいる所(農園・畑)には門がついて鍵がかかって中に入れなかった。 消防署分室が無人なのは不安である。1人は在室して欲しい。練習用の塔も足元がサビている。こんな所に手抜きをしてはならない。必要な所にはお金をかけて下さい。中央だけが良くならないように、せっかくの野火止めも駐車場となりガソリンを積んだ車が置かれている(役に立つか?)。市町村合併は地方を良くしなければならぬ。市長は地方の隅々まで公共の交通を使って見廻るべきである。藤野や相模湖の人々のご苦勞を市長は肌で感じて欲しい。 調査結果を利用している部分もあるのですが、刈り取りなどしなくてもよいのかなとふと考えてしまいます。 セイタカアワダチ草の調査は担当地区を回覧しているときに捜すことが出来ました。開花により判断できました。 調査範囲に限られているようです。一般開放の公園にしました。個人住宅の外壁でも調査するわけにもいかず又公園等の公共と思われるところでも芝生に入らぬような看板が掲示されていると調査対象で許される範囲がぐんと狭まりました。皆さんどんな場所、どんな方法で調べたのか知りたいものです。 セイタカアワダチソウはすぐ見つかりましたが、テントウムシは小さいので調査しにくい生き物だと思いました。 2001年〜2004年の3年間、宮崎県都城市に住んでいました。宮崎自動車道(高速道路)の側面はセイタカアワダチソウが群生しており、あまりの繁茂している状況を見てびっくりしました。植物には興味がなかったため、その時初めてセイタカアワダチソウの名前を知ったものです。今回の調査で改めてセイタカアワダチソウがこんなにも繁茂していることを知りました。 セイタカ、ススキは相模線南橋本駅線路沿いに多数有り。 子供の情報によると旭中学・旭小学校でナナホシテントウを目撃したとのこと。また、橋本4丁目にある公園内の公園でも見つけたと聞きました。 セイタカアワダチソウは11月上旬まで黄色花が見られました。手入れのされていないアパートや民家でも数本はえていましたが、ススキは広い場所で見られませんでした。
楽しかった	天道虫は1匹も見つける事ができなかったのですが、小さな小さなカタツムリやカメムシ等を見る事ができました。ふだん、虫に出会う事が少ないので楽しい思いができました。 10月15日がセイタカアワダチソウ満開の時期ということが今回の調査で分かった。おかげさまであちこちでセイタカの黄色いアワダチを楽しませていただきました。 中旬頃に調査をしたのでどこも花盛りであった。 セイタカアワダチソウは10月12日でかなり花盛り。これから咲くものも姿・型で間違いなくそれとわかる。10月26日には花の終わりがけているものやすっかり刈られている所もあった。調査の時期は大切だと思った。

	調査方法等	同時にテントウムシの調査を行ないましたが見つからず困りました。やり方がまずいのか、場所がまずいのかと不安でした。近くの農家の人にテントウムシを見かけませんかと聞いたら夏場はナスやジャガイモ畑に沢山いた。しかし今は見かけないと言われました。やはり、観察時期が適当でないように思います。 調査日は少しずいずいしい事もあったのかテントウムシは見当りませんでした。又、少し時間が過ぎたら調査してみます。 セイタカアワダチソウ(帰化植物):帰化植物であるセイタカアワダチソウの調査は2回目になります。前回は2001.11.6~12.10日までであったので、調査時期としては少し遅いのではないかと思います。今回の調査時期が10月中旬ということで、黄色が目立つ花盛りと丁度時期が合致し大変調査がやりやすかった。双眼鏡を使い調査をやっているが、遠くから肉眼で眺めても良く判別できました。大変良かったと思います。調査地メッシュの全部で確認できました。調査をするという意欲が沸いてきました。 セイタカアワダチソウ及びススキの調査は、花の目立つこの時期に行ったので、非常に調査がし易かった。 毎回同じ所を見てしまう。他人の家やクローズされた所は見ることができない。定点観測という意味では同じ所を見ることも良いことか! 日程が1日しかとれなかったため、すべて1回で済ませたが、少なくともテントウムシと植物を1度に調査するのはかなり無理があると思った。 何ヶ所かでネットを使ってピーティング、スウィーピングをやってみたが、あまり意味がなかった。市街地だったせいかもしれないが、今回のような調査では補助的な手法という気がする。 調査前に「google map」の航空写真で緑がありそうなポイントをチェックしておき、そこを重点的に見るルートを自転車で移動した。結果、かなり効率的な調査が出来たと思う。インターネットが使える人にはおすすめです。
	提案・要望	テントウムシ:前回は2001年9~10月にかけて調査しましたが、今回は10月中旬であり、驚いたことに、各メッシュともテントウムシの確認が少なかった。係の捕中網を借りてテントウムシを探したが、思うように個体が発見できなかった。私の捕獲技術の未熟なのか、探す場所が悪いのか、それとも今年はアブラムシの発生が少なくこれを餌にしているテントウムシがいなかったのか、さらに調査時期が良くなかったのかよくわかりません。相模原市内にはテントウムシが40種類も生息しているとのことですが、調査地のメッシュ内では数種類しか確認できなかったことは、誠に残念です。春の調査はどうか。「ありそうな場所へ行って調査する」という方法なので、調査したポイントは必ず記録し、「個体数=ゼロ」という記録を残したほうが後々役立つと思う。 2種類の調査を同時に行うことは、調査票の記入や道具の持ち運び等の負担が大きく大変なので、時期を分けて行った方がよいと思います。 メッシュの全体地図はあまりにも見にくい。もう少しみやすい地図にしてほしい。分割の図も目標となる建物、店等の名前くらい入れてほしい。又は地番を! 今回の調査時期が10月15日前後と言う事で私個人の予定もあり10月10~15日の日程で調べました。植物部会の観察会が17日にありました。秋山先生のお話でススキとオギの違いがよくわかりました。見分け方がわかっても調査済みなので生かせませんでした。手引きの図説を事前に見たのですが「小穂」がわからず「房」と勘違いしていました。できれば調査時期前に観察会があったらと思うています。 青山学院大学では、セキュリティ上の上のとても困惑されていました。突然の来訪ということで地域渉外課の方が対応くださり、「観察員登録証」と調査票のコピーをとられました。(春のツバメ調査は守衛の方に聞き取りをして提出しました。)その上で許可いただきましたが、発見することは出来ませんでした。次回以降は対象からはずしていただければと思います。
	勉強になった	今回は子供も土・日曜日に調査することができ、これがセイタカアワダチソウという植物だということがわかり、親子共々勉強になりました。 ススキ:初期はススキとオギの判断は資料の図により中央に1本長く突出しているのが判断していました。10月17日の河川敷の観察会で花種の中での花にそれぞれ突出しているのがあるかないかによりススキ・オギであることを知り、今回の調査は10月17日以前は全てススキと判定しています。 今回の調査にて「ススキ」と「オギ」の違いが判明し、知識が一つ増えました。今までは「オギ」も「ススキ」と思っていました。
		セイタカアワダチソウに関して(含・ススキ):以前に比べセイタカアワダチソウの大群生地が減っていると思います。理由としては土地利用形態の変化やアレロパシーの影響だと思います。但し、その割にススキの進行が一部地域(小田急線の土手等)を除いて少ないのも意外でした。 今回の調査では、カナムグラにナミテントウやナナホシテントウが多く見られた。セイタカアワダチソウも比較的多く見られた。(前回の調査では、ヨモギやコセンダングサなどにも多く見られたが今回は見つけることができなかった)今夏の長雨のせいかテントウムシの出現が遅いようだ。10月16日の調査ではほとんど見つけることが出来なかったが、幼虫や蛹(主にナミテントウ、ナナホシテントウ)が多数見られたので、10月の末に調査をしたら比較的多く見つけることが出来た。なお、1カ所については幼虫や蛹が多数あったので11月4日に行ってみたら20数匹も見つけることが出来た。(ナミテントウ、ナナホシテントウ) セイタカアワダチソウやススキは身近にたくさんあるものと思っていました。しかし、野原が少なくなった為か予想以上に少なかった。相模川川原の開けた場所では、相変わらずセイタカアワダチソウやススキを見ることができた。

考察	環境の変化	テントウムシは4月には多数見られたものが、それ以降は農作業でも全くと云って良い程見られず今年度の天候の為に4日に亘る調査でも1ヶ所のみ3種類が、しかも一定場所でのみ見られたのみであった。この狭い処のコセンダングサ、ヨモギ、カナムグラに留まって居り、この内、コセンダングサ、カナムグラには成虫が幼虫と共に居ると言うことは気候の関係で成虫になるのが遅れているのか？と感じました。 以前の調査区は麻溝地区で非常にセイタカアワダチソウが多かったが、今回は市街地で、ススキ、セイオタカアワダチソウともほとんどなかった。空地にセイタカアワダチソウが生えると、いかにも管理が悪く見えるためか、駐車場にもあまり生えていない。線路わきについても思っていた以上にセイタカアワダチソウは少なく、ススキが勢いをもりかえしているように感じた。テントウムシについてはかなり細かく探したつもりだが、どの区でも全く発見することができなかった。時季のせいかな天候のせいかわからない。 私が担当しているA04～A06は、相模原(旧地区)の北西の部分で境川沿いのところですが、セイタカアワダチソウの群生地はほとんどなく、ただ1ヶ所川沿いの部分で発見しただけでした。他のところは空き地に数本生えているのが大部分です。又、ススキについてもほとんど見当らず、自宅の庭や空き地に数本あるのを見かけたただけでした。尚、広い空地はほとんどなく、宅地化の進み方が早いのを実感しました。 黄色の花が美しいと感じる喜びもある反面、在来種の成育が押さえられ、帰化植物が繁茂することに危機感もあり、これでよいのかと考えさせられた。去る10月15日(土)～16日(日)に古希のお祝いに生まれ故郷の長野県へ中央高速道路を高速バスで通過した時(談合坂付近一帯)、道路の両側の法面がびっしりとセイタカアワダチソウの黄色い花で覆われており、隣の女性は大変美しいと感激しておられた。以前はこんな光景は見られなかった。一気に覆い尽くすその繁茂力の凄さに驚異をおぼえました。私はこの帰化植物は在来の植生を乱すものとして歓迎しないと考えておりますが、人それぞれ花に対する感じ方が違うものだとも痛感しました。アレロパシー(他感作用)が今後どのように作用して植生が推移していくのか、大変興味があります。
	生育環境	今回の、成虫の確認種は圧倒的にナミが多かった。ナナナシは2匹、ニジュウヤホシは1匹の確認だけである。ジャガイモを育てている畑も少なくなく、虫に食べられた穴が空いているジャガイモの葉は多数あったが、ニジュウヤホシに特徴的なレース状の食痕は畑の隅の1箇所だけであった。散布される農薬のせいだろうか。ナミテントウを発見した場所の農家の人の話では、その畑は農薬は使っていないという話で熱かった。(H06)コスモスが1列に道端に植えられているのだが、そこでさえ数株のコスモスに、テントウムシの存在は限られている感じであった。 ・セイタカアワダチソウ、ススキは探すのが易しかった。・テントウムシは思いの外、ほとんど探せなかった。以前の調査の時と場所が異なっていたこともあるかと思うが気温などの条件がテントウムシにとって不都合なのかもしれないと思った。以前の時は日差しがボカボカと暖かい日でアブラムシのついた草を探すとナナホシテントウやナミテントウが簡単に見つけられた。今回はアブラムシのついた草自体あまり見かけなかった。10月30日(月)三段の滝広場付近で芝生の上にナナホシテントウが一匹いるのを見つけた。もしかすると暖かい日に草の根元や地面付近を探すといたのかもしれないと強く感じた。 テントウムシは時期がよくなかったのか、農薬等で少なくなったのか分からないがほとんど観察できなかった。

平成19年3月発行

平成18年度 相模原市自然環境観察員制度 年次報告書

(発行) 相模原市 環境保全部環境対策課 環境情報センター
〒229-0036
相模原市富士見1丁目3番41号
TEL 042(769)9248(直通)
FAX 042(751)2036(直通)
電子メールアドレス: kankyou-center@city.sagamihara.kanagawa.jp